

NETGEAR®

R6300

デュアルバンド・ワイヤレスルーター ユーザーマニュアル



2013年10月
202-11334-01

サポート

NETGEAR 製品をお選びいただきありがとうございます。

NETGEAR 製品のインストール、設定、または仕様に関するご質問や問題については、下記の NETGEAR カスタマーサポートまでご連絡ください。無償保証を受けるためには、本製品をご購入後 30 日以内にユーザー登録が必要になります。ユーザー登録方法につきましては、別紙 [ユーザー登録のお知らせ (ユーザー登録のお願い)] をご確認ください。

NETGEAR カスタマーサポート

電話：フリーコール 0120-921-080 (携帯・PHS など、フリーコールが使用できない場合：03-6670-3465)

受付時間：平日 9:00 ~ 20:00、土日祝 10:00 ~ 18:00 (年中無休)

E-mail：support@netgear.jp

テクニカルサポートの最新情報は、NETGEAR の Web サイトをご参照ください。

<http://www.netgear.jp/support/>

商標

NETGEAR、NETGEAR のロゴは米国およびその他の国における NETGEAR, Inc. の商標および登録商標です。記載されている情報は予告なしに変更される場合があります。© NETGEAR, Inc. All rights reserved.

目次

第 1 章 ハードウェアのセットアップ

同梱物の確認	8
各部の名称とはたらき	8
全面と側面	9
背面	10
ラベル	11
ルーターの配置	11

第 2 章 使用開始

ルーターセットアップの準備	13
標準 TCP/IP プロパティを DHCP に使用する	13
プロバイダーの情報を集める	13
ワイヤレスデバイスとセキュリティ設定	13
ログインとアクセス	13
NETGEAR Genie のセットアップ	14
インストール後に NETGEAR Genie を使用する	15
ファームウェアのアップグレード	16
ダッシュボード（基本ホーム画面）	17
ワイヤレスデバイスまたはコンピューターをネットワークに追加する	18
手動接続	18
Wi-Fi Protected Setup (WPS) 方式	18
デスクトップ NETGEAR Genie アプリとスマートフォン用 Genie アプリ	19

第 3 章 NETGEAR Genie 基本設定

インターネットの設定	21
インターネット設定画面の項目	22
ペアレンタルコントロール	23
基本的なワイヤレス設定	25
ワイヤレス設定画面の項目	27
ゲストネットワークの設定	28
接続デバイス	30

第 4 章 NETGEAR Genie 高度な設定のホーム

NETGEAR Genie 高度ホーム画面	32
インターネット接続セットアップウィザード	32
WAN 設定	33
デフォルト DMZ サーバー	34

MTU サイズの変更	35
LAN 設定	36
LAN 設定画面	37
DHCP サーバーとしてのルーターの役割	38
アドレス解決を設定する	39
ワイヤレス接続用の WPS ウィザード	39
QoS 設定	40
Wi-Fi マルチメディアの QoS	41
インターネットアクセスの QoS を設定する	41

第 5 章 USB ストレージ

USB ドライブの要件	46
USB ストレージデバイスをルーターに接続する	46
ドライブの安全な取り外し	47
USB ストレージデバイスにアクセスする	47
ファイルを共有する	49
写真の共有	49
印刷用にファイルをセントラルストレージに保存する	50
インターネット上で大きなファイルを共有する	50
ルーターに接続されている USB デバイスを表示する	51
USB ストレージデバイスのネットワークとアクセスの設定	52
利用可能なネットワークフォルダー	53
承認済み USB デバイスを指定する	55
メディアサーバーの設定	56

第 6 章 ReadySHARE プリント

ReadySHARE プリントユーティリティ	58
ReadySHARE プリントユーティリティのセットアップ	58
NETGEAR USB Control Center をインストールする	59
NETGEAR USB Control Center をセットアップする	61
NETGEAR USB Control Center を設定する	62
USB 印刷およびスキャンジョブを管理する	63
NETGEAR USB Control Center を起動する	65
多機能 USB プリンターのスキャン機能を使用する	66

第 7 章 セキュリティ

HTTP トラフィックのキーワードブロック	68
禁止サービス（ポートフィルタリング）	69
ポートトリガーで受信ポートを開く	70
外部ホスト通信を許可するためのポート転送	71
ポート転送とポートトリガーの違い	72
ローカルサーバーへのポート転送を設定する	73
カスタムサービスの追加	74
ポート転送の編集または削除	75
アプリケーションの例：ローカル Web サーバーを公開する	75
ポートトリガーの設定	75

禁止スケジュール	78
セキュリティイベントのメール通知を設定する	79

第 8 章 管理

ルーターのファームウェアをアップグレードする	81
ルーターのステータスを表示する	82
ルーター情報	82
インターネットポート	82
ワイヤレス設定 (2.4 GHz および 5 GHz)	85
Web アクセスまたは Web アクセス試行のログを表示する	85
設定ファイルの管理	86
設定のバックアップ	86
設定の復元	86
現在の設定を消去する	87
パスワードを変更する	87
パスワードの復元	88

第 9 章 高度な設定

高度なワイヤレス設定	90
ワイヤレスの制御	90
ワイヤレススケジュールの設定	91
WPS 設定の確認または変更	91
MAC アドレスによるワイヤレスアクセスリストの設定	92
ワイヤレスアクセスポイント (AP)	93
ブリッジモードでのルーターの設定	95
WDS (Wireless Distribution System)	97
ベースステーションの設定	98
リピーターの設定	99
ダイナミック DNS	100
静的ルート	101
リモート管理	103
UPnP	105
IPv6	106
IPv6 アドレスの入力要件	106
自動検出	107
IPv6 の自動設定	108
IPv6 の 6to4 トンネル	109
IPv6 のパススルー	111
IPv6 の固定	111
IPv6 DHCP	112
IPv6 PPPoE	113
トラフィックメーター	115

第 10 章 トラブルシューティング

クイックヒント	118
ネットワークを再起動する際の順序	118

ワイヤレス設定	118
ネットワーク設定	118
LED のトラブルシューティング	118
電源 LED が消灯または点滅している	119
電源 LED が黄色のまま変化しない	119
LED が消えない	119
インターネット LED が消えている	120
ワイヤレス LED が消えている	120
ルーターにログインできない	120
インターネットにアクセスできない	121
PPPoE のトラブルシューティング	123
インターネットブラウジングのトラブルシューティング	123
変更が保存されない	124
ワイヤレス接続	124
ping ユーティリティを使用したネットワークのトラブル シューティング	125
ルーターへの LAN パスのテスト	125
コンピューターからリモートデバイスへのパスのテスト	126

付録 A 補足情報

初期設定	128
技術仕様	130

付録 B 適合性に関するお知らせ

ハードウェアのセットアップ

1

ルーターの概要

R6300 デュアルバンド・ワイヤレスルーターを使って、快適にインターネットを楽しむための高速ワイヤレスホームネットワークを簡単に設定することができます。

次世代ワイヤレス規格 802.11ac に対応しており、従来の 802.11 a/b/g/n とも下位互換性があるので、PC やスマートフォン、ゲーム機などの各種デバイスをホームネットワークに接続して高速通信を実現できます。

ルーターをまだ設定していない場合は、同梱されたインストールガイドをお読みの上、この章の説明に基づいてハードウェアをセットアップしてください。[第 2 章、使用開始](#)では、ルーターにアクセスして設定を確認または変更する方法を説明します。

この章には次の内容が含まれます。

- [同梱物の確認](#)
- [各部の名称とはたらき](#)
- [ルーターの配置](#)

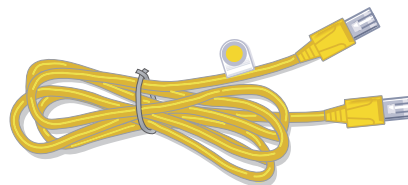
このマニュアルに記載された内容については、<http://www.netgear.jp/supportInfo/> をご覧ください。

同梱物の確認

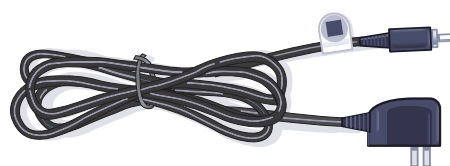
箱を開け、ルーター、ケーブル、インストールガイドを取り出します。



R6300 ルーター



イーサネットケーブル



電源アダプター

図 1. パッケージの内容を確認する

本製品には以下の同梱物が含まれます。

- R6300 本体
- 電源アダプター（プラグは地域により異なります）
- イーサネットケーブル
- インストールガイド

万一、不足品や破損品がある場合は、NETGEAR のカスタマーサポートや販売店にお問い合わせください。お買い上げ時の箱や保護材は製品修理などの際に必要となりますので、保管しておいてください。

各部の名称とはたらき

ルーターにケーブルをつなぐ前に、前面、側面、背面およびラベルについてよく理解しておいてください。特に前面の LED については、よくご確認ください。

全面と側面

ルーターの前面と側面には下図のようにステータス LED とボタンがあります。

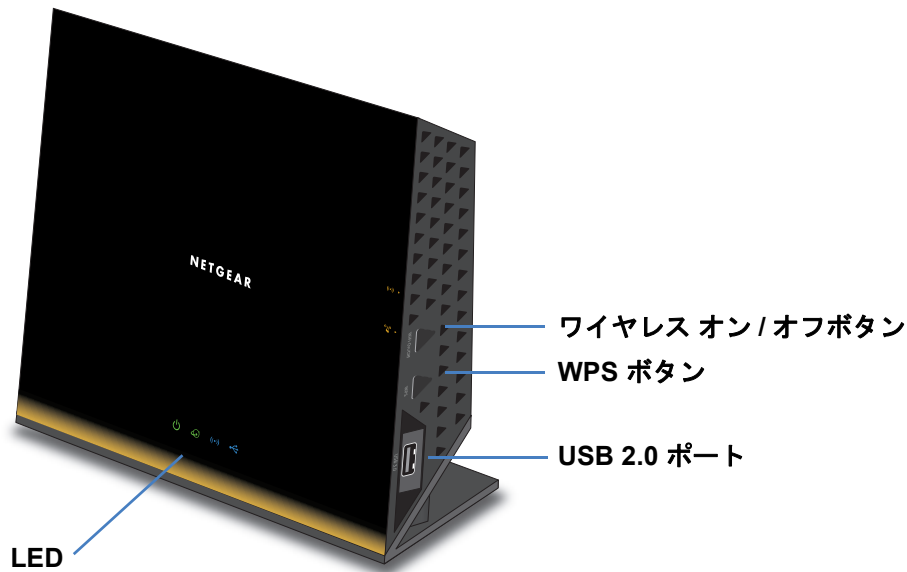






図 2. ルーターの前面と側面

表 1. 前面の LED の説明

LED	説明
電源 	<ul style="list-style-type: none"> 黄色点灯：ルーターは起動中です。 黄色点滅：ファームウェアのアップグレード中、またはリセットボタンが押されました。 緑点灯：ルーターは動作できる状態です。 緑点滅：ファームウェアが破損しています。http://www.netgear.jp/supportInfo/ をご覧ください。 消灯：ルーターの電源はオフになっています。
インターネット 	<ul style="list-style-type: none"> 緑点灯：インターネットに接続しています。 黄色点灯：モデムとルーターがイーサネットケーブルで接続されていますが、IP アドレスが取得できません。 消灯：モデムとルーターの間にイーサネットケーブルが接続されていません。
ワイヤレス 	<ul style="list-style-type: none"> 青点灯：ワイヤレスは 2.4 GHz または 5 GHz モードで動作しています。 点滅：ワイヤレスコンピューターまたはデバイスが WPS を使用してネットワークに接続しています。 消灯：2.4 GHz および 5 GHz のどちらのワイヤレスもオフです。
USB 	<ul style="list-style-type: none"> 青点灯：ルーターが USB デバイスを検知し、使用する準備が整いました。 青点滅：USB デバイスは装着され、接続を試みています。 消灯：USB デバイスが接続されていないか、またはハードウェアの安全な取り外しのボタンがクリックされており、USB デバイスを取り外す準備が整っています。

ワイヤレスボタンと WPS ボタンは、ワイヤレスおよび WPS の機能をオンおよびオフにします。

- **ワイヤレスオン/オフボタン**: このボタンを 2 秒間長押しすると、2.4GHz と 5GHz ワイヤレスのオン/オフが切り替わります。ワイヤレス LED が点灯している場合、ワイヤレス機能はオンです。ワイヤレス LED が消灯している場合、ワイヤレス機能はオフで、ルーターにワイヤレスで接続することはできません。
- **WPS ボタン**: このボタンを使用すると、WPS を使用してコンピューターやスマートフォンなどのワイヤレスデバイスをワイヤレスネットワークに追加できます。ルーターがワイヤレスデバイスの追加を試みている間、ワイヤレス LED は青色で点滅します。ルーターでワイヤレスセキュリティが有効になると、LED は青色で点灯します。

背面

ルーターの背面には、下図のように接続ポートとボタンがあります。

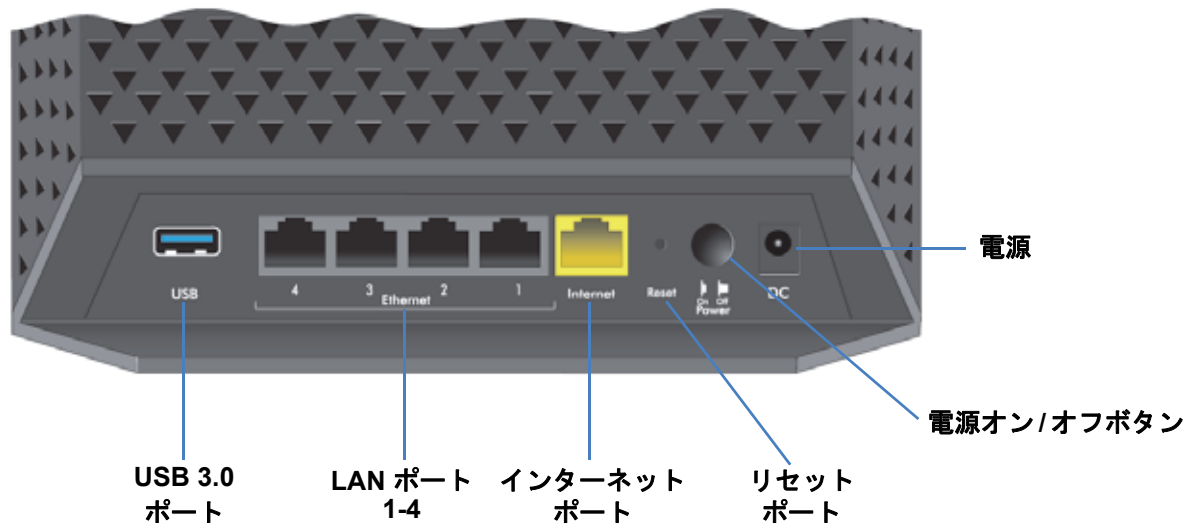


図 3. ルーターの背面

リセットボタンを押すと、初期設定に戻ります。128 ページの [初期設定](#) を参照してください。

ラベル

ルーターの底面にあるラベルには、ログイン情報、MAC アドレス、シリアルナンバーが記載されています。

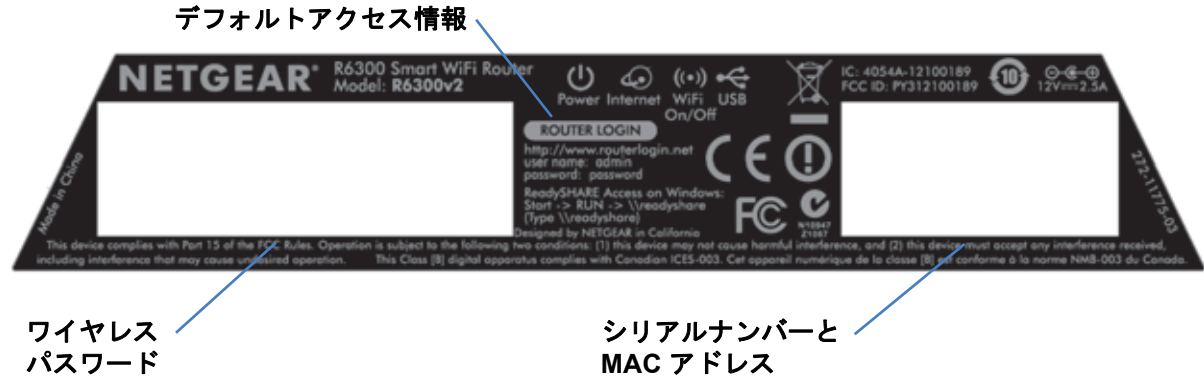


図 4. ラベル

ルーターの配置

ルーターを使用すると、ワイヤレスネットワークの電波の届く範囲であれば、どこからでもネットワークにアクセスすることができます。ただし、電波の届く範囲はルーターの設置場所によって大きく異なります。例えば、厚い壁や複数の壁があると、電波が届きにくくなる場合があります。快適に操作するために、ルーターを次のような場所に設置してください。

- コンピューターやその他の無線 LAN 子機の中央付近で、ワイヤレスの電波が届く場所。
- 電源コンセントに差し込みやすく、また有線で接続する場合はイーサネットケーブルの接続しやすい場所。
- 棚の上などの高所に設置する場合、ルーターと無線 LAN 子機との間に壁や天井ができるだけ少ない場所。
- 干渉の原因となる可能性のある電気機器から離れた場所。干渉の原因となる可能性のある機器としては、天井のファン、ホームセキュリティシステム、電子レンジ、パソコン、コードレス電話の親機、2.4 GHz コードレス電話などがあります。
- 金属製のドアやアルミ製の柱など、大きな金属製品から離れた場所。ガラス、間仕切り、水槽、鏡、レンガ、コンクリートなど、その他の素材の大きな物体なども、ワイヤレス信号の妨げとなる可能性があります。

2 使用開始

2

ルーターの接続

この章では、インストールガイドに従ってケーブルを接続した後、NETGEAR Genie（ルーター管理画面）を使ってルーターを設定する方法を説明しています。

この章には次の内容が含まれます。

- ルーターセットアップの準備
- ログインとアクセス
- NETGEAR Genie のセットアップ
- インストール後に NETGEAR Genie を使用する
- ファームウェアのアップグレード
- ダッシュボード（基本ホーム画面）
- ワイヤレスデバイスまたはコンピューターをネットワークに追加する
- デスクトップ NETGEAR Genie アプリとスマートフォン用 Genie アプリ

ルーターセットアップの準備

ルーターは、NETGEAR Genie を使って自動的に設定することも、手動で設定することもできます。ただし、設定を始める前に、プロバイダーの情報をご用意いただき、ネットワークに接続されたコンピューターやその他のデバイスが以下で説明するとおり設定されていることをご確認ください。

標準 TCP/IP プロパティを DHCP に使用する

コンピューターが静的 IP アドレスを使用するよう設定されている場合は、DHCP を使用するように設定を変更します。

プロバイダーの情報を集める

DSL ブロードバンドサービスをご利用の場合、ルーター設定時に以下の情報が必要となる場合があります。インターネットサービスが開始されると、通常、インターネットに接続するために必要な情報がインターネットサービスプロバイダー (ISP) から提供されます。情報を確認できない場合は、プロバイダーにお問い合わせください。ご利用のインターネット接続が有効であれば、インターネットにアクセスするためにプロバイダーのログインプログラムを毎回起動する必要はありません。次の情報が必要になります。

- DSL アカウントのプロバイダー設定情報
- プロバイダーのログイン名とパスワード
- 固定または静的 IP アドレス設定（プロバイダーによりごく稀に必要なになります）

ワイヤレスデバイスとセキュリティ設定

ご利用のワイヤレスデバイスが WPA または WPA2 ワイヤレスセキュリティ（ルーターが使用するワイヤレスセキュリティ）に対応していることを確認してください。

ログインとアクセス

目的に応じて異なるログインの種類があります。それぞれの特徴を理解し、いつ、どのログインが必要になるかを判断することが大切です。

- **ルーターログイン**：ユーザー名 とパスワードを入力して、ルーター管理画面にログインします。このログインの詳細については、15 ページの [インストール後に NETGEAR Genie を使用する](#) を参照してください。
- **プロバイダーログイン**：インターネットサービスにログインするには、プロバイダーから郵便等で送られてくるログイン情報を使用します。ログイン情報が見つからない場合、直接プロバイダーにお問い合わせください。
- **ワイヤレスネットワークキーまたはパスワード**：ルーターには、ワイヤレスアクセスのための固有のワイヤレスネットワーク名 (SSID) とパスワードがあらかじめ設定されています。この情報はルーターに貼られているラベルに記載されています。

NETGEAR Genie のセットアップ

NETGEAR Genie は、ルーターに接続しているデバイスの Web ブラウザー上で動作します。インストールを完了するには約 15 分かかります。

➤ NETGEAR Genie を使用してルーターをセットアップするには：

1. ルーターの電源を入れます。
2. コンピューターなどのワイヤレスデバイスが、有線またはワイヤレスでルーターに接続されていることを確認します。
3. コンピューターのインターネットブラウザを起動します。
 - 初めてルーターをセットアップする場合、ブラウザは <http://www.routerlogin.net> に自動的にアクセスし、NETGEAR Genie 画面が表示されます。



- NETGEAR Genie をすでに使用している場合は、ブラウザのアドレスバーに **<http://www.routerlogin.net>** と入力して、NETGEAR Genie 画面を表示します。15 ページの [インストール後に NETGEAR Genie を使用する](#) を使用するを参照してください。
4. 画面に表示される指示に従って、ルーターをインターネットに接続します。

ブラウザで Web ページを表示できない場合：

- コンピューターが有線またはワイヤレスでルーターに接続されていることを確認します。
- ルーターの電源が入っていること、およびワイヤレス LED が点灯していることを確認します。
- ブラウザーをいったん閉じてから再び開くか、またはブラウザのキャッシュをクリアします。
- <http://www.routerlogin.net> にアクセスします。
- コンピューターに静的または固定 IP アドレスが設定されている場合は（この設定は一般的ではありません）、ルーターから IP アドレスが自動的に取得されるように変更します。

ルーターがインターネットに接続されない場合：

1. 設定を確認します。正しいオプションを選択し、正しい値を入力していることを確認します。
2. プロバイダーに連絡して、設定が正しいことを確認します。
3. [第 10 章、トラブルシューティング](#)を読みます。問題が解決しない場合は、NETGEAR 製品を登録して、NETGEAR テクニカルサポートに連絡します。

インストール後に NETGEAR Genie を使用する

初めてルーターを設定する場合、ルーターに接続されたコンピューターのブラウザを起動した時点で、NETGEAR Genie（ルーター管理画面）が自動的に立ち上がります。ルーターの設定を確認または変更する必要がある場合は、再度 NETGEAR Genie を使用できます。

1. ルーターに接続されているコンピューターまたはワイヤレスデバイスのブラウザを起動します。
2. アドレスバーに<http://www.routerlogin.net> または <http://www.routerlogin.com> と入力します。
ログイン画面が表示されます。
3. ルーターのユーザー名に **admin**、ルーターのパスワード欄に **password** を入力します。いずれも小文字で入力してください。

メモ： ルーターのユーザー名とパスワードは、インターネットに接続するためのユーザー名とパスワードとは異なります。詳細については、13 ページの [ログインとアクセス](#)を参照してください。

ファームウェアのアップグレード

ルーターをセットアップしてインターネットに接続すると、ルーターは新しいファームウェアが使用できるかどうかを自動的に確認します。新しいファームウェアがあると、画面の一番上にメッセージが表示されます。

➤ **ファームウェアをアップグレードするには：**

1. 新しいファームウェアがあることを伝えるメッセージをクリックします。
ファームウェアのアップグレード中は、インターネットにアクセスできません。
2. **[[はい]]** ボタンをクリックして、ルーターを最新のファームウェアにアップグレードします。



警告：

ファームウェアの破損を防ぐため、アップグレードを中断しないでください。例えば、ブラウザを閉じたり、リンクをクリックしたり、新しいページを読み込んだりしないでください。ルーターの電源を切らないでください。

アップグレードが終わると、ルーターが再起動します。

詳細については、81 ページの [ルーターのファームウェアをアップグレードする](#) を参照してください。

ダッシュボード（基本ホーム画面）

ルーターの基本ホーム画面には、インターネット接続やネットワーク状態を一目で把握できるダッシュボードがあります。ダッシュボードの6つのセクションのいずれかをクリックすると、設定の確認や変更ができます。左側の列はメニューです。[高度] タブからは、他のメニューや画面にアクセスできます。

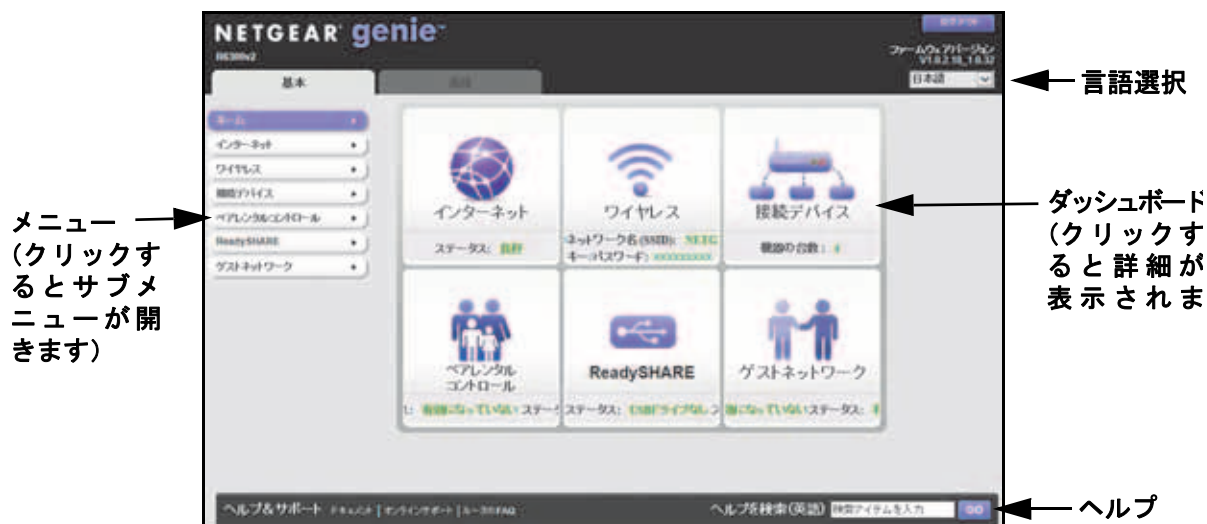


図 5. 基本ホーム画面のダッシュボード、言語選択、オンラインヘルプ

- **ホーム**：ルーターにログインすると、この画面が表示されます。
- **インターネット**：プロバイダーの設定確認や変更を行います。
- **ワイヤレス**：ワイヤレス設定を確認または変更します。
- **接続デバイス**：ネットワークに接続されたデバイスを表示します。
- **ペアレンタルコントロール**：有害コンテンツがコンピューターに表示されないよう、ペアレンタルコントロールのダウンロードと設定を行います。
- **ReadySHARE**：USB デバイスをルーターに接続した場合は、ここに表示されます。
- **ゲストネットワーク**：ビジターがルーターのインターネット接続を利用できるように、ゲストネットワークを設定します。
- **[高度] タブ**：インターネットからの IP やドメイン名によるリモートアクセスなど、特殊な状況に合わせてルーターを設定できます。[第 9 章、高度な設定](#)を参照してください。このタブを使用するには、ネットワークについて十分に理解している必要があります。
- **ヘルプ & サポート**：NETGEAR のサポートサイトにアクセスし、各種情報、ヘルプ、製品のドキュメントを入手します。これらのリンクは、インターネット接続が有効な場合にのみ使用できます。

ワイヤレスデバイスまたはコンピューターをネットワークに追加する

手動または WPS 方式で、ワイヤレスデバイスやその他の装置をワイヤレスネットワークに接続します。ゲストネットワークのセットアップ方法については、28 ページの [ゲストネットワークの設定](#) を参照してください。

手動接続

手動接続では接続したいネットワークを選択してパスワードを入力します。

➤ **手動で接続するには：**

1. ルーターに接続したいワイヤレスデバイス（ノート PC、ゲーム機、iPhone など）で、ワイヤレス接続を管理するソフトウェアを開きます。
ここには、周辺のすべてのワイヤレスネットワークが表示されます。
2. ご利用のネットワークを見つけ、選択します。
デフォルトのワイヤレスネットワーク名 (SSID) とパスワードは、ルーターのラベルに記載されています。設定を変更した場合は、ご自身で設定した SSID を見つけてください。
3. ルーターのパスワードを入力し、**[接続]** をクリックします。

Wi-Fi Protected Setup (WPS) 方式

Wi-Fi Protected Setup (WPS) を使用すると、パスワードを入力することなく安全なワイヤレスネットワークに接続できます。パスワードを入力する代わりにボタンを押すか、PIN を入力します。

古いワイヤレスデバイスの中には、WPS に対応していないものもあります。WPS は WPA2 または WPA ワイヤレスセキュリティでのみ動作します。

➤ **WPS を使用してワイヤレスネットワークに接続するには：**

1. ルーターの側面にある **[WPS]** ボタンを押します。
2. 2 分以内に、ワイヤレスデバイスの **[WPS]** ボタンを押すか、デバイスに付属する WPS の説明に従います。
WPS プロセスによってワイヤレスコンピューターがネットワークパスワードで自動的にセットアップされ、ワイヤレスネットワークに接続されます。

デスクトップ NETGEAR Genie アプリとスマートフォン用 Genie アプリ

デスクトップ NETGEAR Genie アプリは、ホームネットワークの管理、監視、修復を行える簡単なダッシュボードです。ルーター設定用の NETGEAR Genie とは別のものです。Genie アプリの詳細については、『NETGEAR genie Apps User Manual』を参照してください。



図 6. デスクトップ NETGEAR Genie アプリのダッシュボード

Genie アプリには次のような機能があります。

- ワイヤレスネットワークの一般的な問題を自動的に修復する。
- ライブペアレンタルコントロール、ゲストアクセス、インターネットトラフィックメーター、スピードテストなどのルーターの機能に簡単にアクセスする。

スマートフォン用 Genie アプリは、iPhone、iPad、Android 端末で使用できます。



図 7. スマートフォン用 Genie アプリのホーム画面

NETGEAR Genie 基本設定

3

インターネット接続とワイヤレスネットワーク

この章には次の内容が含まれます。

- *インターネットの設定*
- *ペアレンタルコントロール*
- *基本的なワイヤレス設定*
- *ゲストネットワークの設定*
- *接続デバイス*

[基本] タブでの ReadySHARE 機能については、[第5章、USB ストレージ](#)および[第6章、ReadySHARE プリント](#)を参照してください。

インターネットの設定

[インターネット設定] 画面では、プロバイダーの基本情報を確認または変更できます。

メモ： セットアップウィザードを使用すると、インターネット接続を検出し、ルーターを自動的にセットアップできます。32 ページの [インターネット接続セットアップウィザード](#) を参照してください。

➤ インターネットの基本設定を確認または変更するには：

1. [ホーム] 画面で [インターネット] を選択します。



[インターネット設定] 画面に表示される項目は、インターネット接続時にログインが必要かどうかにより異なります。

2. [はい] または [いいえ] ラジオボタンを選択します。

- **はい**： PPPoE またはマルチ PPPoE を選択し、ログイン情報を入力します。ログインのタイムアウト時間を変更する場合は、新しい値を分単位で入力します。
- **いいえ**： 必要な場合のみ、アカウントとドメイン名を入力します。

3. IP アドレスと DNS サーバーの設定を入力します。

通常は初期設定のままかまいません。接続に問題がある場合は、プロバイダーの設定を確認してください。

4. [適用] ボタンをクリックします。

設定が保存されます。

5. [テスト] をクリックして、インターネット接続をテストします。

1 分以内に NETGEAR の Web サイトが表示されない場合は、[第 10 章、トラブルシューティング](#) を参照してください。

インターネット設定画面の項目

以下では、[インターネット設定] 画面に表示されるすべての項目について説明します。この画面に表示される項目は、インターネット接続時にプロバイダーへのログインが必要かどうかにより異なります。

お使いのインターネット接続はログインを必要としていますか？ [はい] または [いいえ] を選択します。

ログインが必要ない場合は、以下の項目が表示されます。

- **アカウント名 (必要時のみ)** : プロバイダーから提供されたアカウント名を入力します。これは、ホスト名とも呼ばれます。
- **ドメイン名 (必要時のみ)** : プロバイダーから提供されたドメイン名を入力します。

ログインが必要な場合は、以下の項目が表示されます。

- **インターネットサービスプロバイダー** : PPPoE またはマルチ PPPoE を選択します。
- **ログイン** : プロバイダーから提供されたログイン名を入力します。通常はメールアドレスとなります。
- **パスワード** : プロバイダーにログインするためのパスワードです。
- **サービス名 (必要時のみ)** : プロバイダーからサービス名を提供された場合、ここに入力します。
- **接続モード** : [常時接続]、[要求に応じダイヤル]、または [手動接続] のいずれかを選択します。
- **アイドルタイムアウト (分)** : ログインのタイムアウト時間を変更したい場合は、新しい値を分で入力します。この設定は、LAN からのインターネット接続がない場合、ルーターがインターネット接続を維持しておく時間を設定します。0 (ゼロ) を入力すると、タイムアウトしないことを意味します。

インターネット IP アドレス :

- **プロバイダーから自動取得** : プロバイダーは DHCP を使用して IP アドレスを自動的に割り当てます。
- **IP アドレスを指定 (固定)** : プロバイダーから提供された IP アドレス、サブネット マスク、ゲートウェイ IP アドレスを入力します。ゲートウェイは、ルーターが接続するプロバイダー側のルーターです。

ドメインネームサーバー (DNS) アドレス : DNS サーバーは、サイトの名前に基づいてサイトアドレスを検出します。

- **プロバイダーから自動取得** : プロバイダーは DHCP を使用して DNS サーバーを割り当てます。プロバイダーはこのアドレスを自動的に割り当てます。
- **DNS サーバーを指定 (固定)** : ルーターログイン時にプロバイダーが自動的に DNS アドレスを転送しない場合は、このオプションを選択します。プロバイダーのプライマリ DNS サーバーを入力してください。セカンダリ DNS サーバーが使用可能なら、それも入力してください。

NAT（ネットワークアドレス変換）：ホームネットワーク上のコンピューターは、NAT を使用することで、ルーターのインターネット接続を共有できます。NAT は、ほとんどの状況において必要であるため、デフォルトで有効になります。次の設定を使用できます。

- Enable（有効）
- Disable（無効）

ルーター MAC アドレス：ルーターのインターネットポートが使用している MAC アドレスです。一部のプロバイダーは、アカウントが最初に開かれたときに PC 上にあるネットワークカードの MAC アドレスを登録し、そのコンピューターの MAC アドレスからのトラフィックのみ受信することができます。この機能を利用すると、ルーターがお使いの PC の MAC アドレスを使用できるようになります（クローニングとも呼ばれます）。

- **デフォルトのアドレスを使う**：デフォルトの MAC アドレスを使用します。
- **コンピューターの MAC アドレスを使用**：ルーターは現在使用中のコンピューターの MAC アドレスを取得し、使用することができます。この場合、プロバイダーに許可されたコンピューターを使用する必要があります。
- **この MAC アドレスを使用**：使用したい MAC アドレスを入力します。

ペアレンタルコントロール

初めて基本ホーム画面でペアレンタルコントロールを選択すると、自動的にインターネットに接続し、次のような画面が表示されます。ここで、ライブペアレンタルコントロールに関する情報を確認したり、アプリケーションをダウンロードすることができます。



➤ **ライブペアレンタルコントロールを設定するには：**

1. ホーム画面で **[ペアレンタルコントロール]** を選択します。
2. **[Windows Users (Windows ユーザー)]** ボタンまたは **[Mac Users (Mac ユーザー)]** ボタンをクリックします。
3. 画面の指示に従って、NETGEAR Live Parental Controls Management ユーティリティをダウンロードしてインストールします。

インストール後に、ライブペアレンタルコントロールが自動的に開始されます。



4. [Next (次へ)] をクリックし、注意事項を読み、再度 [Next (次へ)] をクリックして続行します。

Live Parental Controls は無料の OpenDNS アカウントを使用するので、ログインするか、または無料のアカウントを作成するよう表示されます。

5. 当てはまるほうのラジオボタンを選択し、[Next (次へ)] をクリックします。
- OpenDNS アカウントがすでにある場合は、[Yes (はい)] ラジオボタンを選択します。
 - OpenDNS アカウントがない場合は、[No (いいえ)] ラジオボタンを選択します。
- アカウントを作成する場合は、次の画面が表示されます。

- 欄に入力し、[Next (次へ)] をクリックします。

ログインまたはアカウント作成後に、フィルタリングレベルの画面が表示されます：

Live Parental Controls: choose a filtering level for your network

All computers connected to your router will be protected from the content you select below. You can customize your Live Parental Controls later on our website.

High
Protects against all adult-related sites, illegal activity, social networking sites, video sharing sites, phishing attacks and general time-wasters.

Moderate
Protects against all adult-related sites, illegal activity and phishing attacks.

Low
Protects against pornography and phishing attacks.

Minimal
Protects only against phishing attacks.

None
Nothing blocked.

6. 設定するフィルタリングレベルのラジオボタンを選択し、[Next (次へ)] をクリックします。

Setup is complete!

You have successfully setup NETGEAR Live Parental Controls Powered by OpenDNS. Next time you run the Management Utility it will take you to the status screen where you can:

- check whether Live Parental Controls are enabled
- disable or enable Live Parental Controls
- modify basic settings
- change custom settings such as per-user and time-of-day based Live Parental Controls

Take me to the status screen

7. [Take me to the status screen (ステータス画面に移動する)] ボタンをクリックします。ペアレンタルコントロールがルーターに設定されました。ダッシュボードにペアレンタルコントロールが有効と表示されます。

基本的なワイヤレス設定

ワイヤレス設定画面では、ワイヤレスネットワーク設定の確認と変更を行うことができます。本製品はあらかじめセキュリティが設定されています。つまり、ネットワーク名 (SSID)、ネットワークキー (パスワード)、セキュリティオプション (暗号化プロトコル) は工場設定されています。SSID とパスワードはルーター本体に記載されています。

メモ : SSID とパスワードは各機器固有に設定されており、ワイヤレス接続の安全性を高めています。

NETGEAR は、あらかじめ設定されたセキュリティ設定を変更しないよう推奨しています。セキュリティ設定を変更する場合は、新しい設定をメモし、安全で見つけやすい場所に保管しておいてください。

ワイヤレスコンピューターを使ってネットワーク名 (SSID) またはその他のワイヤレスセキュリティ設定を変更する場合は、[適用] をクリックした時点で切断されます。この問題を回避するため、有線接続でルーターにアクセスしてください。

➤ **基本のワイヤレス設定を確認または変更するには：**

1. [基本] > [ワイヤレス] を選択します。

画面に表示される内容、設定、手順は次のセクションでご紹介しています。

2. 必要に応じて設定を変更します。
3. [適用] ボタンをクリックします。

設定が保存されます。

ルーターにワイヤレス接続しているときに、SSID またはワイヤレスセキュリティを変更すると、ネットワークから切断されます。

4. 設定を変更した場合は、新しい設定でネットワークにワイヤレス接続できることを確認してください。

ワイヤレス接続できない場合は、以下を確認してください。

- ご利用のワイヤレスデバイスが、エリア内の別のワイヤレスネットワークに接続されていませんか？一部のワイヤレスデバイスは最初に検出されたネットワークに自動的に接続することがあります（ワイヤレスセキュリティは使われません）。
- ご利用のワイヤレスデバイスが、古い設定（変更する前の設定）でネットワークに接続されていませんか？その場合は、ワイヤレスデバイスからワイヤレスネットワークの選択を更新し、ネットワークの現在の設定と一致させます。

ワイヤレス設定画面の項目

この画面を使用すると、ワイヤレスネットワークの設定およびセキュリティオプションを確認または変更できます。

SSID ブロードキャストを有効にする：この機能を有効にすると、ルーターはネットワーク名 (SSID) をブロードキャストできるようになるため、ネットワークリスト上に SSID が表示されます。この機能はデフォルトで有効になっています。SSID ブロードキャストを無効にするには、このチェックボックスのチェックを外し、**[適用]** をクリックします。

無線機器同士の通信を禁止する：このオプションにチェックを入れると、ネットワークに接続されているコンピューターやワイヤレスデバイスはインターネットを利用することはできませんが、ネットワーク上でお互いにアクセスしたり、ローカルネットワーク上のデバイスにアクセスすることはできません。

ネットワーク名 (SSID)：SSID はワイヤレスネットワーク名とも呼ばれます。最長 32 文字まで入力でき、大文字と小文字が区別されます。デフォルトの SSID はランダムに生成されたものです。*NETGEAR* は、この設定を変更しないよう推奨しています。

地域：ルーターが使われている場所を示します。日本以外の国で使用することは禁止されています。

チャンネル：ルーターが使用するワイヤレスチャンネルです。2.4 GHz の場合は、自動または 1 ~ 13 の値を選択します。干渉がある場合を除き、チャンネルを変更しないでください (干渉が生じると、接続が失われたり、データ転送が遅くなったりすることがあります)。干渉が見られたら、別のチャンネルを試してみてください。

複数のアクセスポイントを使用している場合は、干渉を抑えるために隣接するアクセスポイントで異なる無線周波数チャンネルを使用することを推奨します。隣接するアクセスポイント間の推奨されるチャンネル間隔は、4 チャンネルです (例えば、チャンネル 1 と 5 や 6 と 10 を使用します)。

モード：2.4GHz ではデフォルトで最大 217Mbps に設定されており、802.11n、802.11g および 802.11b のワイヤレスデバイスをネットワークに接続できます。この他に最大 54 Mbps および最大 450Mbps が選択できます。

5 GHz ではデフォルトで最大 1300Mbps に設定されており、802.11ac、802.11n および 802.11a のワイヤレスデバイスをネットワークに接続できます。この他に最大 600 Mbps および最大 289 Mbps が選択できます。

セキュリティオプション：ルーターには事前に固有のワイヤレスセキュリティが設定されています。ワイヤレスパスワードは製品のラベルに記載されています。ワイヤレスパスワードを忘れたときにラベルを参照できるよう、デフォルトのセキュリティを使用することを推奨します。ただし、セキュリティオプションとパスワードを変更してもかまいません。

ワイヤレスセキュリティのオプション

セキュリティオプションは、ワイヤレスネットワークに適用されるセキュリティプロトコルの種類です。セキュリティプロトコルはデータの暗号化を行い、信頼できる機器だけがネットワークに接続できるようにします。Wi-Fi Protected Access (WPA) には、事前共有鍵 (PSK) など、さまざまなオプションがあります。

WPA は、Wi-Fi 認証マークを持つすべてのハードウェアに搭載されています。このマークは、製品が Wi-Fi アライアンス (<http://www.wi-fi.org/>) に承認されていることを意味し、無線 LAN ネットワークの世界的な規格に対応しています。

WPA はパスフレーズを使って認証を実行し、初期データ暗号鍵を生成します。そして、暗号鍵を動的に変化させます。WPA-PSK は TKIP データ暗号化を使用し、ほとんどの IEEE 802.11i 規格に対応し、すべてのワイヤレスネットワークカードで機能するように設計されていますが、すべてのワイヤレスアクセスポイントに対応しているわけではありません。

WPA2-PSK は WPA-PSK よりも強力なセキュリティです。暗号鍵のランダム性が高いため、理論上は判読不可能とされています。ソフトウェアを通して実装されている WPA-PSK とは異なり、WPA2-PSK はハードウェアを通して実装されているため、より高速です。WPA2-PSK はパスフレーズを使って認証を実行し、初期データ暗号鍵を生成します。そして、暗号鍵を動的に変化させます。

WPA-PSK + WPA2-PSK のミックスモードは、すべてのワイヤレス端末に幅広いサポートを提供します。WPA2-PSK の端末は速度もセキュリティ性も高く、一方で WPA-PSK の端末はある程度の速度とセキュリティ性を提供することができます。ワイヤレスネットワークカードおよび WPA クライアントソフトウェアの製品ドキュメントには、通常 WPA の設定に関する指示が記載されています。

ワイヤレスセキュリティオプションを変更する

セキュリティは無効にしないことをお勧めします。

➤ WPA の設定を変更するには：

1. [基本] > [ワイヤレス] を選択します。
2. [セキュリティオプション] で、適切な WPA オプションを選択します。

セキュリティオプション

- なし
- WPA-PSK [TKIP]
- WPA2-PSK [AES]
- WPA-PSK [TKIP] + WPA2-PSK [AES]
- WPA/WPA2 エンタープライズ

3. WPA セキュリティオプションを選択すると表示される [パスフレーズ] 欄に、使用するネットワークキー（パスワード）を入力します。8 ～ 63 文字の文字列です。
4. 新しいパスワードを記録し、後で参照できるように安全な場所に保管します。
5. [適用] ボタンをクリックします。

変更が保存されます。

ゲストネットワークの設定

ゲストネットワークを使用すると、ゲストユーザーに、ワイヤレスセキュリティキーを知らせずにインターネットを使ってもらうことができます。各ワイヤレスネットワーク (2.4 GHz b/g/n と 5 GHz a/n) に、ゲストネットワークを追加できます。

▶ ゲストネットワークを設定するには：

1. [基本] > [ゲストネットワーク] を選択します。



2. 次のいずれかのワイヤレス設定を選択します。

ゲストネットワークを有効にする：このオプションをチェックすると、ゲストネットワークが有効になり、ゲストユーザーはこのプロファイルの SSID を使ってネットワークに接続できるようになります。

SSID ブロードキャストを有効にする：このオプションにチェックを入れると、ルーターはネットワーク名 (SSID) をブロードキャストします。ユーザーは、正しい SSID を取得することができます。

ゲストが相互に表示され、マイローカルネットワークにアクセスすることを許可：このオプションにチェックを入れると、この SSID に接続したユーザーは、インターネットだけでなく、ローカルネットワークにもアクセスできます。

3. ゲストネットワークの名前を設定します。

ゲストワイヤレスネットワーク名は大文字と小文字を区別し、最大 32 文字です。名前を付けた後、ネットワーク上のワイヤレスデバイスを手動で設定し、メインの非ゲスト SSID に加えてゲストネットワーク名も使えるようにします。

4. セキュリティオプションを選択します。

セキュリティオプションについては、27 ページの [ワイヤレスセキュリティのオプション](#) を参照してください。

5. [適用] ボタンをクリックします。

設定が保存されます。

接続デバイス

現在ネットワークに接続されているすべてのコンピューターやデバイスを確認できます。

▶ **【接続デバイス】画面を表示するには：**

1. 基本ホーム画面で、**【接続デバイス】** を選択します。

接続デバイス			
[更新]			
有線機器			
#	IPアドレス	機器名	MACアドレス
無線機器 (無線による不正使用者が居る場合もここに表示されます)			
#	IPアドレス	機器名	MACアドレス
1	192.168.1.2	PC	60:67:20:B8:C8:1C

有線機器はイーサネットケーブルでルーターに接続されています。無線機器はワイヤレスでルーターに接続されています。以下の情報が表示されます。

- **# (番号)**：デバイスがネットワークに接続された順序です。
- **IP アドレス**：デバイスがネットワークに接続されたときに、ルーターから割り当てられた IP アドレスです。IP アドレスは、ネットワークの接続が切断された後に再接続すると変更されます。
- **MAC アドレス**：各デバイス固有の MAC アドレスです。MAC アドレスは再接続をしても変更されません。MAC アドレスは通常、製品ラベルに記載されています。
- **機器名**：機器名が分かっている場合は、ここに表示されます。

2. 画面を更新するには、**【更新】** をクリックします。

NETGEAR Genie 高度な設定のホーム

4

カスタム設定

この章には次の内容が含まれます。

- [NETGEAR Genie 高度ホーム画面](#)
- [インターネット接続セットアップウィザード](#)
- [WAN 設定](#)
- [LAN 設定](#)
- [ワイヤレス接続用の WPS ウィザード](#)
- [QoS 設定](#)

高度な設定のホームの項目は章をまたいで説明されています。

- **USB ストレージ**： [第 5 章、USB ストレージ](#)を参照してください。
- **セキュリティ**： [第 7 章、セキュリティ](#)を参照してください。
- **管理**： [第 8 章、管理](#)を参照してください。
- **高度なセットアップ**： [第 9 章、高度な設定](#)を参照してください。

NETGEAR Genie 高度ホーム画面

NETGEAR Genie 高度な設定のホーム画面では、ステータス情報を参照できます。表示される内容は [管理者] > [ルーターのステータス] で表示される画面と同じです。82 ページの [ルーターのステータスを表示する](#) を参照してください。

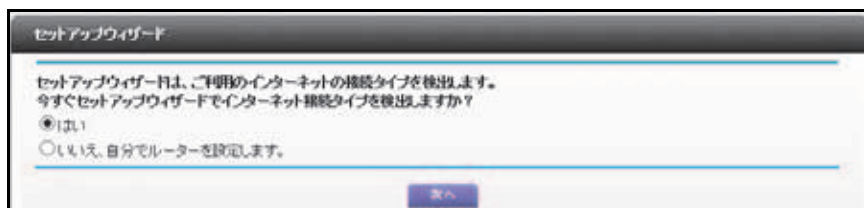


インターネット接続セットアップウィザード

セットアップウィザードを使用してインターネット設定を検出し、自動的にルーターをセットアップできます。セットアップウィザードはルーターに最初に接続してセットアップするときの NETGEAR Genie 画面とは異なります。

➤ セットアップウィザードを使用するには：

1. [高度] > [セットアップウィザード] を選択します。

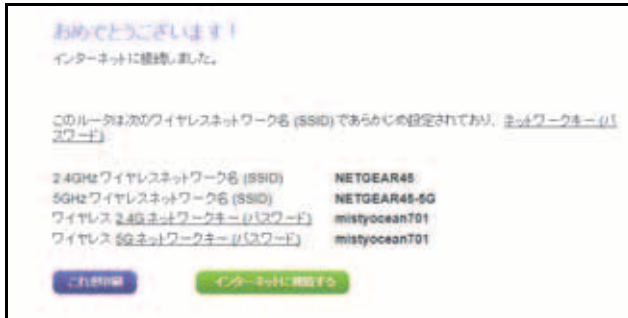


2. [はい] を選択します。

[いいえ、自分でルーターを設定します] を選択した場合、[インターネット設定] 画面に切り替わります (21 ページの [インターネットの設定](#) を参照)。

3. [次へ] をクリックします。

セットアップウィザードはインターネット接続を探し、プロバイダー設定を判断します。



WAN 設定

[WAN 設定] 画面では、DMZ サーバーの設定や MTU サイズの変更を行ったり、ルーターが WAN (インターネット) ポートで ping に反応できるようにします。

➤ WAN 設定の確認、変更をするには：

1. [高度] > [設定] > [WAN 設定] を選択します。



2. 以下の設定が可能です。

- **ポートスキャンと DoS 保護を無効にする**：DoS 保護は、LAN を有害な DoS 攻撃から保護します。SYN flood 攻撃、Smurf 攻撃、Ping of Death (PoD)、Teardrop 攻撃、UDP Flood 攻撃、ARP Attack、ICMP 偽装、Null スキャン、その他多くの攻撃から LAN を守ることができます。この機能は、特殊な状況でのみ無効にしてください。
- **デフォルト DMZ サーバー**：この機能は、オンラインゲームを楽しんだり、ビデオ会議をするときに便利です。この機能はファイアウォールセキュリティを弱めることがありますので、使用時にはご注意ください。34 ページの [デフォルト DMZ サーバー](#) を参照してください。
- **インターネットポートへの ping に応答する**：インターネットからの ping に対してルーターが応答するようにするには、このチェックボックスを選択してください。この機能を使用するとルーターが検出されるため、検診目的にのみ使用してください。特別な理由がある場合を除き、この項目にはチェックを入れません。

- **IGMP プロキシを無効にする** : IGMP プロキシを使用すると、ローカルエリアネットワーク (LAN) 上のコンピューターがインターネットから必要なマルチキャストトラフィックを受信できるようになります。この機能が不要な場合は、このチェックボックスを選択して無効にできます。
- **MTU サイズ (バイト)** : 通常の MTU (Maximum Transmit Unit) サイズは、ほとんどのイーサネットネットワークで 1500 バイト、PPPoE 接続で 1492 バイトです。一部のプロバイダーでは、MTU を低下させる必要があります。プロバイダー接続で必要なことが確実な場合にのみ、MTU を小さくしてください。35 ページの [MTU サイズの変更](#) を参照してください。
- **NAT フィルタ** : NAT (Network Address Translation) はルーターが受信トラフィックをどう処理するかを決めます。安全な NAT は安全なファイアウォールを提供し、LAN 上のコンピューターをインターネットの攻撃から守ります。ただし、このようなセキュリティがインターネットゲーム、ポイントツーポイントのアプリケーション、マルチメディアアプリケーションなどの機能を妨げることがあります。オープン NAT はファイアウォールとしての安全性が低くなりますが、ほぼすべてのインターネットアプリケーションが正しく機能します。

3. [適用] ボタンをクリックします。

変更が保存されます。

デフォルト DMZ サーバー

デフォルト DMZ サーバー機能は、NAT と互換性のないオンラインゲームやビデオ会議などのアプリケーションを使用している場合に便利です。ルーターはこれらいくつかのアプリケーションを認識し、正しく動作するようプログラムされていますが、正しく機能しないアプリケーションもあります。そのコンピューターの IP アドレスがデフォルト DMZ サーバーに設定されていれば、そのローカルコンピューターで正しくアプリケーションを起動できる場合もあります。



警告 :

DMZ サーバーにはセキュリティリスクがあります。デフォルト DMZ サーバーとして設定されたコンピューターは、ファイアウォールの保護を失い、インターネットの危険にさらされることとなります。万が一障害が発生すると、DMZ サーバーのコンピューターはネットワーク上の他のコンピューターを攻撃するために使われる可能性もあります。

インターネットからの受信トラフィックは、ローカルコンピューターや、ポート転送 / ポートトリガー画面で設定したサービスに反応しない限り、ルーターにより放棄されます。このトラフィックを放棄する代わりに、これをネットワーク上の 1 台のコンピューターに転送することができます。このコンピューターがデフォルト DMZ サーバーと呼ばれます。

▶ デフォルト DMZ サーバーを設定するには :

1. [高度] > [設定] > [WAN 設定] を選択します。
2. [デフォルト DMZ サーバー] チェックボックスを選択します。

3. IP アドレスを入力します。
4. [適用] ボタンをクリックします。
変更内容が有効になります。

MTU サイズの変更

MTU は、ネットワークデバイスが転送する最大データパケットを指します。1 つのネットワークデバイスがインターネットを通過して他のデバイスと通信するとき、データパケットは途中のさまざまなデバイスを経由していきます。この経由点にあるデバイスの MTU 設定が他のデバイスよりも低い場合、データパケットは分割されたり、フラグメンテーション化（断片化）されたりして、最小 MTU のデバイスと通信ができるようになります。

NETGEAR 製品の最適な MTU 設定は初期設定です。値を変更すると問題が改善される可能性があります。また別の問題が起きる可能性もあります。下記のような状況がある場合を除き、MTU は変更しないでください。

- プロバイダーや他のインターネットサービスに接続できず、プロバイダーや NETGEAR のテクニカルサポートから MTU 設定の変更を勧められた場合。以下のページを開くときには MTU の変更が必要な場合があります。
 - 安全な Web サイトが開かない、または Web ページの一部分だけが表示される
 - Yahoo メール
 - MSN ポータル
 - AOL の DSL サービス
- VPN を使用しており、深刻なパフォーマンス問題が生じている場合。
- パフォーマンス向上のため MTU を最適化するプログラムを使用し、これにより接続やパフォーマンスに問題が生じた場合。

メモ： MTU の設定が正しくないと、インターネットの通信で問題が発生する可能性があります。例えば、特定の Web サイト、Web サイト内のフレーム、安全なログインページ、FTP サーバーや POP サーバーにアクセスできなくなることがあります。

MTU の問題が懸念される場合は、MTU を 1400 に設定してください。実験してみる場合は、MTU を最大値である 1500 から問題が解決するまで少しずつ下げていくこともできます。以下の表は一般的な MTU サイズとアプリケーションの説明です。

表 2. 一般的な MTU のサイズ

MTU	アプリケーション
1500	最大のイーサネットパケットサイズ。この設定は、PPPoE または VPN を使用しない接続では標準的であり、NETGEAR のルーター、アダプター、スイッチのデフォルト値です。
1492	PPPoE 環境で使われます。

表 2. 一般的な MTU のサイズ (続き)

MTU	アプリケーション
1472	ping に使われる最大サイズです。(大きなパケットは分割されます。)
1468	一部の DHCP 環境で使われます。
1460	大きなメールなどが添付されていないときなどに、AOL で使用可能です。
1436	PPTP 環境で、または VPN で使用します。
1400	AOL DLS の最大サイズ。
576	ダイヤルアップのプロバイダーに接続する場合に一般的な数値です。

➤ **MTU のサイズを変更するには：**

1. [高度] > [設定] > [WAN 設定] を選択します。
2. [MTU サイズ] 欄に、64 ~ 1500 の範囲の値を入力します。
3. [適用] ボタンをクリックします。
変更が保存されます。

LAN 設定

[LAN 設定] 画面では、DHCP や RIP (Routing Information Protocol) などの LAN IP サービスを設定できます。

ルーターは、LAN 側でプライベート IP アドレスを使用し、DHCP サーバーとして機能するように設定されています。ルーターのデフォルトの IP 設定は次のとおりです。

- LAN IP アドレス：**192.168.1.1**
- サブネットマスク：**255.255.255.0**

これらアドレスは、プライベートネットワーク用に設定されたプライベートアドレスの一部であり、ほとんどのアプリケーションに適しています。ネットワークで異なる IP アドレススキームを使用する必要がある場合は、[LAN 設定] 画面で設定を変更できます。

メモ：ルーターの IP アドレスを変更した場合、接続が中断されます。この場合は、新しい接続を開き、新しい IP アドレスでもう一度ログインしなければなりません。

➤ LAN の設定を変更するには :

1. [高度] > [設定] > [LAN 設定] を選択します。



2. 必要に応じて設定を入力します。
これらの設定については、[LAN 設定画面](#)を参照してください。
3. [適用] ボタンをクリックします。
変更が保存されます。

LAN 設定画面

LAN TCP/IP 設定

- **IP アドレス** : ルーターの IP アドレスです。
- **サブネットマスク** : ルーターのサブネットマスクです。IP アドレスと組み合わせて、サブネットマスクはどのアドレスがローカルであり、どのアドレスがゲートウェイやルーターを通さなければならないかをデバイスに知らせることができます。
- **RIP 通知の方向** : RIP は、ルーター同士のルーティング情報のやり取りを可能にします。この設定は、ルーターが RIP パケットを送受信する方法を制御します。デフォルトは [両方] です。[両方] または [送信のみ] の設定にすると、ルーターはルーティングテーブルを定期的にブロードキャストします。[両方] または [受信のみ] の設定にすると、ルーターは受信した RIP 情報に合わせて機能します。
- **RIP バージョン** : これは、ルーターが送信する IP パケットの形式とブロードキャスト方法を制御します。受信側はどちらの形式も認識します。デフォルトでは、RIP 機能は無効になっています。
 - **RIP バージョン 1** は世界でサポートされています。何か特殊なネットワーク設定を使用している場合を除き、ほとんどのネットワークで利用できます。

- **RIP バージョン 2** はより多くの情報を含みます。RIP バージョン 2（ブロードキャスト）と RIP バージョン 2（マルチキャスト）はどちらも、RIP バージョン 2 形式でルーティングデータを送信します。RIP バージョン 2（ブロードキャスト）はサブネットブロードキャストを使用します。RIP バージョン 2（マルチキャスト）はマルチキャストを使用します。

ルーターを DHCP サーバーとして使用する

ほとんどのホームネットワークでは、このチェックボックスを選択して、ルーターが DHCP サーバーとして機能するようにします。

- **開始 IP アドレス**：ルーターと同じサブネット内で IP アドレスプールの開始アドレスを指定します。
- **終止 IP アドレス**：ルーターと同じサブネット内で IP アドレスプールの終止アドレスを指定します。

アドレス予約

LAN 上のコンピューターに予約 IP アドレスを指定すると、このコンピューターはルーターの DHCP サーバーにアクセスするたびに同じ IP アドレスを受け取ります。永久的な IP 設定が必要なサーバーの場合に予約 IP アドレスを割り当てます。39 ページの [アドレス解決を設定する](#) を設定するを参照してください。

DHCP サーバーとしてのルーターの役割

デフォルトでは、ルーターは DHCP サーバーとして機能します。ルーターは、LAN に接続されているすべてのコンピューターに、IP アドレス、DNS サーバーアドレス、デフォルトゲートウェイアドレスを割り当てます。割り当てられるデフォルトゲートウェイは、ルーターの LAN アドレスです。ルーターは、[LAN 設定] 画面で指定するアドレスプールから、接続されたコンピューターに対し IP アドレスを割り当てます。LAN 上で重複したアドレスが発生しないよう、各プールアドレスは割り当てられる前にテストされます。ほとんどのアプリケーションでは、ルーターのデフォルト DHCP と TCP/IP 設定で十分です。

開始 IP アドレスと終止 IP アドレスを設定することによって、ルーターが割り当てる IP アドレスのプールを指定できます。これらのアドレスは、ルーターの IP アドレスと同じサブネットである必要があります。デフォルトのアドレススキームを使用し、192.168.1.2 から 192.168.1.254 の間の範囲を指定してください。ただし、一部は固定アドレスを使用するデバイスのために保留しておく必要があります。

ルーターは、DHCP を要求する LAN デバイスに対し、次のパラメータを提供します。

- 指定した範囲内の IP アドレス
- サブネットマスク
- ゲートウェイ IP アドレス（ルーターの LAN IP アドレス）
- DNS サーバー IP アドレス（ルーターの LAN IP アドレス）

ネットワーク上の別のデバイスを DHCP サーバーとして使用したり、すべてのコンピューターのネットワーク設定を指定したりできます。

➤ ルーターの DHCP サーバー機能を無効にするには：

1. [高度] > [設定] > [LAN 設定] を選択します。
2. [ルーターを DHCP サーバーとして使用する] チェックボックスのチェックを外します。
3. [適用] ボタンをクリックします。
4. (オプション) このサービスを無効にした場合、ネットワーク上に他の DHCP サーバーがないときは、コンピューターの IP アドレスを手動で設定して、コンピューターがルーターにアクセスできるようにします。

アドレス解決を設定する

LAN 上のコンピューターに予約 IP アドレスを指定すると、このコンピューターはルーターの DHCP サーバーにアクセスするたびに同じ IP アドレスを受け取ります。永久的な IP 設定が必要なコンピューターまたはサーバーには予約 IP アドレスを割り当てます。

➤ IP アドレスを予約するには：

1. [高度] > [設定] > [LAN 設定] を選択します。
2. 画面の [予約アドレス] の項目で、[追加] ボタンをクリックします。
3. [IP アドレス] の欄に、コンピューターまたはサーバーに割り当てる IP アドレスを入力します。

ルーターの LAN サブネットから IP アドレスを選択します (192.168.1.x など)。

4. コンピューターまたはサーバーの MAC アドレスを入力します。

ヒント： コンピューターがすでにネットワーク上にある場合は、その MAC アドレスを [接続デバイス] 画面からコピーして、ここに貼り付けることができます。

5. [適用] ボタンをクリックします。

予約されたアドレスが、テーブルに入力されます。

予約アドレスは、コンピューターが次にルーターの DHCP サーバーに接続するまで割り当てられません。コンピューターを再起動するか、または IP の設定にアクセスして DHCP のリリースと更新を強制実行します。

➤ 予約されているアドレスエントリを編集または削除するには：

1. 編集または削除する予約アドレスのラジオボタンを選択します。
2. [編集] または [削除] をクリックします。

ワイヤレス接続用の WPS ウィザード

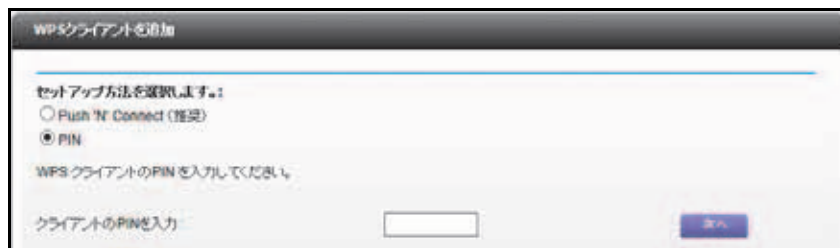
WPS ウィザードを使用すると、ワイヤレスパスワードを入力しなくても、ワイヤレスコンピューターまたはデバイスをワイヤレスネットワークに追加できます。

➤ WPS ウィザードを使用するには：


1. [高度] > [WPS ウィザード] を選択します。
2. [次へ] をクリックします。



3. 使用するセットアップ方法のラジオボタンを選択し、手順に従います。
 - **プッシュボタン：**
 - a. この画面の [WPS] ボタンをクリックするか、ルーターの [WPS] ボタンを押します。
 - b. 2 分以内にワイヤレスクライアントの **WPS** ボタンを押すと、パスワードを入力しないでネットワークに接続できます。
 - **PIN 番号：** 次のような画面が表示されます。



- a. クライアントセキュリティ PIN を入力します。
- b. [次へ] をクリックします。
- c. 2 分以内にクライアントデバイスで WPS ソフトウェアを使用すると、パスワードを入力しないでネットワークに接続できます。

ルーターのワイヤレス LED  が点滅します。WPS プロセスによってワイヤレスコンピューターがネットワークパスワードでセットアップされ、ワイヤレスネットワークに接続されます。その後、ワイヤレス LED が点灯し、ルーターの WPS 画面に確認メッセージが表示されます。

QoS 設定

QoS は特定の種類のトラフィックを他のものよりも優先するための高度な機能です。ルーターは、ワイヤレスリンクやインターネット接続において QoS 優先機能を提供することができます。

Wi-Fi マルチメディアの QoS

本製品は Wi-Fi マルチメディアの QoS (WMM QoS) に対応しており、ワイヤレス接続においてワイヤレス音声やビデオのトラフィックを優先します。WMM QoS は、4 つのアクセスカテゴリ（音声、ビデオ、ベストエフォート、バックグラウンド）に基づき、各種アプリケーションからのワイヤレスデータパケットに優先順位をつけます。アプリケーションが WMM QoS を利用するには、アプリケーション自身と、アプリケーションを実行しているクライアントの両方で WMM が有効に設定されている必要があります。WMM に対応していない従来のアプリケーションや、QoS を必要としないアプリケーションについては、ベストエフォートが割り当てられます。この設定は、音声やビデオよりも優先順位が低くなります。WMM QoS はデフォルトでは有効に設定されています。

➤ WMM QoS を有効にするには：

1. [高度] > [設定] > [QoS 設定] を選択します。



2. [WMM (Wi-Fi マルチメディア) 設定を有効にする] チェックボックスのチェックを外します。
3. [適用] ボタンをクリックします。

インターネットアクセスの QoS を設定する

次の種類のトラフィックについては、インターネットアクセスを優先することができます。

- 特定のアプリケーション
- 特定のオンラインゲーム
- ルーターの個別の LAN ポート
- MAC アドレスによる特定のデバイス

トラフィックの優先度を指定するには、これらのトラフィックについてポリシーを作成し、このポリシーを [QoS ルールの設定] 画面の QoS ポリシーテーブルに追加します。QoS ポリシーテーブルには、QoS によるメリットが大きい一般的なアプリケーションやオンラインゲームが表示されます。

アプリケーションとオンラインゲームの QoS

➤ アプリケーションとオンラインゲームの QoS ポリシーを作成するには：

1. [高度] > [設定] > [QoS 設定] を選択します。

2. [インターネットアクセスの QoS を有効にする] チェックボックスを選択します。
3. [QoS ルールの設定] ボタンをクリックします。

[QoS 優先度ルールリスト] が表示されます。

	#	QoSポリシー	優先度	説明
<input type="radio"/>	1	MSN Messenger	高	MSNメッセージング アプリケーション
<input type="radio"/>	2	Skype	最高	Skype アプリケーション
<input type="radio"/>	3	Yahoo Messenger	高	Yahooメッセージング アプリケーション
<input type="radio"/>	4	IP Phone	最高	IP電話 アプリケーション
<input type="radio"/>	5	Vonage IP Phone	最高	Vonage - IP電話 アプリケーション
<input type="radio"/>	6	NetMeeting	高	NetMeeting アプリケーション
<input type="radio"/>	7	AIM	高	AIM アプリケーション
<input type="radio"/>	8	Google Talk	最高	Google Talk アプリケーション
<input type="radio"/>	9	Netgear EVA	最高	Netgear EVA アプリケーション
<input type="radio"/>	10	SSH	高	SSH アプリケーション
<input type="radio"/>	11	Telnet	高	Telnet アプリケーション
<input type="radio"/>	12	VPN	高	VPN アプリケーション
<input type="radio"/>	13	FTP	普通	FTP アプリケーション

4. 優先度ルールを追加するには、[QoS 設定] 画面の下へスクロールし、[優先度ルールの追加] ボタンをクリックします。

QoS 優先度ルール

優先度

QoSポリシー:

優先度のカテゴリ:

アプリケーション:

優先度:

ポート範囲

接続タイプ:

開始ポート:

終了ポート:

5. [QoS ポリシー] 欄に、アプリケーションまたはゲームの名前を入力します。
6. [優先度のカテゴリ] リストで、[アプリケーション] または [オンラインゲーム] を選択します。

いずれの場合も、アプリケーションやゲームの一覧が表示されます。

7. [アプリケーション] のリストから項目を選択するか、または [アプリケーションの追加] や [ゲームの追加] を選ぶこともできます。
8. [接続タイプ] のリストが表示された場合は、[TCP]、[UDP]、または [TCP/UDP] を選択します。アプリケーションまたはゲームが使用するポート番号またはポート番号の範囲を指定します。
9. [優先度] リストから、このトラフィックがインターネットにアクセスする場合、他のアプリケーションやトラフィックと比べてどの程度優先されるべきかを指定します。[低]、[普通]、[高]、[最高] から選ぶことができます。

10. [適用] ボタンをクリックします。

ルールが QoS ポリシーリストに保存されます。

[QoS 設定] 画面に戻ります。

ルーター LAN ポートの QoS

➤ ルーターの LAN ポートに接続されたデバイスの QoS ポリシーを作成するには：

1. [高度] > [設定] > [QoS 設定] を選択します。
2. [インターネットアクセスの QoS を有効にする] チェックボックスを選択します。
3. [QoS ルールの設定] ボタンをクリックします。
4. [優先度ルールの追加] ボタンをクリックします。
5. [優先度のカテゴリ] リストから、[イーサネット LAN ポート] を選択します。



6. [QoS ポリシー] リストから、LAN ポートを選択します。
7. [優先度] リストから、このポートがインターネットにアクセスする場合、他のアプリケーションやトラフィックと比べてどの程度優先されるべきかを指定します。[低]、[普通]、[高]、[最高] から選ぶことができます。
8. [適用] ボタンをクリックします。
ルールが QoS ポリシーリストに保存されます。
[QoS 設定] 画面に戻ります。
9. [適用] ボタンをクリックします。

MAC アドレスの QoS

➤ 特定の MAC アドレスからトラフィックの QoS ポリシーを作成するには：

1. [高度] > [設定] > [QoS 設定] を選択します。
2. [QoS ルールの設定] ボタンをクリックします。
[QoS 設定] 画面が表示されます。
3. [優先度ルールの追加] ボタンをクリックします。

4. [優先度のカテゴリ] リストから、[MAC アドレス] を選択します。

5. 優先させるデバイスが MAC デバイスリストにある場合、該当するラジオボタンを選択します。

MAC デバイスリストの情報から QoS ポリシー、MAC アドレス、機器名の欄が埋まります。デバイスが MAC デバイスリストに表示されない場合は、[更新] をクリックします。更新しても表示されない場合は、各欄を埋めてください。

6. [優先度] リストから、このデバイスがインターネットにアクセスする場合、他のアプリケーションやトラフィックと比べてどの程度優先されるべきかを指定します。[低]、[普通]、[高]、[最高] から選ぶことができます。
7. [適用] ボタンをクリックします。
ルールが QoS ポリシーリストに保存されます。
[QoS 設定] 画面が表示されます。
8. [インターネットアクセスの QoS を有効にする] チェックボックスを選択します。
9. [適用] ボタンをクリックします。

既存の QoS ポリシーの編集または削除

➤ QoS ポリシーを編集または削除するには：

1. [高度] > [QoS 設定] を選択します。
2. 編集または削除する QoS ポリシーのラジオボタンを選択し、次のいずれかの操作を行います。
 - QoS ポリシーを削除するには [削除] をクリックします。
 - QoS ポリシーを変更するには、[編集] をクリックします。
3. [適用] ボタンをクリックします。
変更が [QoS 設定] 画面に保存されます。

USB ストレージデバイスへのアクセスと設定

この章では、ルーターに接続された USB ストレージドライブへのアクセスと、その設定方法について説明します。ルーター上の USB ポートは、フラッシュドライブ、ハードドライブ、プリンターなどの USB ストレージデバイスを接続するためにのみ使用できます。ルーターの USB ポートにコンピューター、USB モデム、CD ドライブ、DVD ドライブを接続しないでください。

この章には次の内容が含まれます。

- *USB ドライブの要件*
- *USB ストレージデバイスをルーターに接続する*
- *ドライブの安全な取り外し*
- *USB ストレージデバイスにアクセスする*
- *ファイルを共有する*
- *ルーターに接続されている USB デバイスを表示する*
- *USB ストレージデバイスのネットワークとアクセスの設定*
- *利用可能なネットワークフォルダー*
- *承認済み USB デバイスを指定する*
- *メディアサーバーの設定*

ReadySHARE プリント機能の使用については、第 6 章、*ReadySHARE プリント*を参照してください。

ReadySHARE 機能の詳細については、<http://www.netgear.jp/solutions/homesolutions/readystatechange/>を参照してください。

USB ドライブの要件

ルーターでは、ほとんどの USB フラッシュドライブおよびハードドライブを使用できます。ルーターがサポートする USB ドライブの最新のリストについては、次の場所を参照してください。

<http://kbserver.netgear.com/readystatechange>

メモ：一部の USB フラッシュドライブおよびハードドライブは、アクセスするためにコンピューターにドライバーをロードする必要があります。そのような USB デバイスは、ルーターでは動作しません。

ルーターは、以下のファイルシステムタイプで読み取り / 書き込みアクセスに対応しています。

- FAT16、FAT32
- NTFS
- 圧縮形式を有効にした NTFS
- Ext2、Ext3、Ext4
- XFS
- HFS
- HFS+

メモ：このルーターでは Time Machine はサポートされないため、HFS+ Journal は読み取りだけです。Time Machine の詳細については、<http://www.netgear.jp/solutions/homesolutions/readystatechange/> または Mac のドキュメントを参照してください。

USB ストレージデバイスをルーターに接続する

ReadySHARE を使うと、ルーターの USB ポートに接続された USB ドライブにアクセスしたり共有できます。USB デバイスで特別なドライバーが使用されている場合、互換性はありません。

➤ **USB ストレージデバイスを接続するには：**

1. USB ストレージデバイスをルーターの背面の USB 3.0 ポートに挿入します。



USB3.0 対応の USB ハードドライブを共有する場合は、ルーターの背面にある青い USB 3.0 ポートを使用します。USB プリンターを共有する場合は、ルーターの側面にある USB 2.0 ポートに接続します。

2. USB デバイ스에電源が付属している場合は、ルーターに接続する際に別途電源コンセントに差し込む必要があります。

USB デバイスが共有できるようになるまで、2 分程度かかる場合があります。

ドライブの安全な取り外し

USB ドライブをルーターの USB ポートから物理的に取り外す場合は、最初にルーターにログインし、ドライブを安全に取り外します。

➤ **USB ディスクドライブを安全に取り外すには：**

1. [USB ストレージ] > [基本設定] を選択します。
2. [USB 機器の安全な取り外し] ボタンをクリックします。
これでドライブがオフラインになります。
3. USB ドライブを USB ポートから物理的に取り外します。

USB ストレージデバイスにアクセスする

USB デバイスをルーターの USB ポートに接続したとき、共有の準備ができるまで 2 分程度かかる場合があります。デフォルトでは、USB ストレージデバイスは LAN 上のすべてのコンピュータで使用可能です。

➤ **Mac から USB デバイスにアクセスするには：**

1. [移動] > [サーバへ接続] を選択します。
2. サーバーアドレス部分に `smb://readyshare` と入力します。
3. [接続] をクリックします。

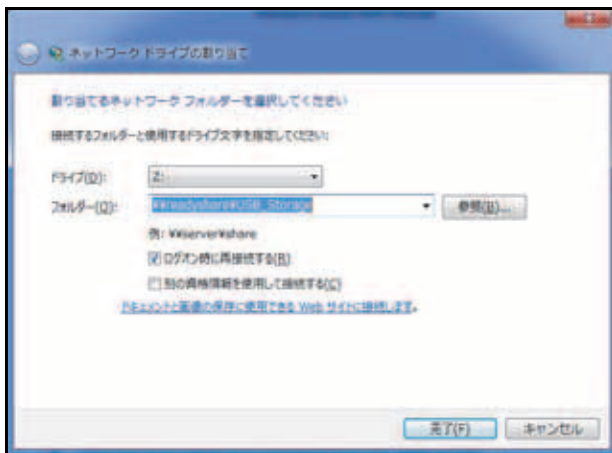
➤ Windows コンピューターから USB デバイスにアクセスするには：

次のいずれかの方法を使用します。

- [スタート] > [ファイル名を指定して実行] を選択します。ダイアログボックスに \\readyshare と入力し、[OK] をクリックします。
- ブラウザーを開き、アドレスバーに \\readyshare と入力します。
- [マイネットワーク] で、アドレスバーに \\readyshare と入力します。

➤ USB デバイスを Windows ネットワークドライブに割り当てるには：

1. <http://www.netgear.jp/solutions/homesolutions/readyshare/> にアクセスします。
2. [ReadySHARE USB ストレージアクセス] のカテゴリで、[Windows 用ユーティリティ] をクリックします。
3. 画面の指示に従って、readyshareconnect.exe ファイルをダウンロードし、解凍します。
4. readyshareconnect.exe を起動します。



5. ネットワークフォルダーに割り当てるドライブ文字を選択します。
6. (オプション) 異なるユーザーとして USB ドライブに接続する場合は、[別の資格情報を使用して接続する] チェックボックスを選択します。
 - a. 使用するユーザー名とパスワードを入力します。
 - b. [OK] をクリックします。
7. [完了] をクリックします。

USB ドライブが指定したドライブ文字に割り当てられます。

➤ リモートコンピューターから USB ドライブにアクセスするには：

1. Web ブラウザーを起動します。
2. ルーターのインターネット IP アドレスを使用して接続します。

ダイナミック DNS を使うと、IP アドレスではなく DNS 名を入力することができます。ルーターのインターネット IP アドレスは、基本ホーム画面で確認できます（17 ページの [ダッシュボード](#)（[基本ホーム画面](#)）を参照）。

➤ リモートコンピューターから FTP で USB ドライブにアクセスするには：

1. [USB ストレージ (詳細設定)] 画面の [アクセス方法] の項目で [FTP] チェックボックスが選択されていることを確認します (52 ページの [USB ストレージデバイスのネットワークとアクセスの設定](#)を参照)。
2. Web ブラウザーを起動します。
3. ブラウザーのアドレスバーに、**ftp://** およびインターネット IP アドレスを入力します。
例えば、**ftp://10.1.65.4** などと入力します。
ダイナミック DNS を使うと、IP アドレスではなく DNS 名を入力することができます。
4. USB ドライブに対してアクセス権を持つアカウントのアカウント名とパスワードを入力します。
[すべてパスワードなし] のユーザー名 (アカウント名) は **guest** です。
ユーザーアカウントがアクセス権を持つ USB ドライブのディレクトリが表示されます (例：share/partition1/directory1)。これで USB ディレクトリからファイルを読み取ったり、コピーしたりすることができます。

ファイルを共有する

ビジネスやエンターテイメントなどの各種目的で、USB ドライブ内のファイルを共有することができます。Windows、Mac、Linux のテキスト、Word、PowerPoint、Excel、MP3、画像、マルチメディアファイルなどを利用することができます。USB ドライブアプリケーションには以下が含まれます。

- MP3 ファイル、写真、その他のマルチメディアファイルを友人や家族など、ローカルまたはリモートユーザーと共有。
- ネットワーク上でリソースを共有。ファイルをネットワーク上に保存しておけば、ローカルの共有を実行するときコンピューターの電源を入れずに済みます。また、USB ドライブは OS を問わず利用できるため、Macintosh、Linux、PC の間でファイルを共有することができます。
- Word ドキュメント、PowerPoint プレゼンテーション、テキストファイルなどをリモートユーザーと共有。

以下に一般的な用途について説明しています。

写真の共有

写真やマルチメディアを保存するためのセントラルストレージを作成することができます。セントラルストレージを作成すると、外部の有料写真共有サイトにわざわざログインする必要がなくなります。

➤ 友人や家族とファイルを共有するには：

1. USB ドライブを直接、または USB ケーブルを使用してルーターに接続します。

LAN 上のコンピューターは、Web ブラウザーやマイネットワークから直接この USB ドライブにアクセスすることができます。

2. 読み取り専用アクセスを指定する場合、またはインターネットからのアクセスを許可する場合は、52 ページの [USB ストレージデバイスのネットワークとアクセスの設定](#)を参照してください。

印刷用にファイルをセントラルストレージに保存する

ご家庭内で 1 台の高画質カラープリンターが直接コンピューターに接続されており、LAN 上で共有されていない場合に写真を印刷する方法を紹介します。この家庭にはプリントサーバーがありません。

- 家族の 1 人は Macintosh に写真を保存しており、これを印刷したいと思っています。
 - 写真対応の高画質カラープリンターは 1 台の Windows コンピューターに接続されていますが、このプリンターはネットワーク上で共有されていません。
 - Mac と Windows コンピューターは、ネットワーク上でお互いを認識していません。
- **Mac の写真を Windows コンピューターに接続されたプリンターで印刷するには：**
- Mac の Web ブラウザーのアドレスバーに `\\readyshare` と入力し、USB ドライブにアクセスします。次に、写真を USB ドライブにコピーします。
 - Window コンピューターで、Web ブラウザーまたはマイネットワークを使い、ファイルを USB ドライブからコンピューターにコピーします。このファイルを印刷します。

インターネット上で大きなファイルを共有する

サイズが 5MB 以上あるファイルを送信する場合、E メールではうまく送信できない場合があります。ルーターは、インターネット上で PowerPoint プレゼンテーションや .zip ファイルなど、大きなファイルを共有することができます。FTP を使ってルーターから共有ファイルをダウンロードできます。

遠方にいる同僚とファイルを共有する場合は、以下のことを考慮してください。

- 2 つのユーザーアカウント `admin` と `guest` があります。`admin` のパスワードは、ルーターにアクセスするためのパスワードと同じです。デフォルトのパスワードは **password** です。`guest` ユーザーアカウントにはパスワードはありません。
- FTP サイトでは、ファイルを受信する人がゲストユーザーアカウントを使用し、パスワードを入力する必要があります（FTP では、パスワード欄に何らかの入力が必要です）。
- USB ストレージの詳細設定画面で、**[FTP（インターネット経由）]** のチェックボックスを選択します。このオプションは、ファイルのダウンロードとアップロードの両方に対応しています。

メモ： 詳細設定の USB ストレージ画面で **[HTTPS（インターネット経由）]** オプションを有効にし、大きなファイルを共有することができます。このオプションは、ファイルのダウンロードにのみ対応しています。

ルーターに接続されている USB デバイスを表示する

➤ USB ストレージデバイスに関する基本情報を表示するには：

1. [基本] > [ReadySHARE] を選択します。



デフォルトでは [基本] ラジオボタンが選択されています。ルーターの USB ポートに USB ストレージデバイスが接続されている場合は、この画面に表示されます。

USB デバイスを接続する前にルーターにログインした場合、この画面に USB デバイスが表示されない場合があります。その場合は、一度ルーターの管理画面からログアウトして再度ログインします。

2. (オプション) USB デバイスにファイルおよびフォルダーを表示するには、ネットワーク/デバイス名または共有名をクリックします。
3. (オプション) 詳細を表示したり、USB デバイスの設定を変更したりするには、[編集] をクリックします。

[USB ストレージ (詳細設定)] 画面が表示されます。52 ページの [USB ストレージデバイスのネットワークとアクセスの設定](#) を参照してください。

USB ストレージデバイスのネットワークとアクセスの設定

USB デバイスのデバイス名、ワークグループ、ネットワークフォルダーを設定することができます。

➤ USB ストレージの詳細設定を確認または変更するには：

1. [高度] > [USB ストレージ] > [詳細設定] を選択します。



2. USB ストレージデバイスへのアクセスを指定します。

- **USB デバイスへのアクセス**：デフォルトの名前は readyshare です。ルーターに接続された USB デバイスにアクセスするには、この名前を使用します。
- **ワークグループ**：ドメインではなく Windows ワークグループを使用している場合、ここにワークグループ名が表示されます。ワークグループ名は Microsoft Windows などの NetBIOS をサポートしている OS のみで機能します。
- **アクセス方法**：使用するアクセス方法のチェックボックスを選択します。
 - **ネットワーク接続**：デフォルトで有効になっています。
 - **HTTP**：デフォルトで有効になっています。<http://readyshare.routerlogin.net/shares> と入力して USB ドライブにアクセスできます。
 - **HTTP (インターネット経由)**：デフォルトは無効になっています。この機能を有効にすると、リモートユーザーは <http://<public IP address>/shares> (例：<http://1.1.10.102/shares>) または URL ドメイン名を入力して、インターネット経由で USB ドライブにアクセスできます。この機能では、ファイルのアップロードのみ可能です。
 - **FTP**：デフォルトは無効になっています。
 - **FTP (インターネット経由)**：デフォルトは無効になっています。このチェックボックスを選択すると、リモートユーザーはインターネット経由で FTP から

USB ドライブにアクセスすることができます。この機能は、ファイルのダウンロードとアップロードの両方に対応しています。

3. 設定を変更した場合は、[適用] をクリックします。
変更が保存されます。

利用可能なネットワークフォルダー

USB ストレージデバイス上のネットワークフォルダーを表示または変更できます。

- ▶ ネットワークフォルダーを表示するには：
 1. [高度] > [USB ストレージ] > [詳細設定] を選択します。



2. 画面の [利用可能なネットワークフォルダー] 欄までスクロールダウンします。
 - **共有名**：デバイスが 1 台だけしか接続されていない場合、デフォルトの共有名は USB_Storage です（ルーターのモデルによっては、複数の USB ポートがあります）。名前をクリックするか、Web ブラウザーのアドレスバーに名前を入力します。共有なしと表示されている場合、デフォルトの共有が削除され、ルートフォルダーにはその他の共有がないことを意味します。リンクをクリックし、設定を変更してください。
 - **リーダクセス / ライトアクセス**：ネットワークフォルダーの許可とアクセス制御を示します。[すべてパスワードなし]（デフォルト）では、すべてのユーザーがネットワークフォルダーにアクセスできます。admin のパスワードは、ルーターにログインするためのパスワードと同じです。
 - **フォルダー名**：ネットワークフォルダーのフルパスです。
 - **ボリューム名**：ストレージデバイス（USB ドライブまたは HDD）のボリューム名です。
 - **合計の容量 / 空き容量**：現在のストレージデバイスの使用状況を表示します。

➤ ネットワークフォルダーを追加するには：

1. [基本] > [ReadySHARE] を選択します。
2. [編集] をクリックします。
3. [新規フォルダーの作成] をクリックします。

USBデバイス	U. (名称未設定 1) ▼
フォルダー	<input type="text"/> 参照
共有名	<input type="text"/>
リードアクセス	すべてパスワードなし ▼
ライトアクセス	すべてパスワードなし ▼
適用	
ウィンドウを閉じる	

[新規フォルダーの作成] 画面が表示されない場合は、Web ブラウザーでポップアップがブロックされている可能性があります。その場合は、ブラウザの設定を変更してポップアップを許可してください。

4. [フォルダー] の欄で、フォルダーを参照して選択します。
5. [共有名] の欄に値を入力します。
6. [リードアクセス] リストおよび [ライトアクセス] リストで、適切な設定を選択します。
[すべてパスワードなし] のユーザー名 (アカウント名) は guest です。ルーター管理者のパスワードは、ルーターにログインするためのパスワードと同じです。デフォルトでは、パスワードは password となっています。
7. [適用] ボタンをクリックします。
フォルダーが USB デバイスに追加されます。

➤ ネットワークフォルダーを編集するには：

1. [基本] > [ReadySHARE] を選択します。
2. [編集] ボタンをクリックします。
[利用可能なネットワークフォルダー] の欄で、[編集] をクリックします。
3. 必要に応じて設定を変更します。
4. [適用] ボタンをクリックします。
変更が保存されます。

承認済み USB デバイスを指定する

安全性を高めるため、ルーターが承認された USB デバイスのみを共有するよう設定することができます。

➤ 承認済み USB デバイスを設定するには：

1. [高度] > [高度な設定] > [USB 設定] を選択します。



2. [承認済みの機器] ボタンをクリックします。



この画面には承認済みの USB デバイスと利用可能な USB デバイスが表示されます。ここで承認済みの USB デバイスを削除したり、追加したりできます。

3. [利用可能な USB 機器] リストで、承認するドライブを選択します。
4. [追加] ボタンをクリックします。
5. [承認済み機器のみ許可] のチェックボックスを選択します。
6. [適用] ボタンをクリックします。

変更内容が有効になります。

別の USB デバイス进行操作する場合は、まず [USB 機器の安全な取り外し] のボタンをクリックし、現在接続されている USB デバイスを取り外してください。新しい USB デバイスを接続し、このプロセスを繰り返します。

メディアサーバーの設定

デフォルトでは、ルーターは ReadyDLNA メディアサーバーとして機能するように設定されています。これにより、Xbox360、プレイステーション、NETGEAR メディアプレーヤーなどの DLNA/UPnP AV 対応メディアプレーヤーでムービーや写真を閲覧できます。ルーターは、DLNA 互換形式で DLNA/UPnP AV 対応メディアプレーヤーにメディアを提供します。

▶ **メディアサーバーの設定を指定するには：**

1. [高度] > [USB ストレージ] > [メディアサーバー] を選択します。



デフォルトは、[メディアサーバーを有効にする] のチェックボックスと [自動 (新規ファイル追加時)] のラジオボタンが選択されています。これらのオプションが選択されていると、ルーターは新しいファイルが ReadySHARE USB ハードドライブに追加されるたびにメディアファイルを検索します。

2. 使用する設定を指定します。
 - **メディアサーバーを有効にする**：このデバイスをメディアサーバーとして有効にするには、このチェックボックスを選択します。
 - **TiVo サポートを有効にする**：
 - ※TiVo は現時点では日本で使用できません。
 - **メディアサーバー名**：メディアサーバーの名前を指定します。
 - **自動 (新規ファイル追加時)**：このラジオボタンを選択すると、ルーターは新しいファイルが ReadySHARE USB ストレージに追加されるたびにメディアファイルを自動的に検索します。メディアファイルをスキャンできるのは、[リードアクセス] リストで [すべてパスワードなし] の共有フォルダーだけです。
3. [適用] ボタンをクリックします。
変更内容が有効になります。

ReadySHARE プリント

6

共有 USB プリンターのセットアップと管理

ReadySHARE プリントは Mac や Windows コンピューターに対応しています。USB プリンターをルーターの USB ポートに接続し、ワイヤレスで接続することができます。

この章には次の内容が含まれます。

- *ReadySHARE プリントユーティリティ*
- *ReadySHARE プリントユーティリティのセットアップ*
- *NETGEAR USB Control Center をインストールする*
- *USB 印刷およびスキャンジョブを管理する*

メモ : ルーターの USB ポートには、フラッシュドライブ、ハードドライブ、プリンターなどの USB デバイスのみを接続できます。ルーターの USB ポートにコンピューター、USB モデム、CD ドライブ、DVD ドライブを接続しないでください。

ReadySHARE プリントユーティリティ

ReadySHARE プリントユーティリティを利用すると、コンピューターからルーターの USB ポートに接続された USB プリンターを制御できます。この USB プリンターは、ネットワークの Windows コンピューターと Mac コンピューターで共有できます。

ReadySHARE プリント機能を使用する前に、このユーティリティをインストールする必要があります。

- USB プリンターを制御する各コンピューターに ReadySHARE プリントユーティリティをインストールし、バックグラウンドで実行している必要があります。
- ReadySHARE プリントユーティリティには、Mac バージョンと Windows バージョンがあります。
- ReadySHARE プリントユーティリティのセットアップファイルと説明は、次の URL から入手できます。
<http://www.netgear.jp/solutions/homesolutions/readystatechange/>

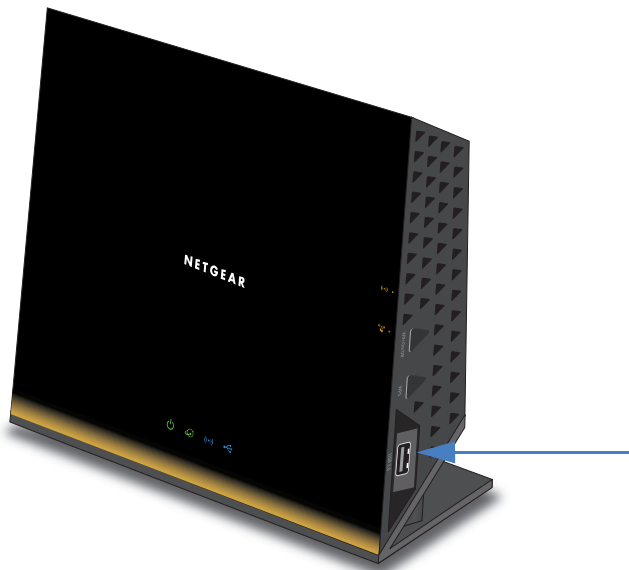
インストールした ReadySHARE プリントユーティリティは、コンピューターに NETGEAR USB Control Center として表示されます。

ReadySHARE プリントユーティリティのセットアップ

USB プリンターを制御するネットワーク内の各コンピューターにユーティリティをインストールする必要があります。

➤ ReadySHARE プリントをセットアップするには：

1. USB ケーブルを使用してプリンターをルーターの側面の USB ポートに接続します。



メモ：一部の USB プリンター (HP や Lexmark プリンターなど) では、インストールソフトウェアで指示があるまでは USB ケーブルを接続しないよう要求されることがあります。

2. USB プリンターを共有するネットワーク上の各コンピューターに、USB プリンターのドライバーソフトウェアをインストールします。

プリンタードライバーがない場合は、プリンターのメーカーにお問い合わせください。ほとんどのドライバーはメーカー Web サイトからダウンロードすることができます。

3. ReadySHARE プリントユーティリティのセットアップファイルと説明を次の場所からダウンロードします。

<http://www.netgear.jp/solutions/homesolutions/readystatechange/>



4. USB プリンターを共有するネットワーク上の各コンピューターに、ReadySHARE プリントユーティリティをインストールします。

インストールした ReadySHARE プリントユーティリティは、コンピューターに NETGEAR USB Control Center として表示されます。

NETGEAR USB Control Center をインストールする

ReadySHARE プリント機能を使用するには、USB プリンターを制御するネットワーク内の各コンピューターにこのユーティリティをインストールし、バックグラウンドで実行している必要があります。

インストールした ReadySHARE プリントユーティリティは、コンピューターに NETGEAR USB Control Center として表示されます。

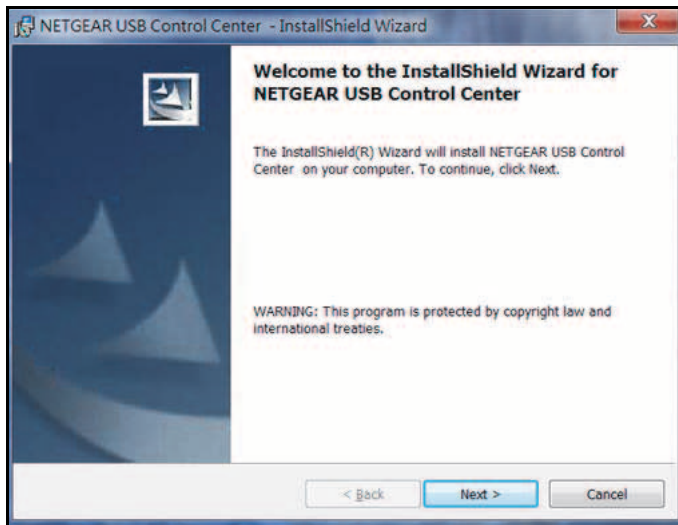
➤ NETGEAR USB Control Center をインストールするには：

1. USB プリンターを共有するネットワーク上の各コンピューターで、ダウンロードした ReadySHARE プリントユーティリティのセットアップファイルをダブルクリックします。

ReadySHARE プリントユーティリティのセットアップファイルと説明は、次の URL からダウンロードできます。

<http://www.netgear.jp/solutions/homesolutions/readystatechange/>

2. 画面の指示に従い、NETGEAR USB Control Center ユーティリティをインストールします。



3. 言語を選択し、[OK] をクリックします。



ユーティリティがインストールされます。

4. USB プリンターを共有するネットワーク上の各コンピューターで、NETGEAR USB Control Center の初期セットアップを実行します。

ルーターに接続されている USB プリンターを初めて使用するときに、USB プリンターの選択を求められます。

5. (オプション) デフォルトの設定を変更します。

詳細については、62 ページの [NETGEAR USB Control Center を設定する](#) を参照してください。

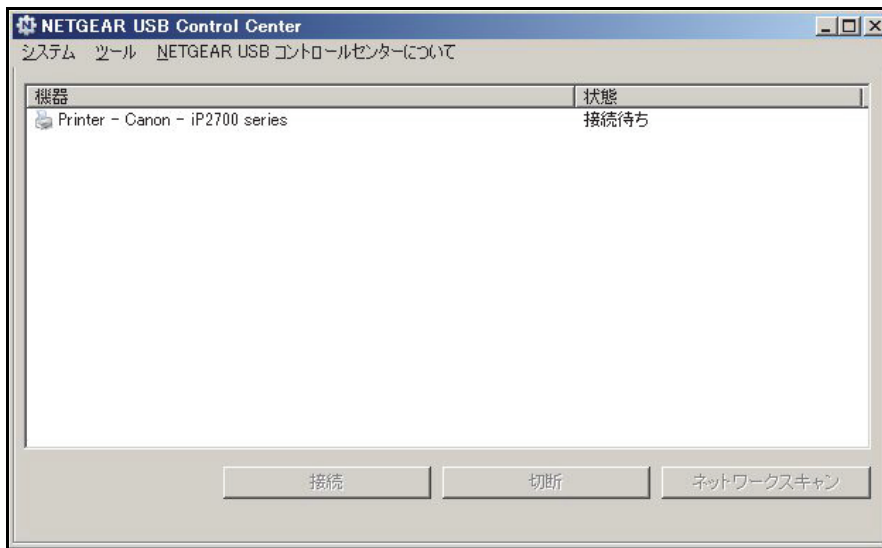
NETGEAR USB Control Center をセットアップする

初めてユーティリティにアクセスする場合、プリンターの選択を求められます。

- 初期セットアップの間に USB プリンターが検出され、自動的に接続された場合は、プリンターを取り外し、指示を待ってから [接続] をクリックします。
- このプリンターのドライバーをインストールするよう指示される可能性があります。ドライバーをインストールすると、プリンターのステータスが [使用可] に変わります。

➤ NETGEAR USB Control Center をセットアップするには：

1. USB プリンターを共有するネットワーク上の各コンピューターで、NETGEAR USB Control Center を起動します。
2. プリンターを選択し、[接続] ボタンをクリックします。



接続が確立されると、ステータスが [Manually connected by (コンピューター名)] に変わります。



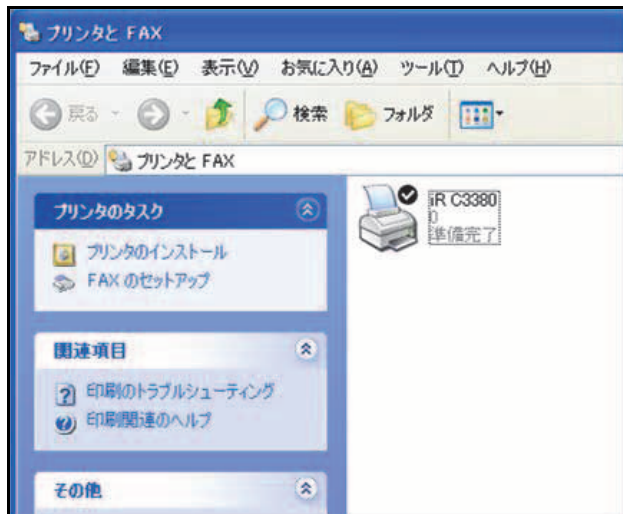
3. 接続を解除するには、[切断] ボタンをクリックします。
ステータスが [使用可] に変わります。



各コンピュータで、[接続] ボタンや [切断] ボタンをクリックすると、ユーティリティが自動的に印刷キューを処理します。プリンターのステータスは、すべてのコンピュータで [使用可] になります。

ユーティリティは、USB プリンターの接続を常に維持する必要はありません。USB プリンターに対する印刷ジョブが作成された後、NETGEAR USB Control Center はこの USB プリンターに自動的に接続して印刷を行います。印刷ジョブが完了すると、プリンターのステータスは [一時停止] に戻る場合があります。

例えば、Windows の [プリンターと FAX] ウィンドウに表示される USB プリンターが印刷ジョブを処理できる状態になります。



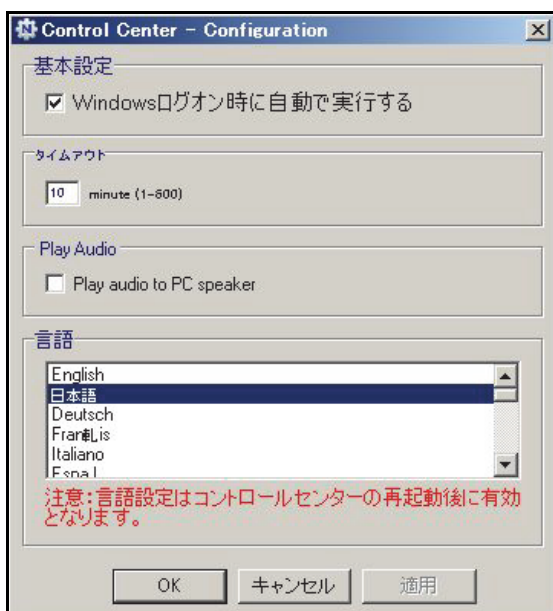
NETGEAR USB Control Center を設定する

[Configuration] 画面では、タイムアウトおよび他の設定を指定できます。

▶ NETGEAR USB Control Center を設定するには：

1. Windows または MAC コンピューターで NETGEAR USB Control Center を起動します。

2. [Tools (ツール)] > [Configuration (設定)] を選択します。



3. 以下の設定を指定します。

- **Automatically execute when logging on Windows (Windows ログオン時に自動で実行する)** : Windows にログオンすると、自動的にユーティリティを有効にします。
- **Timeout (タイムアウト)** : しばらく使用しないときに、接続を維持する時間を指定します。
- **Language (言語)** : このユーティリティの言語を選択します。

4. [OK] をクリックします。

変更が保存されます。

USB 印刷およびスキャンジョブを管理する

NETGEAR USB Control Center ユーティリティは、ネットワークの各コンピューターにおいてバックグラウンドで実行します。このユーティリティは、印刷キューおよびルーターに接続されている USB プリンターの処理を管理します。

ネットワークの各コンピューターでユーティリティを実行した後、USB プリンターのステータスはすべてのコンピューターで [使用可] になります。

- ステータスが [使用可] の場合は、ネットワーク内のどのコンピューターからでも USB プリンターを使用できます。各コンピューターのユーティリティが、印刷キューと処理を自動的に管理します。処理中の印刷ジョブがない場合は、すべてのコンピューターで USB プリンターのステータスが [使用可] と表示されます。
- ステータスが [Manually connected by (コンピューター名)] の場合、(コンピューター名) のみプリンターに接続することができます。他のネットワークデバイスは、(コンピューター名) が接続を解除するまで待つか、または接続がタイムアウトするまで待つて接続する必要があります (デフォルトタイムアウトは 30 秒です)。

接続を解除するには、[切断] ボタンをクリックします。

デフォルトのタイムアウト値は [Configuration (設定)] 画面で設定できます。詳細については、62 ページの [NETGEAR USB Control Center を設定する](#) を参照してください。

Comodo などのファイアウォールソフトを使用していると、NETGEAR USB Control Center が USB プリンターにアクセスするのをブロックしてしまう場合があります。ユーティリティに USB プリンターが表示されていない場合、一時的にファイアウォールを無効にし、ユーティリティが機能するよう設定してください。

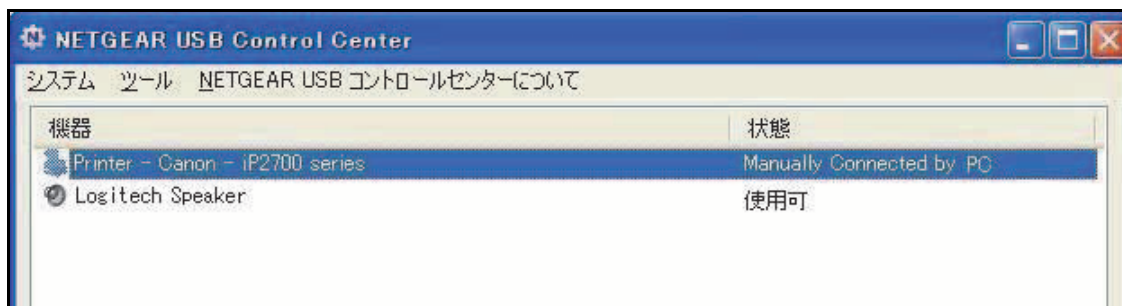
USB プリンターがスキャンをサポートする場合、USB プリンターをスキャンに使用することもできます。詳細については、66 ページの [多機能 USB プリンターのスキャン機能を使用する](#) を参照してください。

NETGEAR USB Control Center を起動する

NETGEAR USB Control Center には、USB デバイスの使用可能ステータスが表示されます。ルーターに接続された USB プリンターで印刷する場合は、コンピューターで NETGEAR USB Control Center ユーティリティを実行している必要があります。ユーティリティを終了すると、プリンターは機能しなくなります。

➤ NETGEAR USB Control Center を起動するには：

Windows または MAC コンピューターで NETGEAR USB Control Center を起動します。



NETGEAR USB Control Center のメイン画面ではデバイスのアイコン、USB デバイスの説明、それらのステータスが確認できます。

- **使用可**：このデバイスは、現在使用中のコンピューターで利用することができます。
- **接続待機**：現在使用中のコンピューターからこのデバイスに接続する必要があります。初めて接続する際は、デバイスドライバをインストールするよう指示される場合があります。

以下のメニュー選択が表示されます。

- **System (システム)**：ユーティリティを終了します。
- **Tools (ツール)**：コントロールセンターの設定にアクセスし、共有 USB デバイスを設定します。詳細については、62 ページの [NETGEAR USB Control Center を設定する](#) を参照してください。
- **About (NETGEAR USB コントロールセンターについて)**：NETGEAR USB Control Center ソフトウェアに関する詳細を表示します。

次のボタンを使用できます。

- **Connect (接続)**：初めてユーティリティにアクセスする場合、プリンターを選択し、[Connect (接続)] ボタンをクリックします。
- **Dosconnect (切断)**：接続を解除するには、[切断] ボタンをクリックします。
- **Network Scanner (ネットワークスキャン)**：スキャナーウィンドウが起動し、プリンターをスキャンに使用することができます。プリンターがスキャンをサポートし、「使用可」状態になっている必要があります。

多機能 USB プリンターのスキャン機能を使用する

USB プリンターがスキャンに対応している場合、USB プリンターをスキャンに使用することもできます。

- 多機能 USB プリンターのスキャン機能を使用するには：
1. Windows または MAC コンピューターで NETGEAR USB Control Center を起動します。
 2. プリンターのステータスが [使用可] になっていることを確認します。
 3. [Network Scanner (ネットワークスキャン)] ボタンをクリックします。



スキャナーウィンドウが起動し、USB プリンターをスキャンに使用することができます。

セキュリティ

7

ファイアウォールの設定のカスタマイズ

この章では、ルーターの基本的なファイアウォール機能を使って有害コンテンツが PC やその他のネットワークデバイスに入ってこないように保護するための方法を説明しています。

この章には次の内容が含まれます。

- [HTTP トラフィックのキーワードブロック](#)
- [禁止サービス（ポートフィルタリング）](#)
- [ポートトリガーで受信ポートを開く](#)
- [外部ホスト通信を許可するためのポート転送](#)
- [ポート転送とポートトリガーの違い](#)
- [ローカルサーバーへのポート転送を設定する](#)
- [ポートトリガーの設定](#)
- [禁止スケジュール](#)
- [セキュリティイベントのメール通知を設定する](#)

Live Parental Controls の詳細については、23 ページの [ペアレンタルコントロール](#) を参照してください。

HTTP トラフィックのキーワードブロック

キーワードブロックを使い、特定の HTTP トラフィックがネットワークにアクセスするのを防ぎます。ブロック機能は、常に有効にしたり、スケジュールに基づいて有効にしたりできます。

➤ キーワードブロックを設定するには：

1. [高度] > [セキュリティ] > [禁止サイト] を選択します。



2. キーワードブロックオプションの 1 つを選択します。
 - **スケジュール指定**: 画面のスケジュール設定に基づいたキーワードブロックを有効にします (78 ページの [禁止スケジュール](#) を参照)。
 - **常にブロック**: スケジュールとは関係なく、常にキーワードブロックを有効にします。
3. キーワードの欄にキーワードまたはドメインを入力し、[キーワードの追加] ボタンをクリックし、[適用] ボタンをクリックします。

キーワードリストには 32 個まで入力することができます。以下は入力例です。

- XXX のように URL の一部を指定すると `http://www.badstuff.com/xxx.html` を禁止することができます。
- `.edu` や `.gov` などのドメインを持つサイトのみを許可する場合は、`.com` 等のドメインを指定します。
- すべてのインターネット閲覧アクセスを禁止するには、ピリオド (`.`) を入力します。

➤ キーワードやドメインを削除するには：

1. 削除するキーワードをリストから選択します。
2. [キーワードの削除] をクリックします。
3. [適用] ボタンをクリックします。

➤ 信頼できるコンピューターを指定するには：

信頼できるコンピューター 1 台にブロックサイトへのアクセスを許可できます。そのコンピューターには固定 IP アドレスが必要です。

1. [信頼できる IP アドレス] 欄に IP アドレスを入力します。
2. [適用] ボタンをクリックします。

禁止サービス（ポートフィルタリング）

サービスとは、クライアントコンピューターの要求に基づき、サーバーコンピューターが実行する機能を指します。例えば、Web サーバーは Web ページを提供し、タイムサーバーは時刻と日付の情報を提供し、ゲームホストは他のプレイヤーの動きを提供します。インターネット上のコンピューターがサーバーコンピューターにサービスの要求を送ると、要求されたサービスがサービスまたはポート番号により認識されます。この番号は、送信される IP パケットの宛先ポート番号となります。例えば、宛先ポート番号 80 番のパケットは HTTP (Web サーバー) の要求だということが分かります。

一般的なプロトコルのサービス番号は IETF (<http://www.ietf.org>) によって定義されており、RFC1700 (Assigned Numbers) という文書に発表されています。他のアプリケーションのサービス番号は、通常はアプリケーションの開発者により、1024 ~ 65535 の範囲内で選ばれます。ルーターにはさまざまなサービスのポート番号が保存されていますが、あらかじめ保存されたサービス以外にも選ぶことができます。ポート番号の情報は、通常、アプリケーションの発行元への問い合わせ、ユーザーグループやニュースグループでの質問、検索などによって入手できます。

禁止サービスの画面では、ネットワーク上のコンピューターによる特定のインターネットサービスを追加したり、禁止したりすることができます。この操作をサービスブロック、またはポートフィルタリングと呼びます。ブロック（禁止）するサービスを追加するには、まずこのアプリケーションが使用しているポート番号または番号の範囲を指定します。

➤ サービスを禁止するには：

1. [高度] > [セキュリティ] > [禁止サービス] を選択します。

2. [スケジュール指定] または [常にブロック] を選択します。
3. [スケジュール指定] を選択した場合は、[スケジュール] 画面で期間を指定します。
4. [追加] ボタンをクリックします。

[ブロックサービスの設定] 画面が表示されます。

5. [サービスタイプ] のリストから、ブロックするアプリケーションやサービスを選びます。
リストには一般的なサービスがいくつか含まれていますが、その他のサービスも追加できます。リストにはない、その他のサービスを追加したい場合は、[User Defined] を選択します。
6. アプリケーションが TCP か UDP のどちらを使用するか分かる場合は、[プロトコル] のリストでどちらか適切なほうを選択してください。分からない場合は、[TCP/UDP] を選択します。
7. 開始ポートの番号と終了ポートの番号を入力します。
アプリケーションがシングルポート番号を使用している場合は、同じ番号を両方の欄に入力してください。
8. ブロックする IP アドレスをどのように指定するかをラジオボタンで選択し、IP アドレスを入力します。
指定のサービスを 1 台のコンピューター、または IP アドレスで指定された範囲のコンピューター、またはネットワーク上のすべてのコンピューターでブロックできます。
9. [追加] ボタンをクリックします。
変更が保存されます。

ポートトリガーで受信ポートを開く

一部のアプリケーション (FTP や IRC サーバーなど) は複数のポート番号に応答を送り返します。ご利用のルーターのポートトリガー機能を使うと、特定の送信ポートがセッションを開始した場合、ルーターに追加の受信ポートを開くよう指示することができます。

例として IRC (Internet Relay Chat) を挙げます。コンピューターがターゲットポート 6667 で IRC サーバーに接続されているとします。IRC サーバーは送信元のソースポートに対して応答するだけでなく、" 認識 " メッセージをポート 113 のコンピューターに送ります。ポートトリガーを使うと、ルーターに対して「ターゲットポート 6667 のセッションを開始した

場合、送信元のコンピューターと通信できるようポート 113 での受信も許可してください」という指示を送ることができます。前の例に似た手順で、以下にポートトリガールールを設定する効果について説明します。

1. IRC クライアントプログラムを開き、コンピューターでチャットセッションを開始します。
2. IRC クライアントがターゲットポート番号 6667 を使って IRC サーバーへの要求メッセージを作成します。6667 は IRC サーバープロセスの標準ポート番号です。ご利用のコンピューターはこの要求メッセージをルーターに送ります。
3. ルーターは内部セッションテーブルにエントリを作成し、コンピューターと IRC サーバーとの間の通信セッションを記述します。ルーターは本来の情報を保存し、ソースアドレスとポートで NAT を実行し、この要求メッセージをインターネット経由で IRC サーバーに送ります。
4. 設定されたポートトリガールールを確認し、ターゲットポート番号が 6667 であることを確認すると、ルーターは受信ポート 113 のすべてのトラフィックをコンピューターに送るための追加セッションエントリを作成します。
5. IRC サーバーは、NAT 割り当てのソースポート（例：ポート 33333）をターゲットポートとして使用し、応答メッセージをルーターに送信します。IRC サーバーは、宛先ポート 113 のルーターに " 識別 " メッセージも送信します。
6. ターゲットポート 33333 に対するメッセージを受信すると、ルーターはセッションテーブルをチェックし、ポート番号 33333 に対してアクティブなセッションがあるかどうかを判断します。アクティブセッションを見つけると、ルーターは NAT により置き換えられた本来のアドレス情報を復元し、この応答メッセージをコンピューターに送ります。
7. ターゲットポート 113 に対するメッセージを受信すると、ルーターはセッションテーブルをチェックし、ポート番号 113 に対して、コンピューターに関連付けられたアクティブなセッションを検索します。ルーターはメッセージのターゲット IP アドレスをコンピューターの IP アドレスに置き換え、メッセージをコンピューターに転送します。
8. チャットセッションが終了したら、ルーターは最終的に通信中に動作していない時間を検出します。この後、ルーターはセッション情報をセッションテーブルから削除し、ポート番号 33333 または 113 では受信トラフィックが受理されなくなります。

ポートトリガーを設定するには、アプリケーションがどの受信ポートを必要としているかを理解しておく必要があります。また、受信ポートを開くトリガーとなる送信ポートの数も把握しておく必要があります。この情報は、アプリケーションの発行元やユーザーグループ、ニュースグループなどから入手できます。

トリガーされたアプリケーションを使用できるのは、一度に 1 台のコンピューターのみです。

外部ホスト通信を許可するためのポート転送

前の例では、いずれもコンピューターがインターネット上のサーバーコンピューターでアプリケーションセッションを開始していました。インターネット上のクライアントコンピューターが、ネットワーク上のサーバーコンピューターへの接続を開始するよう設定することも可能です。通常、ルーターは自分自身の送信トラフィックに対するレスポンスではない受信トラフィックを無視します。このデフォルトのルールに対し、ポート転送機能を使って例外を設定することができます。

ポート転送の一般的なアプリケーションは、前の Web サーバーの例から、クライアントとサーバーの関係を逆転させてご覧ください。この場合、リモートコンピューターのブラウザが、ローカルネットワーク上のコンピューターで実行している Web サーバーにアクセスする必要があります。ポート転送を使用すると、ルーターに対し、「ポート 80 (Web サーバープロセスの標準的なポート番号) の受信トラフィックを受信したら、これを 192.168.1.123 のローカルコンピューターに転送してください」という指示を出すことができます。次の手順は、ポート転送ルールを設定する効果を説明しています。

1. リモートコンピューターでブラウザを開き、www.example.com の Web ページを要求して、ルーターのグローバル IP アドレスを解決します。リモートコンピューターは、次のターゲット情報で Web ページの要求メッセージを作成します：

ターゲットアドレス：www.example.com の IP アドレスで、ルーターのアドレスです。

ターゲットポート番号：80 で、Web サーバープロセスの標準ポート番号です。

リモートコンピューターはこの要求メッセージをインターネット経由でルーターに送ります。

2. ルーターは要求メッセージを受信し、受信ポート 80 のトラフィックに適合するルールがあるかどうか、ルールテーブルを参照します。受信ポート 80 のトラフィックがローカル IP アドレス 192.168.1.123 に転送されるようにポート転送ルールを設定しておきます。すると、ルーターは要求メッセージ中のターゲット情報を変更します。

ターゲットアドレスは 192.168.1.123 で置き換わります。

ルーターはこの要求メッセージをローカルネットワークに送ります。

3. 192.168.1.123 の Web サーバーがこのリクエストを受信し、リクエストされた Web ページデータで応答メッセージを作成します。この後、Web サーバーはルーターにこの応答メッセージを送ります。
4. ルーターはソース IP アドレスで NAT (Network Address Translation) を実行し、この要求メッセージをインターネット経由で、www.example.com の Web ページを表示するリモートコンピューターに送ります。

ポート転送を設定するには、アプリケーションが必要とする受信ポートの情報が必要です。この情報は、アプリケーションの発行元やユーザーグループ、ニュースグループなどから入手できます。

ポート転送とポートトリガーの違い

以下は、ポート転送とポートトリガーの違いです。

- ポートトリガーは、ネットワーク上のどのコンピューターでも使用できますが、一度に 1 台しか使用できません。
- ポート転送は、ネットワーク上の 1 台のコンピューターに対して設定します。
- ポートトリガーでは、ルーターはあらかじめコンピューターの IP アドレスを知っておく必要がありません。IP アドレスは自動的に取得されます。
- ポート転送では、設定中にコンピューターの IP アドレスを指定する必要があり、IP アドレスは変更できません。

- ポートトリガーでは、受信ポートを開くために特定の送信トラフィックが必要ですが、トリガーされたポートは一定時間動作がないと閉じてしまいます。
- ポート転送は常にアクティブで、トリガーは必要ありません。

ローカルサーバーへのポート転送を設定する

ポート転送機能を使用すると、特定タイプの受信トラフィックがローカルネットワークのサーバーに送られるよう指示することができます。例えば、ローカル Web サーバー、FTP サーバー、ゲームサーバーなどを表示し、インターネット上で利用できるように設定したい場合があります。

ポート転送 / ポートトリガー画面でルーターが特定の受信トラフィックをローカルネットワークのコンピューターに転送するよう設定します。特定のアプリケーションのサーバーに加え、他の受信トラフィックがすべて転送されるデフォルト DMZ サーバーも指定することができます。

始める前に、どのタイプのサービス、アプリケーション、ゲームを提供するかを決定し、このサービスを提供するコンピューターの IP アドレスを確認します。サーバーコンピューターは常に同じ IP アドレスが必要です。

サーバーコンピューターが常に同じ IP アドレスを持つよう、本製品の予約 IP アドレス機能を使用します。39 ページの [アドレス解決を設定する](#) を参照してください。

▶ 特定の受信トラフィックを転送するには：

1. [高度] > [高度な設定] > [ポート転送 / ポートトリガー] を選択します。

ポート転送/トリガー

サービスタイプを選択してください

ポート転送
 ポートトリガー

サービス名: FTP サーバー IP アドレス: 192.168.1.4

#	サービス名	外部開始ポート	外部終了ポート	内部開始ポート	内部終了ポート	サーバー IP アドレス
1	FTP	20	21	20	21	192.168.1.4

サービスの一覧を参照してください

サービスの一覧を参照してください

サービスの一覧を参照してください

2. サービスタイプとして [ポート転送] ラジオボタンを選択します。
サービスの一覧が表示されます。追加するサービスが一覧にない場合は、74 ページの [カスタムサービスの追加](#) を参照してください。
3. [サーバー IP アドレス] の欄に入力します。
4. [追加] ボタンをクリックします。
サービスが [ポート転送 / ポートトリガー] 一覧に表示されます。

カスタムサービスの追加

[サービス名] のリストにないサービス、ゲーム、またはアプリケーションを定義するには、まずアプリケーションが使用するポート番号またはポート番号の範囲を指定します。この情報は、アプリケーションの発行元やユーザーグループ、ニュースグループなどから入手できます。ポート番号情報が分かったら、以下の手順を実行します。

▶ カスタムサービスを追加するには：

1. [高度] > [高度な設定] > [ポート転送 / ポートトリガー] を選択します。
2. サービスタイプとして [ポート転送] ラジオボタンを選択します。
3. [カスタムサービスの追加] ボタンをクリックします。

4. [サービス名] の欄に、このサービスを説明する名前を入力します。
5. [サービスタイプ] の欄で、プロトコルを選択します。分からない場合は、[TCP/UDP] を選択します。
6. [外部開始ポート] 欄に、開始ポート番号を入力します。
 - アプリケーションが使用するポートが 1 つだけの場合は、[外部終了ポート] 欄に同じ番号を入力します。
 - アプリケーションがポートの範囲を使用する場合は、[外部終了ポート] 欄に範囲の終了ポート番号を入力します。
7. いずれかの方法で内部ポートを指定します。
 - [内部ポートに同じポート範囲を使用] チェックボックスを選択します。
 - [内部開始ポート] 欄と [内部終了ポート] 欄に値を入力します。
8. [サーバー IP アドレス] 欄に入力するか、または一覧表示されている接続デバイスのラジオボタンを選択します。
9. [適用] ボタンをクリックします。
サービスが [ポート転送 / ポートトリガー] 画面のリストに表示されます。

ポート転送の編集または削除

➤ ポート転送を編集または削除するには：

1. [高度] > [高度な設定] > [ポート転送 / ポートトリガー] を選択します。
2. サービスタイプとして [ポート転送] ラジオボタンを選択します。
3. ポート転送の一覧で、サービス名の隣のラジオボタンを選択します。
4. [サービスの編集] または [サービスの削除] をクリックします。

アプリケーションの例：ローカル Web サーバーを公開する

ローカルネットワークで Web サーバーをホストしている場合、ポート転送機能を使ってインターネット上のユーザーからの Web リクエストを Web サーバーに届けることができます。

➤ ローカル Web サーバーを公開するには：

1. DHCP アドレス予約を使い、Web サーバーに固定 IP アドレスまたは動的 IP アドレスを割り当てます。

この例では、ルーターが Web サーバーに常に 192.168.1.33 という IP アドレスを割り当てるようになります。

2. [ポート転送 / ポートトリガー] 画面で、HTTP サービスを Web サーバーのローカルアドレス (**192.168.1.33**) に転送するようにルーターを設定します。

HTTP (ポート 80) は Web サーバーの標準的なプロトコルです。

3. (オプション) ホスト名をダイナミック DNS サービスに登録し、名前を使用するようにルーターを設定します。

インターネットから Web サーバーにアクセスするには、プロバイダーによって割り当てられた IP アドレスをリモートユーザーが知っている必要があります。ただし、ダイナミック DNS サービスを使用すると、リモートユーザーは mynetgear.dyndns.org などの分かりやすい名前でサーバーにアクセスすることができます。

ポートトリガーの設定

ポートトリガーは、動的拡張型のポート転送で、次のような場合に役立ちます。

- 複数のローカルコンピューターを同じアプリケーションに転送したい場合 (ただし同時ではない)。
- アプリケーションが、送信ポートとは異なる受信ポートを開く必要があるとき。

ポートトリガーが有効になると、ルーターは特定の送信 "トリガー" ポートを探して送信トラフィックを監視し始めます。ルーターがポート上の送信トラフィックを検出すると、データを送信したローカルコンピューターの IP アドレスを記憶します。そして、ルーターは一時的に指定された受信ポートを開き、トリガーされたポートの受信トラフィックをトリガーコンピューターに転送します。

ポート転送は、1 台のローカルコンピュータに対してポート番号または一定範囲の番号の静的マッピングを作成しますが、ポートトリガーは必要に応じていくつものコンピュータのポートを動的に開くことができ、また不要になるとポートを閉じることができます。

メモ：マルチプレイヤーゲーム、ピアツーピア接続、リアルタイム通信（インスタントメッセージなど）、リモートアシスタンス（Windows XP の機能）などのアプリケーションを使用する場合、UPnP (Universal Plug and Play) も有効にする必要があります。105 ページの [UPnP](#) を参照してください。

ポートトリガーを設定するには、アプリケーションがどの受信ポートを必要としているかを理解しておく必要があります。また、受信ポートを開くトリガーとなる送信ポートの数も把握しておく必要があります。この情報は、アプリケーションの発行元やユーザーグループ、ニュースグループなどから入手できます。

➤ **ポートトリガーを有効にするには：**

1. [高度] > [高度な設定] > [ポート転送 / ポートトリガー] を選択します。
2. [ポートトリガー] ラジオボタンを選択します。

ポート転送ポートトリガー

適用 ▶ × キャンセル

サービスタイプを選択してください

ポート転送
 ポートトリガー

ポートトリガーを無効にする
ポートトリガーのタイムアウト時間(分)

ポートトリガーポートマップ表

Port	有効	サービス名	サービスタイプ	受信ポート	サービスユーザー
<input type="button" value="サービスの追加"/> <input type="button" value="サービスの削除"/> <input type="button" value="サービスの初期"/>					

3. [ポートトリガーを無効にする] チェックボックスのチェックを外します。

メモ：ポートトリガーを設定した後、[ポートトリガーを無効にする] にチェックが入っていると、ポートトリガーは無効になります。ただし、ルーターに加えたすべてのポートトリガーの設定情報は、使用されていなくてもそのまま維持されます。

4. [ポートトリガーのタイムアウト時間(分)] の欄で、最大 9999 分までの値を入力します。
この値は、ターゲットの受信ポートの動作タイマーを制御します。一定時間動きがないと、受信ポートは閉じます。ルーターはアプリケーションが終了するタイミングが分からないため、このタイムアウトが必要になります。

▶ ポートトリガーサービスを追加するには：

1. [高度] > [高度な設定] > [ポート転送 / ポートトリガー] を選択します。
2. [ポートトリガー] ラジオボタンを選択します。
3. [サービスの追加] ボタンをクリックします。

4. [サービス名] の欄に、このサービスを説明する名前を入力します。
5. [サービスユーザー] リストで、[すべて] を選択するか、または [単一アドレス] を選択して 1 台のコンピュータの IP アドレスを入力します。
 - すべて (デフォルト)：インターネットのすべてのコンピュータがこのサービスを使用できます。
 - 単一アドレス：サービスを特定のコンピュータに制限します。
6. サービスタイプを [TCP]、[UDP]、[TCP/UDP] から選択します。分からない場合は、[TCP/UDP] を選択します。
7. [トリガーポート] の欄に、受信ポートを開く送信トラフィックポートの番号を入力します。
8. [接続タイプ]、[開始ポート]、[終了ポート] の欄には、受信接続ポートに関する情報を入力します。
9. [適用] ボタンをクリックします。
サービスが [ポートトリガーポートマップ表] に表示されます。
10. 追加したサービスが使用されるようにポートトリガーを有効にします。

禁止スケジュール

インターネットアクセスを禁止したい日付と時刻を指定することができます。

▶ 禁止のスケジュールを設定するには：

1. [高度] > [セキュリティ] > [スケジュール] を選択します。



2. キーワードやサービスを禁止するスケジュールを設定します。

- **ブロックする曜日**：チェックボックスを選択して禁止する曜日を選ぶか、または[毎日]を選び、すべての曜日のチェックボックスを選択します。
- **ブロックする時間帯**：24 時間形式で開始時間と終了時間を選択するか、または[終日]を選択して1日中禁止します。

3. 一覧からタイムゾーンを選択します。夏時間を使用する場合は、[夏時間に自動調整する]チェックボックスを選択します。

4. [適用] ボタンをクリックします。

設定が保存されます。

セキュリティイベントのメール通知を設定する

ログや警告をメールで受信するには、[メール] の項目でメール情報を入力し、誰に対してどれくらいの頻度でメールするかを設定します。

➤ メール通知を設定するには：

1. [高度] > [セキュリティ] > [メール] を選択します。



2. [メール通知を有効にする] チェックボックスを選択します。
3. [送信メールサーバー] の欄に、プロバイダーの送信 (SMTP) メールサーバーの名前を入力します (mail.myISP.com など)。

メール送信サーバーに関する情報は、メールソフトの設定画面に記載されています。この欄を空欄にすると、ログと警告のメッセージはメール送信されません。
4. [このメールアドレスに送る] の欄に、ログと警告を送信するメールアドレスを入力します。このメールアドレスが差出人アドレスとなります。この欄を空欄にすると、ログと警告のメッセージはメール送信されません。
5. メール送信時に認証が必要な場合は、[メールサーバーの認証] チェックボックスを選択します。送信メールサーバーの [ユーザー名] と [パスワード] を入力します。
6. (オプション) [すぐに警告を送信] チェックボックスを選択します。

誰かが禁止サイトにアクセスしようとする時、すぐにメール警告が送信されます。
7. (オプション) 画面の [スケジュールに基づきログを送信] カテゴリの項目を設定します。

ログは自動的に送信されます。指定した時間の前にログがいっぱいになると、ログがメールで送信されます。ログが送信されると、ログはルーターのメモリから消去されます。もしルーターがログファイルをメール送信できない場合、ログバッファがいっぱいになる可能性があります。この場合は、ログは上書きされ、過去の内容は破棄されます。
8. [適用] ボタンをクリックします。

設定が保存されます。

ネットワークを管理する

この章では、ご利用のルーターとホームネットワークを維持管理するためのルーター設定を説明しています。

この章には次の内容が含まれます。

- [ルーターのファームウェアをアップグレードする](#)
- [ルーターのステータスを表示する](#)
- [Web アクセスまたはWeb アクセス試行のログを表示する](#)
- [設定ファイルの管理](#)
- [パスワードを変更する](#)
- [パスワードの復元](#)

インターネットを使用したルーターのアップグレードまたはステータスの確認については、103 ページの [リモート管理](#) を参照してください。インターネットトラフィックの監視については、115 ページの [トラフィックメーター](#) を参照してください。

ルーターのファームウェアをアップグレードする

NETGEAR Genie にログインし、[高度] タブの [管理者] メニューからファームウェアをアップデートできます。製品の新しいファームウェアが利用可能になると、NETGEAR Genie のトップ画面にメッセージが表示されます。

[ルーターのアップグレード] 画面の [確認] ボタンを使用して、新しいファームウェアが利用可能かどうかチェックし、製品をアップデートできます。

▶ 最新ファームウェアをチェックし、ルーターをアップデートするには：

1. [高度] > [管理者] > [ルーターのアップグレード] を選択します。



2. [確認] をクリックします。

利用可能な最新ファームウェアがあると、ルーターがこれを検出します。

3. [はい] をクリックします。

ルーターがファームウェアを探してダウンロードし、アップグレードを開始します。



警告：

ファームウェアの破損を防ぐため、アップグレードを中断しないでください。例えば、ブラウザを閉じたり、リンクをクリックしたり、新しいページをロードしたりしないでください。ルーターの電源を切らないでください。

アップロードが完了すると、ルーターが再起動します。アップデートには、約 1 分ほどかかります。新しいファームウェアのリリースを読み、アップデート後にルーターを再設定する必要があるか確認してください。

ルーターのステータスを表示する

- ルーターのステータスと使用状況を表示するには：

[高度な機能のホーム] を選択するか、[高度] > [管理者] > [ルーターのステータス] を選択します。

ルーター情報		インターネットポート	
ルーター型番	R6300v2	MACアドレス	28:C6:8E:73:D8:B8
ファームウェアバージョン	V1.0.2.18_1.0.32	IPアドレス	10.110.1.153
管理画面言語バージョン	V1.0.2.16_2.1.17.1	接続方式	DHCP
LAN ポート		サブネットマスク	255.255.255.0
MACアドレス	28:C6:8E:73:D8:B7	DNS サーバー	10.1.1.7
IPアドレス	192.168.1.1		10.1.1.6
DHCP	オン		
再起動		接続をオフ 接続ステータス	
ワイヤレス設定 (2.4GHz)		ワイヤレス設定 (5GHz)	
ネットワーク名 (SSID)	NETGEAR45	ネットワーク名 (SSID)	NETGEAR45-5G
地域	日本	地域	日本
チャンネル	自動 (11)	チャンネル	36 + 40 + 44(P) + 48
モード	最大217 Mbps	モード	最大1300 Mbps
ワイヤレスAP	オン	ワイヤレスAP	オン
SSIDブロードキャスト	オン	SSIDブロードキャスト	オン
WPS	設定済み	WPS	設定済み

ルーター情報

ルーター型番：ルーターのモデル名です。

ファームウェアバージョン：ルーターファームウェアのバージョンです。ルーターファームウェアをアップデートすると変更されます。

管理画面言語バージョン：画面の表示言語ファイルのバージョンです。

LAN ポート：

- **MAC アドレス**：ルーターのイーサネット (LAN) ポートで使われる固有の物理アドレスです。
- **IP アドレス**：ルーターのイーサネット (LAN) ポートで使われる IP アドレスです。デフォルトは 192.168.1.1 です。
- **DHCP**：ルーターの内蔵 DHCP サーバーが LAN に接続されたデバイスに対して有効かどうかを表示します。
- **再起動**：このボタンをクリックしてルーターを再起動できます。

インターネットポート

MAC アドレス：ルーターのインターネット (WAN) ポートが使用する固有の物理アドレスです。

IP アドレス：ルーターのインターネット (WAN) ポートで使われる IP アドレスです。アドレスが表示されない場合、またはアドレスが 0.0.0 の場合、ルーターはインターネットに接続できません。

接続方式：ここには、ルーターが WAN 上で固定 IP アドレスを使用しているかどうかを示します。この値が DHCP の場合、ルーターはプロバイダーから動的に IP アドレスを取得します。

サブネットマスク：ルーターのインターネット (WAN) ポートで使われる IP サブネットマスクです。

DNS サーバー：ルーターが使用しているドメインネームサーバーのアドレスです。ドメインネームサーバーは、http://www.netgear.jp/ のような覚えやすいアドレスを IP アドレスに変換します。

統計ボタン

➤ 統計情報を表示するには：

1. [高度な機能のホーム] を選択するか、[高度] > [管理者] > [ルーターのステータス] を選択します。
2. [インターネットポート] のカテゴリで、[統計を表示] ボタンをクリックします。

統計を表示							
システムの稼働時間 00:53:09							
ポート	ステータス	送信パケット数	受信パケット数	コリジョン	送信速度	受信速度	稼働時間
WAN	1000M/フル	7134	319790	0	39	2465	03:39:02
LAN1	リンクダウン						--
LAN2	リンクダウン						--
LAN3	リンクダウン						--
LAN4	リンクダウン						--
2.4G WLAN B/g/n	217M	52447	39026	0	2297	309	03:39:09
5G WLAN a/n	1300M	0	0	0	0	0	03:39:09

サンプリング 回数: 5 (5-66400 秒) 詳細の読み 停止

以下の情報が表示されます。

システムの稼働時間：ルーターが最後に再起動されてからの経過時間です。

ポート：WAN（インターネット）と LAN（イーサネット）ポートの統計です。各ポートについて、次のような画面が表示されます。

- **ステータス**：ポートのリンクステータスです。
- **送信パケット数**：リセットまたは手動クリアが行われてから、このポートで送信されたパケット数を示します。
- **受信パケット数**：リセットまたは手動クリアが行われてから、このポートで受信されたパケット数を示します。
- **コリジョン**：リセットまたは手動クリアが行われてからの、このポートでのコリジョン数を示します。
- **送信速度**：WAN および LAN ポートの現在の送信速度を示します。
- **受信速度**：WAN および LAN ポートの現在の受信速度を示します。

- **稼働時間**：ポートが接続されてからの経過時間を示します。
- **サンプリング間隔**：この画面の統計が更新される間隔を意味します。

更新間隔を変更するには、[サンプリング間隔] の欄に秒数を入力し、[間隔の設定] をクリックします。

更新を完全に停止するには、[停止] をクリックします

接続ステータスボタン

▶ インターネットの接続ステータスを表示するには：

1. [高度な機能のホーム] を選択するか、[高度] > [管理者] > [ルーターのステータス] を選択します。
2. [インターネットポート] のカテゴリで、[接続ステータス] ボタンをクリックします。

接続ステータス	
IPアドレス	10.110.1.153
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	10.110.1.13
DHCP サーバー	10.110.1.3
DNS サーバー	10.1.1.7 10.1.1.6
リース取得	6日,0時,0分
リース期限	7日,20時,18分

次のような情報が表示されます。

- **IP アドレス**：ルーターに割り当てられた IP アドレスです。
- **サブネットマスク**：ルーターに割り当てられたサブネットマスクです。
- **デフォルトゲートウェイ**：ルーターが通信するデフォルトゲートウェイの IP アドレスです。
- **DHCP サーバー**：ルーターに接続されたすべてのコンピューターに対し TCP/IP 設定を提供する DHCP サーバーの IP アドレスです。
- **DNS サーバー**：ネットワーク名を IP アドレスに変換する DNS サーバーの IP アドレスです。
- **リース取得**：リースが取得された日付と時刻です。
- **リース期限**：リースが期限切れとなる日付と時刻です。

[リリース] ボタンをクリックすると、すべての項目のステータスが 0 に戻ります。

[更新] ボタンをクリックすると、項目が更新されます。

[ウィンドウを閉じる] ボタンをクリックすると、[接続ステータス] 画面が閉じます。

ワイヤレス設定 (2.4 GHz および 5 GHz)

以下の項目が表示されます。

ネットワーク名 (SSID) : ルーターが使用しているワイヤレスネットワーク名 (SSID) です。

地域 : ルーターが使用されている地域を指します。日本国内でのみ使用できます。

チャンネル : 使用中のワイヤレスポートの動作チャンネルです。工場出荷時の設定は [Auto] です。Auto が選択されていると、ルーターは利用可能な最適なチャンネルを検出します。チャンネル 1、6、11 はお互いに干渉することはありません。

モード : ワイヤレス通信モードです。2.4 GHz では、最大 450 Mbps、217 Mbps、または 54Mbps です。5 GHz では、最大 1300 Mbps、600 Mbps、または 289 Mbps です。

ワイヤレス AP : ルーターの無線機能が有効かどうかを示します。この機能が有効でない場合、前面のワイヤレス LED が消灯します。

SSID ブロードキャスト : ルーターが SSID をブロードキャストするかどうかを示します。

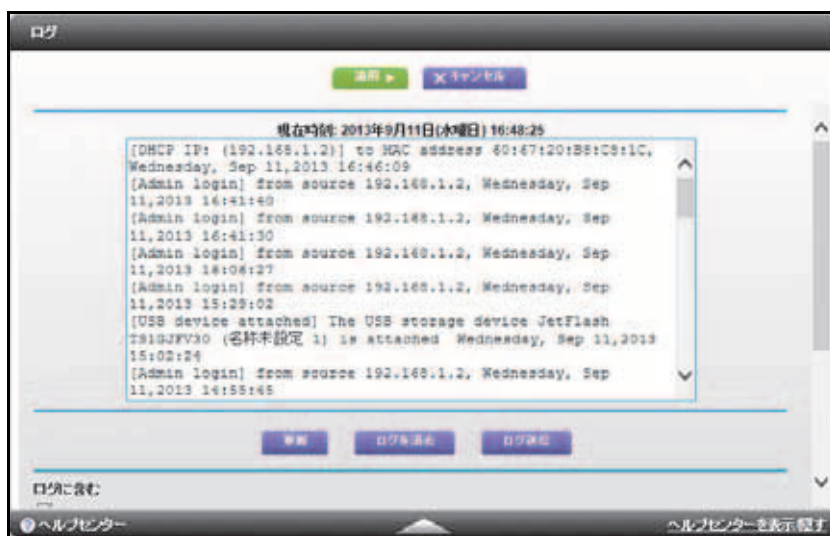
WPS : このネットワークに WPS が設定されているかどうかを示します。

Web アクセスまたは Web アクセス試行のログを表示する

ログはイベントの詳細な記録です。ログには最大 256 までの項目を保存することができます。

▶ ログを表示するには :

[高度] > [管理者] > [ログ] を選択します。



この画面には次の情報が含まれます。

- **アクション** : アクセスがブロックされたか許可されたかを表示します。
- **ソース IP** : このログの発生元のデバイスの IP アドレスです。

- **ターゲットアドレス**：アクセスした Web サイトやニュースグループの名前または IP アドレスです。
- **日付と時刻**：ログが記録された日付と時刻です。

ログ画面を更新するには、[更新] ボタンをクリックします。

ログを消去するには [ログを消去] をクリックします。

すぐにログをメールする場合は、[ログ送信] ボタンをクリックします。

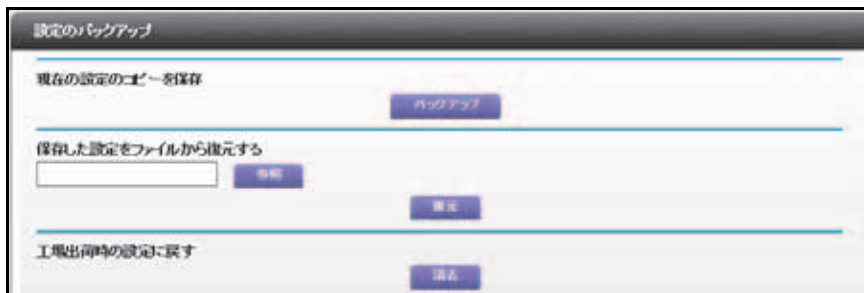
設定ファイルの管理

本製品の設定は、ルーターの設定ファイルに保存されています。このファイルをコンピューターにバックアップ（保存）したり、復元したり、または工場出荷時の初期設定にリセットしたりすることができます。

設定のバックアップ

➤ ルーターの設定をバックアップするには：

1. [高度] > [管理者] > [設定のバックアップ] を選択します。



2. [バックアップ] をクリックします。
3. ネットワーク上のコンピューターに .cfg ファイルを保存する場所を指定します。
現在の設定のコピーが保存されます。

設定の復元

➤ バックアップした設定を復元するには：

1. [高度] > [管理者] > [設定のバックアップ] を選択します。
2. [参照] ボタンをクリックして .cfg ファイルを検索し、選択します。
3. [復元] ボタンをクリックします。
ファイルがルーターにアップロードされて、ルーターが再起動します。

**警告：**

再起動プロセスを中断しないでください。

現在の設定を消去する

[消去] ボタンを使用すると、設定を消去し、工場出荷時の初期設定に復元できます。ルーターを別のネットワークに移動する場合、設定の消去が必要になることがあります。ルーター背面にある工場出荷時の初期設定にリセットボタンを使用して設定を消去し、初期設定に復元することもできます（128 ページの [初期設定](#) を参照）。

➤ 設定を消去するには：

1. [高度] > [管理者] > [設定のバックアップ] を選択します。
2. [消去] ボタンをクリックします。

工場出荷時の初期設定に復元されます。ユーザー名は admin、パスワードは password、LAN IP アドレスは 192.168.1.1 です。DHCP は有効になります。

パスワードを変更する

この機能を使用すると、admin のユーザー名でルーターにログインする際に使用するデフォルトのパスワードを変更できます。

このパスワード変更は、ワイヤレスアクセスのためのパスワードとは異なります。ルーター本体にあるラベルに、固有のワイヤレスネットワーク名 (SSID) とワイヤレスアクセスのためのパスワードが記載されています（11 ページの [ラベル](#) を参照）。

➤ ユーザー名 admin のパスワードを設定するには：

1. [高度] > [管理者] > [新しいパスワード] を選択します。

2. 現在のパスワードを入力し、新しいパスワードを 2 か所に入力します。
3. パスワードを復元する場合は、[パスワード復元を有効にする] チェックボックスを選択します。
4. [適用] ボタンをクリックします。
変更内容が有効になります。

パスワードの復元

ルーターの admin のユーザー名に対するパスワードを変更する場合は、パスワードの復元機能を有効にしておくことをお勧めします。この機能を利用すると、パスワードを忘れた場合でも復元できます。この復元プロセスは、Internet Explorer、Firefox、Chrome ブラウザーでサポートされていますが、Safari では対応していません。

➤ **パスワード復元を設定するには：**

1. [高度] > [管理者] > [新しいパスワード] を選択します。
2. [パスワード復元を有効にする] チェックボックスを選択します。
3. セキュリティの質問を 2 つ選択し、回答します。
4. [適用] ボタンをクリックします。

変更が保存されます。

➤ **パスワードを復元するには：**

1. ブラウザーのアドレスバーに **www.routerlogin.net** と入力します。

ログインウィンドウが表示されます。

2. [キャンセル] をクリックします。

パスワードの復元が有効な場合は、2 つのセキュリティの質問に対する回答を求められます。

3. 保存してある回答をセキュリティの質問に入力します。

高度な設定

9

高度な設定

この章ではルーターの高度な機能についてご説明します。これらの設定をするには、ネットワークに関する十分な知識が必要になるものがあります。

この章には次の内容が含まれます。

- [高度なワイヤレス設定](#)
- [ワイヤレスアクセスポイント \(AP\)](#)
- [ブリッジモードでのルーターの設定](#)
- [WDS \(Wireless Distribution System\)](#)
- [ダイナミック DNS](#)
- [静的ルート](#)
- [リモート管理](#)
- [UPnP](#)
- [IPv6](#)
- [トラフィックメーター](#)

USB デバイスの承認についての詳細は、55 ページの[承認済み USB デバイスを指定する](#)をご覧ください。

高度なワイヤレス設定

この画面を使用して、ワイヤレスのオンとオフを切り替えたり、WPS 設定を指定したり、AP モードを使用したり、ワイヤレスアクセスリストを設定することができます。

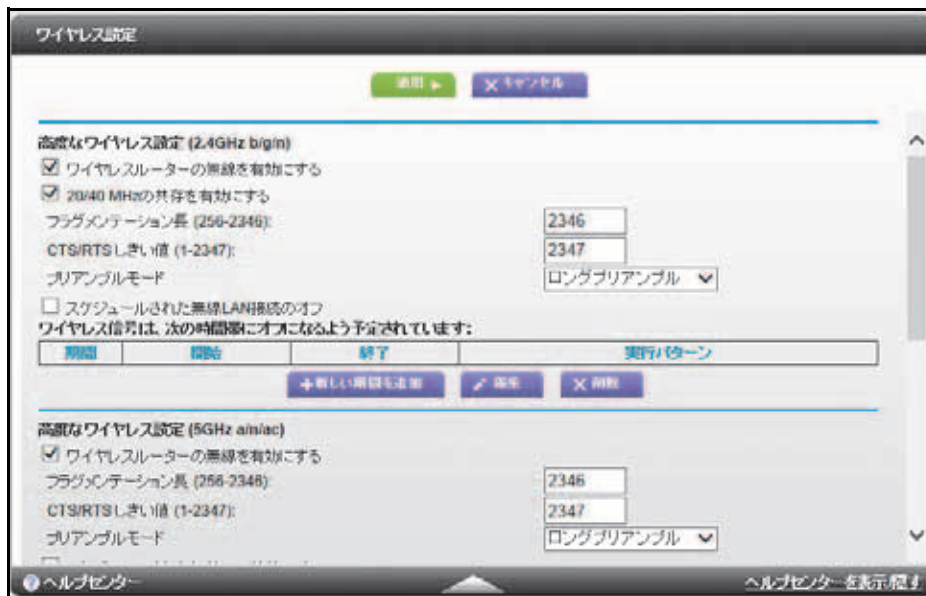
フラグメンテーション長、CTS/RTS しきい値、プリアンブルモードのオプションは、ワイヤレステストおよび高度な設定でのみ使用します。特別な理由がある場合を除き、これらの設定は変更しません。

ワイヤレスの制御

ワイヤレスはデフォルトで有効になっています。[高度なワイヤレス設定] 画面、またはルーター側パネルのワイヤレスオン / オフボタンを使用して、ワイヤレスをオンまたはオフに切り替えることができます。ワイヤレスがオフの場合でも、イーサネットケーブルを使用してルーターに LAN 接続できます。

➤ ワイヤレスのオンとオフを切り替える：

1. [高度] > [高度な設定] > [ワイヤレス設定] を選択します。



デフォルトで、[ワイヤレスルーターの無線を有効にする] チェックボックスにチェックが入れています。

2. (オプション) ルーターのワイヤレス機能をオフにするには、[ワイヤレスルーターの無線を有効にする] チェックボックスのチェックを外します。
3. (オプション) [スケジュールされた無線 LAN 接続のオフ] チェックボックスにチェックを入れ、ワイヤレス接続を必要としない時間帯を設定します。

例えば週末不在にする場合にワイヤレス信号をオフにしておくことができます。

4. [適用] ボタンをクリックします。

変更内容が有効になります。

ワイヤレススケジュールの設定

ワイヤレス接続が不要な期間にルーターのワイヤレス信号をオフにすることができる機能です。例えば週末不在にする場合にオフにしておけます。

➤ ワイヤレススケジュールを設定および有効にする：

1. [高度] > [高度な設定] > [ワイヤレス設定] を選択します。

[高度なワイヤレス設定] 画面が表示されます。

2. [新しい期間を追加] ボタンをクリックします。

3. ドロップダウンリスト、ラジオボタン、およびチェックボックスを使用して、ワイヤレス信号をオフにする期間を設定します。

4. [適用] ボタンをクリックします。

[高度なワイヤレス設定] 画面が表示されます。

5. [スケジュールされた無線 LAN 接続のオフ] チェックボックスにチェックを入れて、スケジュールを有効にします。

6. [適用] ボタンをクリックします。

WPS 設定の確認または変更

➤ WPS 設定を指定する：

1. [高度] > [高度な設定] > [ワイヤレス設定] を選択します。

ルーターの PIN 欄には、WPS を使ってルーターのワイヤレス設定を行うために使用する PIN が表示されます。

2. (オプション) [ルーターの PIN を有効にする] チェックボックスのチェックを入れるか外します。

ルーターの PIN を使用してルーターのワイヤレス設定に無断で侵入しようとする疑いをルーターが検出したときに、PIN 機能が一時的に無効にされる場合があります。[ルー

ターの PIN を有効にする] チェックボックスのチェックを入れることによって、PIN 機能を手動で有効にできます。

3. (オプション) [既存のワイヤレス設定を適用する] チェックボックスのチェックを入れるか外します。

デフォルトでは、[既存のワイヤレス設定を適用する] チェックボックスにはチェックが入れています。NETGEAR では、このチェックボックスにチェックを入れたままにしておくことをお勧めします。

このチェックボックスのチェックを外すと、次回、新しいワイヤレスクライアントが WPS を使用してルーターに接続するとき、ルーターのワイヤレス設定は、自動生成されたランダムな SSID とセキュリティキーに変更されます。

4. [適用] ボタンをクリックします。

変更が保存されます。

MAC アドレスによるワイヤレスアクセスリストの設定

ワイヤレスネットワークに接続を許可するコンピューターやワイヤレスデバイスを、リストで設定することができます。これは各コンピューターやデバイス固有の MAC アドレスに基づいて設定します。

それぞれのネットワークデバイスには MAC アドレスが割り当てられています。これは一意の 12 文字の物理アドレスで、16 進数で 0 ~ 9、a ~ f、A ~ F のみで構成され、コロンで区切られています (例 : 00:09:AB:CD:EF:01)。一般に、MAC アドレスはワイヤレスデバイスやネットワークデバイスのラベルに記載されています。ラベルを参照できない場合は、コンピューターのネットワーク設定ユーティリティから MAC アドレスを参照できます。[基本] タブの [接続デバイス] 画面から MAC アドレスを参照することもできます。

➤ MAC アドレスに基づいてアクセスを制限する :

1. [高度] > [高度な設定] > [ワイヤレス設定] を選択します。
2. [アクセスリストの設定] ボタンをクリックします。



3. [追加] ボタンをクリックします。

[ワイヤレスカードのアクセスリスト] 画面が開き、現在アクティブなワイヤレスカードおよびその MAC アドレスのリストが表示されます。

4. アクセスを許可したいコンピューターやデバイスが [使用可能なワイヤレスカードリスト] に表示される場合、ラジオボタンを選択します。もしくは、[機器名] と [MAC アドレス] を入力します。

MAC アドレスは通常ワイヤレスデバイスの底面に記載されています。

ヒント： [基本] タブの [接続デバイス] 画面からこの画面の MAC アドレスの欄に MAC アドレスをコピー&ペーストできます。

5. [追加] ボタンをクリックします。
画面がリストの画面に戻ります。
 6. 必要に応じて他にデバイスを追加します。
 7. [アクセス制御を有効にする] チェックボックスにチェックを入れます。
 8. [適用] ボタンをクリックします。
- **ワイヤレスデバイスを編集するか、アクセスリストから削除する：**
1. [高度] > [高度な設定] > [ワイヤレス設定] を選択します。
[高度なワイヤレス設定] 画面が表示されます。
 2. ワイヤレスカードのアクセスリストで、編集または削除するワイヤレスデバイスの隣のラジオボタンを選択します。
 3. 以下のいずれかを行います。
 - [編集] ボタンをクリックします。
[ワイヤレスカードのアクセスリスト] 画面が表示されます。
 - a. アドレス情報を編集します。
 - b. [適用] ボタンをクリックします。
 - [削除] ボタンをクリックします。
アドレスは表から削除されます。

ワイヤレスアクセスポイント (AP)

ルーターを同じローカルネットワークの別のルーターのアクセスポイント (AP) として機能するように設定できます。

メモ： ネットワーク内の他のルーターまたはゲートウェイとの干渉を回避するために、アクセスポイントモードのルーターには異なるワイヤレス設定を使用することをお勧めします。他のルーターまたはゲートウェイのワイヤレスをオフにすることもできます。

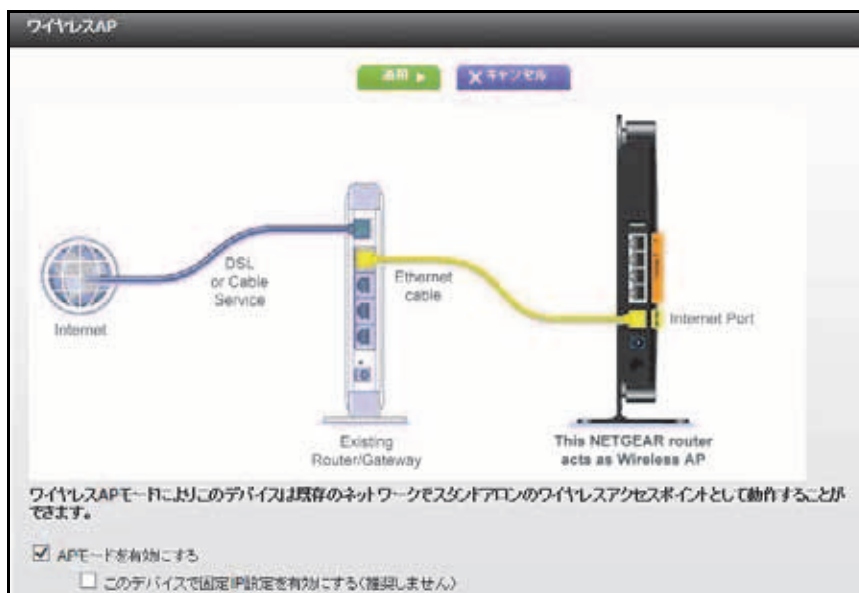
➤ ルーターをアクセスポイントとして設定する：

1. このルーターのインターネットポートと、他のルーターの LAN ポートをイーサネットケーブルで接続します。



このポートを他のルーターの LAN ポートと接続する

2. [高度] > [Wireless AP] を選択します。



3. [AP モードを有効にする] チェックボックスにチェックを入れます。

画面が変更されます。

4. (オプション) AP モードになっているときに、特定の IP アドレスをこのルーターに手動で割り当てる場合、[このデバイスで固定 IP 設定を有効にする(推奨しません)] チェックボックスにチェックを入れます。
5. [適用] ボタンをクリックします。

ルーターの IP アドレスが変更され、接続が切断されます。接続し直すには、Web ブラウザーを再起動して、<http://www.routerlogin.net> と入力します。

ブリッジモードでのルーターの設定

R6300 をブリッジモードで使用すると、高速な 802.11ac 速度で複数のデバイスをワイヤレス接続できます。これには 2 台のワイヤレスルーターが必要です。1 台はルーターとして設定し、もう 1 台はブリッジとして設定します。

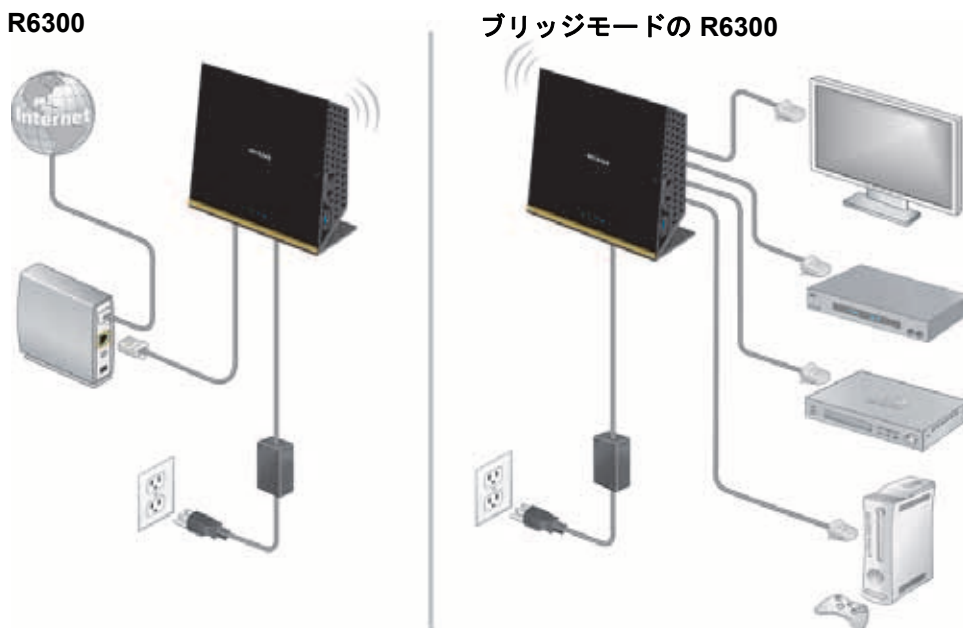


図 8. 802.11ac ワイヤレス接続を使用したブリッジモードのルーター

R6300 をブリッジとして設置したときのメリットは次のとおりです。

- お使いのデバイスでギガビットのワイヤレス速度を利用できます。
- ビデオやゲームなどにギガビットワイヤレスを利用できます。
- ワイヤレスリンクを使用して、NAS、Smart TV、NeoTV、Blu-ray プレーヤー、ゲームコンソールなどの複数のデバイスをギガビットのワイヤレス速度で接続できます。
- それぞれのデバイスに個別のワイヤレスアダプターを用意する必要がなくなります。

例えば、インターネット接続が整っている自宅仕事部屋などに 1 台目のルーターを設置します。次に、2 台目のルーターをブリッジモードで設定します。続いてこのブリッジモードのルーターを、エンターテインメントの設備が整った別の部屋に設置します。Smart TV、DVR、ゲームコンソール、または Blu-ray プレーヤーをブリッジモードのルーターにケーブルで接続し、そのルーターから 802.11ac ワイヤレス接続を介して 1 台目のルーターに接続します。

▶ ブリッジモードを設定する：

1. このルーターが接続する相手のルーターのワイヤレス設定をメモします。

SSID、ワイヤレスセキュリティモード、ワイヤレスパスワード、および動作周波数 (2.4 GHz または 5 GHz) が必要になります。

2. ブリッジモードで実行しているルーターで、[高度] > [高度な設定] > [ワイヤレス設定] を選択します。

3. 下にスクロールして、[ほかのモードを使用] チェックボックスにチェックを入れ、[ブリッジモードを有効にする] ラジオボタンを選択します。

画面が変更されます。



4. [ブリッジモードワイヤレス設定をセットアップする] ボタンをクリックします。



5. 他のルーターの設定を指定します。
- ワイヤレスネットワーク周波数を選択します (2.4 GHz または 5 GHz)。
802.11ac モードの場合は 5 GHz を選択します。
 - [ネットワーク名 (SSID)] の欄にワイヤレスネットワーク名 (SSID) を入力します。
 - [セキュリティオプション] のラジオボタンでいずれかのラジオボタンを選択します。
 - 要求された場合は、パスワード (他のルーターにワイヤレスで接続する場合に使用するパスワード) を入力します。
6. [適用] ボタンをクリックします。
設定が保存され、[高度なワイヤレス設定] 画面が表示されます。
7. [高度なワイヤレス設定] 画面の [適用] ボタンをクリックします。
変更内容が有効になります。

WDS (Wireless Distribution System)

WDS (Wireless Distribution System) 機能を使うと、ワイヤレスベースステーションまたはワイヤレスリピーターとしてルーターを設定できます。WDS を使用すると、複数のアクセスポイントを使用してワイヤレスネットワークを拡張できます。ワイヤレスベースステーションはインターネットに接続し、有線クライアントと無線クライアントを接続でき、ワイヤレスリピーターとして機能するアクセスポイントにワイヤレス信号を送信します。ワイヤレスリピーターにも有線クライアントと無線クライアントを接続できますが、インターネットにはワイヤレスベースステーション経由で接続します。下図はワイヤレスリピーター機能を使ったネットワークの様子を示しています。

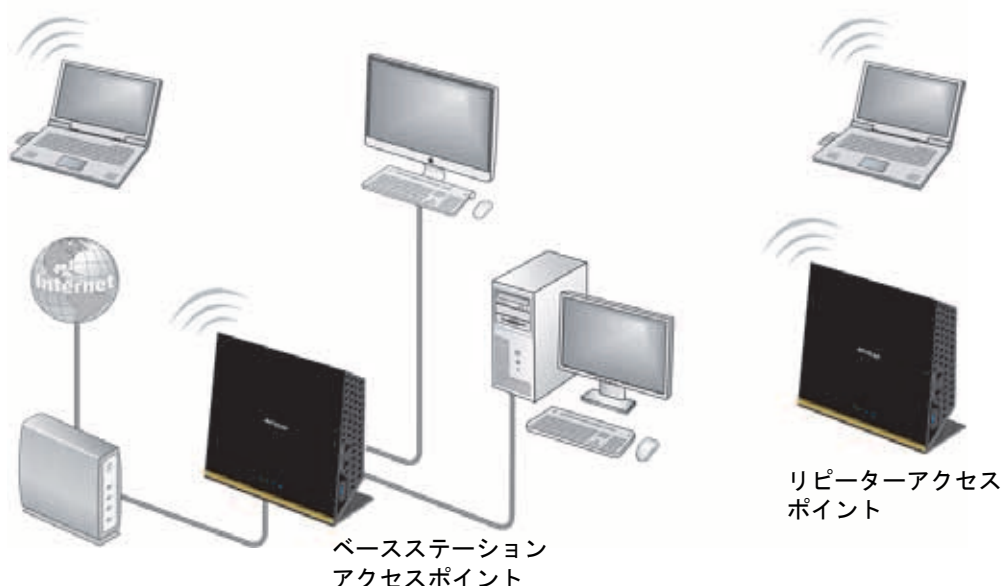


図 9. ワイヤレスリピーターの使用例

メモ： ワイヤレスリピーター機能を使用するには、[ワイヤレス設定] 画面で [セキュリティオプション] に [なし] を選択する必要があります。チャンネルに [自動] は選択できません。

ワイヤレスベースステーション： ルーターがベースステーションアクセスポイント（親機）として機能し、リピーターアクセスポイント（子機）との間でトラフィックをブリッジします。また、無線および有線のローカルコンピューターとの接続も処理します。このモードを設定するには、リピーターアクセスポイント（子機）の MAC アドレスが必要になります。MAC アドレスは通常、製品ラベルに記されています。

ワイヤレスリピーター： ルーターは、ローカルの無線または有線コンピューターからのすべてのトラフィックを、リモートアクセスポイントに送信します。このモードを設定するには、ベースステーションアクセスポイント（親機）の MAC アドレスが必要になります。

いずれかの無線を無効にしない限り、ルーターは常にデュアルバンドコンカレント（並行）モードになります。いずれかの無線バンドでワイヤレスリピーターを有効にする場合、もう

片方の無線バンドではワイヤレスベースステーションやワイヤレスリピーターを有効にすることはできません。ただし、どちらかの無線バンドのワイヤレスベースステーションが有効になっており、もう片方の無線バンドをワイヤレスルーターまたはワイヤレスベースステーションとして使用する場合、デュアルバンドコンカレントモードは影響を受けません。

WDS でワイヤレスネットワークを設定する場合、両方のアクセスポイントで次の条件を満たしている必要があります。

- 両方のアクセスポイントが同じ SSID、ワイヤレスチャンネル、暗号化モードを使用していること。
- 両方のアクセスポイントが同じ IP サブネット上にあること。つまり、すべてのアクセスポイントの IP アドレスが同じネットワーク上にあることを指します。
- すべてのネットワークデバイス（有線および無線コンピューター）が同じネットワークアドレス範囲内でアクセスポイントとして動作するように設定されていること。

ベースステーションの設定

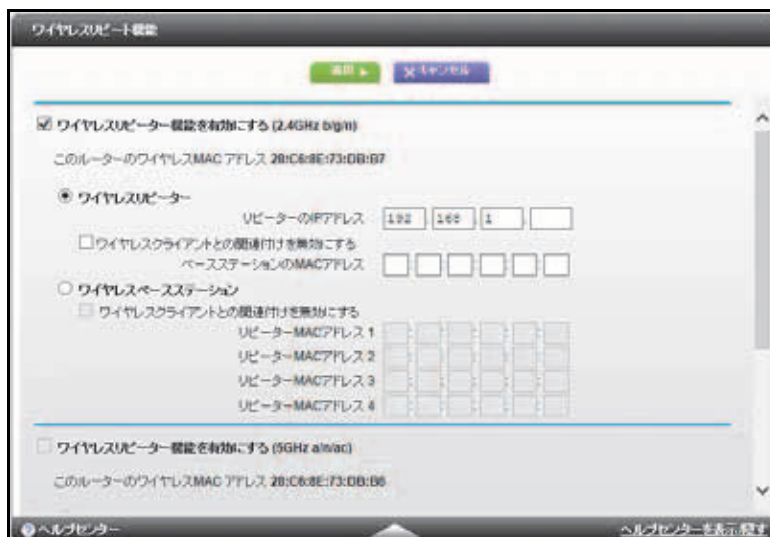
ワイヤレスリピーター機能は、ハブおよびスポークモードでのみ利用可能です。デバイスをデジチェーンにすることはできません。また、両方のデバイスのワイヤレス設定が必要です。リモートデバイスの MAC アドレスも必要です。まず、ベースステーションを設定し、次にリピーターを設定します。

➤ ベースステーションを設定する：

1. 両方のデバイスをまったく同じワイヤレス設定にします。

SSID とモードを同じにし、ワイヤレスセキュリティオプションを [なし] に設定してください（25 ページの [基本的なワイヤレス設定](#) をご覧ください）。

2. [高度] > [高度な設定] > [ワイヤレスリピーター] を選択します。



3. [ワイヤレスリピーター機能を有効にする] チェックボックスにチェックを入れます。
4. [ワイヤレスベースステーション] ラジオボタンを選択します。

5. (オプション) [ワイヤレスクライアントとの関連付けを無効にする] チェックボックスにチェックを入れると、ワイヤレスクライアントはベースステーションとの関連付けができなくなり、LAN クライアントとの関連付けしかできなくなります。

ワイヤレスクライアントをベースステーションに関連付けられるようにする場合は、チェックボックスのチェックを外しておきます。

6. [リピーター MAC アドレス 1] から [リピーター MAC アドレス 4] の欄に、リピーターとして機能するアクセスポイントの MAC アドレスを入力します。

ルーターがベースステーションの場合、最大 4 つのアクセスポイントの「親」として機能することができます。

7. [適用] ボタンをクリックします。

変更が保存されます。

リピーターの設定

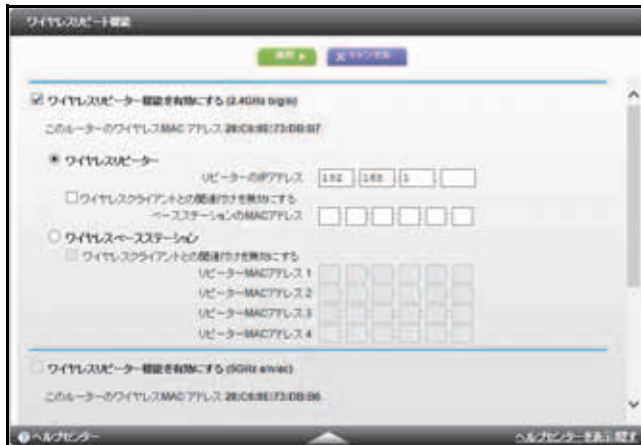
ベースステーションへのワイヤレス接続と競合しないように、有線の LAN 接続を使ってリピーターを設定してください。

メモ : NETGEAR のルーターをベースステーションとして使用し、NETGEAR 以外のルーターをリピーターとして使用する場合、その他の設定の変更が必要になる場合があります。特に、リピーターであるアクセスポイントで DHCP サーバー機能を無効にする必要があります。

➤ ルーターをリピーターとして設定する :

1. リピーターとなるルーターにログインします。
2. [基本] > [ワイヤレス] を選択し、ワイヤレス設定がベースユニットとまったく同様であることを確認してください。
ワイヤレスセキュリティオプションは [WEP] または [なし] を選択します。
3. [高度] > [高度な設定] > [ワイヤレスリピーター] を選択します。
4. [ワイヤレスリピーター機能を有効にする] チェックボックスにチェックを入れます。

5. [ワイヤレスリピーター] ラジオボタンを選択します。



6. [リピーターの IP アドレス] の欄に入力します。

この IP アドレスは、ベースステーションと同じサブネット上にある必要がありますが、ベースステーションの IP アドレスとは異なる必要があります。

7. (オプション) [ワイヤレスクライアントとの関連付けを無効にする] チェックボックスにチェックを入れると、ワイヤレスクライアントはリピーターとの関連付けができなくなり、LAN クライアントとの関連付けしかできなくなります。

ワイヤレスクライアントをリピーターに関連付けられるようにする場合は、チェックボックスのチェックを外しておきます。

8. [ベースステーションの MAC アドレス] の欄に、ベースステーションとして機能するアクセスポイントの MAC アドレスを入力します。

9. [適用] ボタンをクリックします。

変更が保存されます。

10. LAN で接続を確認します。

これで、どこの無線または有線ルーターの LAN セグメントにあるコンピューターでも、インターネットに接続でき、他のアクセスポイントに接続されている他のコンピューターやサーバーと、ファイルやプリンターの共有が可能になります。

ダイナミック DNS

ご利用のプロバイダー (ISP) が固定 IP アドレスを割り当てている場合、ドメイン名を登録し、この名前を公開ドメインネームサーバー (DNS) で IP アドレスにリンクさせることができます。ただし、ご利用のアカウントが動的 IP アドレスを使用している場合は、どの IP アドレスが割り当てられるかは事前に分からず、アドレスは頻繁に変更されます。このため、商用のダイナミック DNS サービスを利用することになります。このサービスを利用すると、ドメインを IP アドレスに登録し、ドメインに送信されてきたトラフィックを、動的 IP アドレスに転送させることができます。

ご利用のプロバイダーがプライベート IP アドレス（192.168.x.x や 10.x.x.x など）を割り当てている場合、ダイナミック DNS サービスは利用できません。

プライベート IP アドレスはインターネットを経路できないからです。

ルーターには、DynDNS.org から提供された、ダイナミック DNS サービスに接続できるクライアントが含まれています。まず、<http://www.dyndns.org> の Web サイトにアクセスし、ルーターで設定したアカウントとホスト名を取得します。この後は、プロバイダーが割り当てる IP アドレスが変更されるたびに、ルーターが自動的にダイナミック DNS サービスプロバイダーと通信し、あなたのアカウントにログインし、新しい IP アドレスを登録してくれます。例えば、ホスト名が「hostname」の場合、ルーターには <http://hostname.dyndns.org> からアクセスすることができます。

▶ ダイナミック DNS を設定する：

1. [高度] > [高度な設定] > [ダイナミック DNS] を選択します。

2. [ダイナミック DNS サービスを利用する] チェックボックスにチェックを入れます。
3. ダイナミック DNS サービスプロバイダーの URL をリストから選択します。
例えば、DynDNS.org の場合は **www.DynDNS.org** を選択します。
4. ダイナミック DNS サービスプロバイダーから与えられたホスト名（またはドメイン名）を入力します。
5. ダイナミック DNS アカウントのユーザー名を入力します。
このユーザー名はホスト名ではなく、あなたのアカウントにログインする際の名前です。
6. ダイナミック DNS アカウントのパスワード（またはキー）を入力します。
7. [適用] ボタンをクリックします。
変更が保存されます。

静的ルート

静的ルートは、ご利用のルーターにさらに多くのルーティング情報を提供します。通常、静的ルートを追加する必要はありません。複数のルーターやサブネットワークがネットワーク上にある場合など、特殊な状況でのみ静的ルートを設定してください。

静的ルートが必要となる例として、次のような場合を考えてみましょう。

- 主要なインターネットアクセスがケーブルモデムからプロバイダーへとつながっている。

- ホームネットワークの中で、会社に接続するための ISDN ルーターを使用している。このルーターのアドレスは 192.168.1.100 である。
- 会社のネットワークアドレスは 134.177.0.0 である。

初めてルーターを設定するときに、2 つの絶対的な静的ルートが作成されました。デフォルトのルートはプロバイダーによりゲートウェイとして作成され、もう 1 つの静的ルートはすべての 192.168.1.x アドレスのためにローカルネットワークに対して作成されました。この設定で 134.177.0.0 ネットワークのデバイスにアクセスしようとする、ルーターはリクエストをプロバイダーに転送します。プロバイダーはリクエストを会社へ送りますが、会社のファイアウォールでこのリクエストは拒否されてしまう可能性が高くなります。

この場合、静的ルートを設定して、134.177.0.0 にアクセスするには 192.168.1.100 の ISDN ルーターを経由するようにルーターに指示しなければなりません。この例では、次のようになります。

- [ターゲット IP アドレス] と [サブネットマスク] の欄では、この静的ルートがすべての 134.177.x.x アドレスに適用されることを指示します。
- [ゲートウェイ IP アドレス] の欄では、これらのアドレスのトラフィックがすべて 192.168.1.100 の ISDN ルーターに転送されることを指示します。
- ISDN ルーターは LAN 上にあるため、[メトリック] の 1 の値は有効です。
- [プライベート] は、RIP が有効になった場合のセキュリティ性を高めるために選択します。

▶ 静的ルートを設定する：

1. [高度] > [高度な設定] > [静的ルート] を選択します。
2. [追加] ボタンをクリックします。

3. [ルート名] の欄で、この静的ルートの名前を入力します（識別にのみ使われます）。
4. アクセスを LAN のみに限定したい場合は、[プライベート] チェックボックスにチェックを入れます。
プライベートを選択すると、静的ルートは RIP で報告されません。
5. このルートを有効にするには [アクティブ] チェックボックスにチェックを入れます。
6. 目的地の [ターゲット IP アドレス] を入力します。
7. この目的地の [サブネットマスク] を入力します。目的地がシングルホストの場合、**255.255.255.255** と入力します。
8. [ゲートウェイ IP アドレス] を入力します。この値は、ルーターと同じ LAN セグメントのアドレスにしてください。

9. [メトリック] の部分に 1 ~ 15 の値を入力します。

この値は、お使いのネットワークと目的地との間にあるルーターの数を指します。通常、2 ~ 3 の設定でかまいませんが、直接接続の場合は 1 にしてください。

10. [適用] ボタンをクリックします。

静的ルートが追加されます。

➤ 静的ルートを編集または削除する：

1. [高度] > [高度な設定] > [静的ルート] を選択します。

[静的ルート] 画面が表示されます。

2. 表で、編集または削除するルートの隣のラジオボタンを選択します。

3. 以下のいずれかを行います。

- [編集] ボタンをクリックします。

[静的ルート] 画面が変更可能になります。

- a. ルート情報を編集します。

- b. [適用] ボタンをクリックします。

- [削除] ボタンをクリックします。

ルートが表から削除されます。

リモート管理

リモート管理機能では、インターネット経由でルーターにアクセスしてその設定を確認または変更できます。

メモ：必ずルーターのデフォルトのログインパスワードを安全なものに変更してください。パスワードには、どの言語の辞書に載っている単語も使用せず、また大文字と小文字の英文字、数字、記号を混在させることを推奨します。最長 30 桁まで指定できます。87 ページの [パスワードを変更する](#) を変更するをご覧ください。

➤ リモート管理を設定する：

1. [高度] > [高度な設定] > [リモート管理] を選択します。

2. [リモート管理を有効にする] チェックボックスにチェックを入れます。
3. ルーターのリモート管理へのアクセスを許可する外部 IP アドレスを指定します。

メモ： 安全性を高めるため、アクセスをできるだけ限られた外部 IP アドレスのみに限定することを推奨します。

[次のリモートアクセスを許可] で次のいずれかを選択します。

- インターネット上の 1 つの IP アドレスのみに制限する場合は、[このコンピューターのみ] を選択します。IP アドレスを入力します。
 - インターネット上の一定範囲の IP アドレスに制限する場合は、[IP アドレス範囲] を選択します。開始 IP アドレスと終了 IP アドレスを入力して範囲を指定します。
 - インターネット上のすべての IP アドレスからのアクセスを許可する場合は、[全員] を選択します。
4. Web 管理画面にアクセスする際に使われるポート番号を指定します。

通常、Web ブラウザーアクセスには、標準の HTTP サービスポート 80 が使われます。安全性をさらに高めるため、リモート Web 管理画面用のカスタムポート番号を指定することもできます。1024 ~ 65535 の間の数字を入力してください。ただし、共通のサービスポートの番号は使用しないでください。デフォルトは 8080 であり、これは共通の HTTP 代替ポートです。

5. [適用] ボタンをクリックします。
変更内容が有効になります。
6. インターネットからルーターにアクセスする場合、ルーターの IP アドレスをブラウザのアドレスバーまたは場所の欄に入力し、コロン (:) を入力してからカスタムポート番号を入力します。

例えば、外部アドレスが 134.177.0.123 で、ポート番号が 8080 の場合、ブラウザに <http://134.177.0.123:8080> と入力します。

UPnP

UPnP (Universal Plug and Play) は、インターネットアプライアンスやコンピューターなどのデバイスが必要に応じてネットワークにアクセスしたりその他のデバイスに接続できるようにする機能です。UPnP デバイスは、ネットワーク上の他の登録済み UPnP デバイスからサービスを自動的に検出することができます。

マルチプレーヤーゲーム、ピアツーピア接続、リアルタイム通信（インスタントメッセージなど）、リモートアシスタンス（Windows XP の機能）などのアプリケーションを使用する場合、UPnP を有効にしてください。

▶ UPnP を有効にする :

1. [高度] > [高度な設定] > [UPnP] を選択します。

[UPnP] 画面が表示されます。



2. [UPnP 起動] チェックボックスにチェックを入れます。

このチェックボックスにはデフォルトでチェックが入れています。デバイスの自動設定用の UPnP を有効または無効にできます。[UPnP] チェックボックスのチェックが外されていると、ルーターは他のデバイスに対し、ルーターのポート転送（マッピング）などのリソース自動制御を許可しません。

3. 通知間隔を分単位で入力します。

通知間隔は、ルーターが UPnP 情報をブロードキャストする間隔を指定します。この値は 1 ~ 1440 分の間で設定します。デフォルトは 30 分ごとです。この間隔を短く設定するとネットワークトラフィックは増加しますが、デバイスの状態を最新に保つことができます。間隔を長く設定すると、デバイスの状態の更新間隔は長くなりますが、ネットワークトラフィックを大幅に減少することができます。

4. 通知の有効期間をホップ数で入力します。

通知の有効期限は、送信された各 UPnP パケットのホップ数（ステップ）に基づいて決定されます。ホップ数とは、パケットがルーター間で選択するステップ数です。ホップ数は 1 ~ 255 の間で設定します。デフォルトの通知有効期間は 4 ホップに設定されており、ほとんどの家庭用ネットワークでは問題ありません。一部のデバイスが更新されていない、または正しく接続されない場合は、この値を少し上げる必要があります。

5. [適用] ボタンをクリックします。

[UPnP ポートマップテーブル] には、ルーターにアクセスしている UPnP デバイスの IP アドレスと、このデバイスが開いているポート（内部および外部）を示します。[UPnP ポートマップテーブル] には、どのタイプのポートが開いているか、またこのポートは各 IP アドレスに対してまだ有効であるかどうかを示します。

- （オプション）[UPnP ポートマップテーブル] の情報を更新するには、[更新] ボタンをクリックします。

IPv6

NETGEAR Genie が自動的にインターネット接続を検出できない場合は、この機能を利用して IPv6 インターネット接続を設定することができます。

➤ IPv6 インターネット接続タイプを設定する：

- [高度] > [高度な設定] > [IPv6] を選択します。



- [インターネット接続タイプ] リストで、IPv6 接続タイプを選択します。

この情報はプロバイダー (ISP) から提供されます。

- ご利用のプロバイダーが詳細を提供していない場合は、[6to4 トンネル] を選択します。
- 分からない場合は、[自動検出] を選択し、使用中の IPv6 をルーターに検出させます。
- インターネット接続が PPPoE、DHCP、固定 IP を使用せず IPv6 を使用している場合は、[自動設定] を選択します。

[インターネット接続タイプ] についての詳細は、次のセクションをご覧ください。

- [適用] ボタンをクリックします。

変更内容が有効になります。

IPv6 アドレスの入力要件

IPv6 アドレスは、4 つの 16 進数を一組とした 8 つのグループをコロンで区切って表されます。IPv6 アドレスで 4 桁がゼロのグループは、1 つのゼロにまとめるか、すべて省略することもできます。

次のエラーがある IPv6 アドレスは無効になります。

- 4 桁の 16 進数のグループが 8 つ以上ある
- 1 つのグループ内に 16 進数の英数字が 5 つ以上ある

- 1 行にコロンが 3 つ以上ある

自動検出

➤ 自動検出で IPv6 インターネット接続を設定する：

1. [高度] > [高度な設定] > [IPv6] を選択します。
[IPv6] 画面が表示されます。
2. [インターネット接続タイプ] リストで、[自動検出] を選択します。
画面が次のように変更されます。

The screenshot shows the IPv6 configuration interface. At the top, there are buttons for 'Apply', 'Cancel', and 'Restore Defaults'. Below that, the 'Internet Connection Type' dropdown menu is open, showing 'Automatic Discovery' selected. The page is divided into sections: 'Connection Type' (set to 'Automatic Discovery'), 'Router IPv6 Address (WAN side)' (set to 'Unavailable'), and 'LAN Settings'. Under 'LAN Settings', there are options for 'Router IPv6 Address (LAN side)' (set to 'Unavailable'), 'IP Address Assignment' (with 'DHCP Server' and 'Automatic' radio buttons, where 'Automatic' is selected), and a checkbox for 'Use this interface ID' which is currently unchecked.

ルーターは次の欄の情報を自動的に検出します。

- **接続タイプ**：この欄には、検出された接続タイプが表示されます。
 - **ルーターの IPv6 アドレス (WAN 側)**：この欄には、ルーターの WAN (またはインターネット) インターフェイスの IPv6 アドレスが表示されます。スラッシュ (/) の後の数字はプレフィックスの長さであり、IPv6 アドレスの下のアンダーライン () でも示されます。アドレスが取得されない場合は、[利用不可] と表示されます。
 - **ルーターの IPv6 アドレス (LAN 側)**：この欄には、ルーターの LAN インターフェイスの IPv6 アドレスが表示されます。スラッシュ (/) の後の数字はプレフィックスの長さであり、IPv6 アドレスの下のアンダーライン () でも示されます。アドレスが取得されない場合は、[利用不可] と表示されます。
3. ルーターでホームネットワーク (LAN) 上のデバイスに IPv6 アドレスを割り当てる方法を、次のいずれかのラジオボタンを選択して指定します。
 - **DHCP サーバーを使う**：この方法は、LAN デバイスに詳細を伝えますが、IPv6 システムの中には DHCPv6 クライアント機能をサポートしていない場合があります。
 - **自動設定**：これがデフォルトの設定です。
 4. (オプション) [このインターフェイス ID を使う] チェックボックスにチェックを入れて、ルーターの LAN インターフェイスの IPv6 アドレスに使用するインターフェイス ID を指定します。

ここで ID を特定しない場合は、ルーターは ID を MAC アドレスから自動的に生成します。

5. [適用] ボタンをクリックします。

IPv6 の自動設定

- 自動設定で IPv6 インターネット接続を設定する：

1. [高度] > [高度な設定] > [IPv6] を選択します。

[IPv6] 画面が表示されます。

2. [インターネット接続タイプ] リストで、[自動設定] を選択します。

画面が次のように変更されます。

The screenshot shows the IPv6 configuration interface. At the top, there are buttons for '適用' (Apply), 'キャンセル' (Cancel), and 'ステータス更新' (Refresh Status). Below these is a dropdown menu for 'インターネット接続タイプ' (Internet Connection Type) set to '自動設定' (Automatic). The main area is divided into sections: 'DHCP ユーザクラス (必要時のみ)' (DHCP User Class (Optional)), 'DHCP ドメイン名 (必要時のみ)' (DHCP Domain Name (Optional)), and 'ルーターのIPv6 アドレス(WAN側)' (Router IPv6 Address (WAN Side)) which is marked as '利用不可' (Unavailable). Below this is the 'LAN 設定' (LAN Settings) section, including 'ルーターのIPv6アドレス(LAN側)' (Router IPv6 Address (LAN Side)) marked as '利用不可', and 'IPアドレスの割当て' (IP Address Assignment) with radio buttons for 'DHCPサーバーを使う' (Use DHCP server) and '自動設定' (Automatic), where '自動設定' is selected. At the bottom, there is a checkbox for 'このインターフェイスIDを使う' (Use this interface ID) with an empty input field.

ルーターは次の欄の情報を自動的に検出します。

- **ルーターの IPv6 アドレス (WAN 側) :** この欄には、ルーターの WAN (またはインターネット) インターフェイスの IPv6 アドレスが示されます。スラッシュ (/) の後の数字はプレフィックスの長さであり、IPv6 アドレスの下のアンダーライン () でも示されます。アドレスが取得されない場合は、[利用不可] と表示されます。
 - **ルーターの IPv6 アドレス (LAN 側) :** この欄には、ルーターの LAN インターフェイスの IPv6 アドレスが示されます。スラッシュ (/) の後の数字はプレフィックスの長さであり、IPv6 アドレスの下のアンダーライン () でも示されます。アドレスが取得されない場合は、[利用不可] と表示されます。
3. (オプション) [DHCP ユーザークラス (必要時のみ)] の欄にホスト名を入力します。
- ほとんどの場合、この項目は設定不要ですが、プロバイダーから特定のホスト名を提供された場合は、ここに入力してください。
4. (オプション) [DHCP ドメイン名 (必要時のみ)] の欄にドメイン名を入力します。

IPv6 プロバイダーのドメイン名を入力できます (IPv4 プロバイダーのドメイン名はここに入力しないでください)。例えば、プロバイダーのメールサーバーが mail.xxx.yyy.zzz の場合、ドメイン名に xxx.yyy.zzz と入力します。プロバイダーからドメイン名が提供されている場合は、この欄に入力しません (例えば、Earthlink Cable はホームのホスト名が必要であり、Comcast は通常ドメイン名を提供します)。

5. ルーターでホームネットワーク (LAN) 上のデバイスに IPv6 アドレスを割り当てる方法を、次のいずれかのラジオボタンを選択して指定します。
 - **DHCP サーバーを使う**：この方法は、LAN デバイスに詳細を伝えますが、IPv6 システムの中には DHCPv6 クライアント機能をサポートしていない場合があります。
 - **自動設定**：これがデフォルトの設定です。
6. (オプション) **[このインターフェイス ID を使う]** チェックボックスにチェックを入れて、ルーターの LAN インターフェイスの IPv6 アドレスに使用するインターフェイス ID を指定します。
ここで ID を特定しない場合は、ルーターは ID を MAC アドレスから自動的に生成します。
7. **[適用]** ボタンをクリックします。

IPv6 の 6to4 トンネル

リモートリレールーターとは、ルーターが 6to4 トンネルを設定する相手先のルーターです。IPv6 接続で 6to4 トンネルを適用する前に、IPv4 インターネット接続が機能していることを確認してください。

➤ 6to4 トンネルを使用して IPv6 インターネット接続を設定する：

1. **[高度]** > **[高度な設定]** > **[IPv6]** を選択します。
[IPv6] 画面が表示されます。
2. **[インターネット接続タイプ]** リストで、**[6to4 トンネル]** を選択します。
画面が次のように変更されます。

ルーターは次の欄の情報を自動的に検出します。

- **ルーターの IPv6 アドレス (WAN 側)**：この欄には、ルーターの WAN (またはインターネット) インターフェイスの IPv6 アドレスが示されます。スラッシュ (/) の後の数字はプレフィックスの長さであり、IPv6 アドレスの下のアンダーライン () でも示されます。アドレスが取得されない場合は、[利用不可] と表示されます。

- **ルーターの IPv6 アドレス (LAN 側)** : この欄には、ルーターの LAN インターフェイスの IPv6 アドレスが示されます。スラッシュ (/) の後の数字はプレフィックスの長さであり、IPv6 アドレスの下のアンダーライン () でも示されます。アドレスが取得されない場合は、[利用不可] と表示されます。
3. 次のいずれかのボタンを選択して、リモート 6to4 リレールーター設定を指定します。
 - **自動** : ルーターは、インターネット上で利用可能な任意のリモートリレールーターを使用します。これがデフォルトの設定です。
 - **静的 IP アドレス** : リモートリレールーターの静的 IPv4 アドレスを入力します。このアドレスは通常、IPv6 プロバイダーから提供されます。
 4. ルーターでホームネットワーク (LAN) 上のデバイスに IPv6 アドレスを割り当てる方法を、次のいずれかのラジオボタンを選択して指定します。
 - **DHCP サーバーを使う** : この方法は、LAN デバイスに詳細を伝えますが、IPv6 システムの中には DHCPv6 クライアント機能をサポートしていない場合があります。
 - **自動設定** : これがデフォルトの設定です。
 5. (オプション) **[このインターフェイス ID を使う]** チェックボックスにチェックを入れて、ルーターの LAN インターフェイスの IPv6 アドレスに使用するインターフェイス ID を指定します。

ここで ID を特定しない場合は、ルーターは ID を MAC アドレスから自動的に生成します。
 6. **[適用]** ボタンをクリックします。

IPv6 のパススルー

パススルーモードでは、ルーターは、IPv6 パケット用の 2 つのポート（LAN ポートと WAN ポート）を備えたレイヤー 2 イーサネットスイッチとして機能します。ルーターは IPv6 ヘッダパケットを処理しません。

➤ パススルー IPv6 インターネット接続を設定する：

1. [高度] > [高度な設定] > [IPv6] を選択します。
[IPv6] 画面が表示されます。
2. [インターネット接続タイプ] リストで、[パススルー] を選択します。
画面が変更しますが、追加される新しい欄はありません。
3. [適用] ボタンをクリックします。

IPv6 の固定

➤ 固定 IPv6 インターネット接続を設定する：

1. [高度] > [高度な設定] > [IPv6] を選択します。
[IPv6] 画面が表示されます。
2. [インターネット接続タイプ] リストで、[固定] を選択します。
画面が次のように変更されます。

The screenshot shows the IPv6 configuration interface. At the top, there are buttons for '適用' (Apply) and 'キャンセル' (Cancel). Below that, the 'インターネット接続タイプ' (Internet Connection Type) is set to '固定' (Fixed). The 'WAN 設定' (WAN Settings) section includes fields for 'IPv6アドレスプレフィックス長' (IPv6 Address Prefix Length), 'デフォルトIPv6ゲートウェイ' (Default IPv6 Gateway), 'プライマリDNS' (Primary DNS), and 'セカンダリDNS' (Secondary DNS). The 'LAN 設定' (LAN Settings) section includes 'IPアドレスの割当て' (IP Address Assignment) with radio buttons for 'DHCPサーバーを使う' (Use DHCP Server) and '自動設定' (Automatic Configuration), and a field for 'IPv6アドレスプレフィックス長' (IPv6 Address Prefix Length).

3. WAN 接続の固定 IPv6 アドレスを設定します。
 - **IPv6 アドレス / プレフィックス長**：ルーターの WAN インターフェイス上の IPv6 アドレスとプレフィックスの長さです。
 - **デフォルト IPv6 ゲートウェイ**：ルーターの WAN インターフェイスのデフォルト IPv6 ゲートウェイの IPv6 アドレスです。

- **プライマリ DNS** : ルーターの IPv6 ドメイン名の記録を解決するプライマリ DNS サーバーです。
- **セカンダリ DNS** : ルーターの IPv6 ドメイン名の記録を解決するセカンダリ DNS サーバーです。

メモ : DNS サーバーを指定しない場合、ルーターは、[インターネット設定] 画面で IPv4 インターネット接続用に設定された DNS サーバーを使用します (21 ページのインターネットの設定をご覧ください)。

- ルーターでホームネットワーク (LAN) 上のデバイスに IPv6 アドレスを割り当てる方法を、次のいずれかのラジオボタンを選択して指定します。
 - **DHCP サーバーを使う** : この方法は、LAN デバイスに詳細を伝えますが、IPv6 システムの中には DHCPv6 クライアント機能をサポートしていない場合があります。
 - **自動設定** : これがデフォルトの設定です。
- [IPv6 アドレス / プレフィックス長] の欄に、ルーターの LAN インターフェイスの静的 IPv6 アドレスとプレフィックス長を指定します。
ここで ID を特定しない場合は、ルーターは ID を MAC アドレスから自動的に生成します。
- [適用] ボタンをクリックします。

IPv6 DHCP

➤ DHCP サーバーを使って IPv6 インターネット接続を設定する :

- [高度] > [高度な設定] > [IPv6] を選択します。
[IPv6] 画面が表示されます。
- [インターネット接続タイプ] リストで、[DHCP] を選択します。
画面が次のように変更されます。

ルーターは次の欄の情報を自動的に検出します。

- ルーターの IPv6 アドレス (WAN 側) : この欄には、ルーターの WAN (またはインターネット) インターフェイスの IPv6 アドレスが示されます。スラッシュ (/) の後の数字はプレフィックスの長さであり、IPv6 アドレスの下のアンダーライン () でも示されます。アドレスが取得されない場合は、[利用不可] と表示されます。
 - ルーターの IPv6 アドレス (LAN 側) : この欄には、ルーターの LAN インターフェイスの IPv6 アドレスが示されます。スラッシュ (/) の後の数字はプレフィックスの長さであり、IPv6 アドレスの下のアンダーライン () でも示されます。アドレスが取得されない場合は、[利用不可] と表示されます。
3. (オプション) [DHCP ユーザークラス (必要時のみ)] の欄にホスト名を入力します。
ほとんどの場合、この項目は設定不要ですが、プロバイダーから特定のホスト名を提供された場合は、ここに入力してください。
 4. (オプション) [DHCP ドメイン名 (必要時のみ)] の欄にドメイン名を入力します。
IPv6 プロバイダーのドメイン名を入力できます (IPv4 プロバイダーのドメイン名はここに入力しないでください)。例えば、プロバイダーのメールサーバーが mail.xxx.yyy.zzz の場合、ドメイン名に xxx.yyy.zzz と入力します。プロバイダーからドメイン名が提供されている場合は、この欄に入力します (例えば、Earthlink Cable はホームのホスト名が必要であり、Comcast は通常ドメイン名を提供します)。
 5. ルーターでホームネットワーク (LAN) 上のデバイスに IPv6 アドレスを割り当てる方法を、次のいずれかのラジオボタンを選択して指定します。
 - DHCP サーバーを使う : この方法は、LAN デバイスに詳細を伝えますが、IPv6 システムの中には DHCPv6 クライアント機能をサポートしていない場合があります。
 - 自動設定 : これがデフォルトの設定です。
 6. (オプション) [このインターフェイス ID を使う] チェックボックスにチェックを入れて、ルーターの LAN インターフェイスの IPv6 アドレスに使用するインターフェイス ID を指定します。
ここで ID を特定しない場合は、ルーターは ID を MAC アドレスから自動的に生成します。
 7. [適用] ボタンをクリックします。

IPv6 PPPoE

- PPPoE IPv6 インターネット接続を設定する :
 1. [高度] > [高度な設定] > [IPv6] を選択します。
[IPv6] 画面が表示されます。
 2. [インターネット接続タイプ] リストで、[PPPoE] を選択します。

画面が次のように変更されます。

ルーターは次の欄の情報を自動的に検出します。

- **ルーターの IPv6 アドレス (WAN 側)** : この欄には、ルーターの WAN (またはインターネット) インターフェイスの IPv6 アドレスが示されます。スラッシュ (/) の後の数字はプレフィックスの長さであり、IPv6 アドレスの下のアンダーライン () でも示されます。アドレスが取得されない場合は、[利用不可] と表示されます。
 - **ルーターの IPv6 アドレス (LAN 側)** : この欄には、ルーターの LAN インターフェイスの IPv6 アドレスが示されます。スラッシュ (/) の後の数字はプレフィックスの長さであり、IPv6 アドレスの下のアンダーライン () でも示されます。アドレスが取得されない場合は、[利用不可] と表示されます。
3. [ログイン] の欄にプロバイダー接続のログイン情報を入力します。
これは通常メールアドレスで使用する名前です。例えば、メインのメールアカウントが JerAB@ISP.com の場合、この項目には JerAB と入力します。一部のプロバイダー (Mindspring、Earthlink、T-DSL など) では、ログインするときにフルメールアドレスの入力を要求することがあります。その場合は、フルメールアドレスを入力します。
 4. [パスワード] の欄にプロバイダー接続のパスワードを入力します。
 5. [サービス名] の欄に、このサービス名を入力します。
プロバイダーからサービス名が与えられていない場合は、この欄を空白にしておきます。

メモ : [接続モード] の欄のデフォルト設定は、安定した IPv6 接続を確保するために [常時接続] になっています。ルーターが接続を終了させることはありません。例えばモデムの電源が切れて接続が終了した場合は、ルーターは、PPPoE 接続が再び利用可能になるとすぐに接続の再確立を試みます。

6. ルーターでホームネットワーク (LAN) 上のデバイスに IPv6 アドレスを割り当てる方法を、次のいずれかのラジオボタンを選択して指定します。
 - **DHCP サーバーを使う** : この方法は、LAN デバイスに詳細を伝えますが、IPv6 システムの中には DHCPv6 クライアント機能をサポートしていない場合があります。

- **自動設定**：これがデフォルトの設定です。
- (オプション) **[このインターフェイス ID を使う]** チェックボックスにチェックを入れて、ルーターの LAN インターフェイスの IPv6 アドレスに使用するインターフェイス ID を指定します。
ここで ID を特定しない場合は、ルーターは ID を MAC アドレスから自動的に生成します。
 - [適用]** ボタンをクリックします。

トラフィックメーター

トラフィックメーターでは、ルーターのインターネットポートを通過するインターネットトラフィックの容量を監視することができます。トラフィックの容量の制限を設定できます。

▶ インターネットトラフィックを監視する：

- [高度] > [高度な設定] > [トラフィックメーター]** を選択します。



スクロールしてその他の設定を表示

- [トラフィックメーターを有効にする]** チェックボックスにチェックを入れます。
- (オプション) インターネットトラフィックの容量を制御します。
トラフィックの容量の制御機能が、接続時間制御機能のいずれかを使用できます。
 - **[トラフィック容量の制御]** リストから選択して、次のいずれかのオプションを選択します。
 - **制限なし**：トラフィック制限に達しても制御されません。
 - **ダウンロードのみ**：制限は受信トラフィックにのみ適用されます。
 - **双方向**：制限は受信と送信の両方のトラフィックに適用されます。
 - **[接続時間制御]** ラジオボタンを選択して、**[月次制限]** の欄に許容可能な時間を入力します。
- (オプション) 新しい接続を行ったときにデータ容量の増加に応じた料金がプロバイダーから請求される場合、**[各接続のデータ容量をラウンドアップ]** の欄に増加分のデータ容量を MB 単位で入力します。

5. [トラフィックカウンター] の欄で、トラフィックカウンターを開始する特定の日付や時刻を設定します。

トラフィックカウンターをすぐに開始させる場合は、[カウンターをリセットする] ボタンをクリックします。

6. [トラフィック制御] の欄で、ルーターが容量または時間の月次制限に達する前に警告メッセージを発行するかどうかを指定します。

デフォルトでは値は 0 で、警告メッセージは発行されません。制限に達した場合、次のいずれかの処理を選択することができます。

- インターネット LED を緑 / 黄色に点滅させる。
- インターネット接続を切断し、無効にする。

7. [適用] ボタンをクリックします。

[インターネットトラフィック統計] はデータトラフィックの監視に役立ちます。

[更新] ボタンをクリックして、[インターネットトラフィック統計] を更新します。

[トラフィックステータス] ボタンをクリックして、ルーターでのデータトラフィックに関する詳細情報を表示し、サンプリング間隔を変更します。

この章では、ご利用のルーターでトラブルが生じた場合の診断と解決方法を提供しています。ここで解決法が見つけれない場合は、NETGEAR のサポートサイト (<http://www.netgear.jp/supportInfo/>) で製品や連絡先に関する情報をご覧ください。

この章には次の内容が含まれます。

- [クイックヒント](#)
- [LED のトラブルシューティング](#)
- [ルーターにログインできない](#)
- [インターネットにアクセスできない](#)
- [変更が保存されない](#)
- [ワイヤレス接続](#)
- [ping ユーティリティを使用したネットワークのトラブルシューティング](#)

クイックヒント

ここでは、よくある一般的なトラブル解決に関するヒントをご紹介します。

ネットワークを再起動する際の順序

ネットワークを再起動する必要がある場合、次の順序に従ってください。

1. モデムの電源を切ってから、電源コードを抜きます。
2. ルーターの電源を切ります。
3. モデムを再度接続し、電源を入れます。2 分間待ちます。
4. ルーターの電源を入れ、2 分間待ちます。

ワイヤレス設定

コンピューターとルーターのワイヤレス設定を確認します。

- ワイヤレスで接続されたコンピューターについては、ルーターとコンピューターのワイヤレスネットワーク名 (SSID) とワイヤレスセキュリティ設定が完全に一致している必要があります。
- [高度なワイヤレス設定] 画面でアクセスリストを設定した場合、各ワイヤレスコンピューターの MAC アドレスをルーターのアクセスリストに追加する必要があります。


ネットワーク設定

コンピューターのネットワーク設定が正しいかどうか確認してください。

- 有線および無線接続されたコンピューターは、ルーターと同じネットワーク上のネットワーク (IP) アドレスが必要です。最も簡単な方法は、DHCP を使って自動的に IP アドレスを取得するコンピューターを使用するというものです。ほとんどのコンピューターはこのように設定されています。
- 一部のケーブルモデムサービスプロバイダーでは、アカウントにあらかじめ登録された MAC アドレスのコンピューターを使用するよう要求する場合があります。[接続デバイス] 画面で MAC アドレスを確認することができます。

LED のトラブルシューティング

ルーターの電源を入れた後、以下のことを確認してください。

1. 初めて電源を入れると、電源 LED  が点灯します。
2. 電源 LED が数秒以内に黄色に点灯し、セルフテストが実行されていることを示します。
3. 約 30 秒後に、次のことを確認してください。
 - 電源 LED が緑色に点灯します。

- インターネット LED が点灯します。
- ワイヤレスをオフにしない限り、ワイヤレス LED が点灯します。

ルーター前面の LED は、トラブルシューティングに役立ちます。

電源 LED が消灯または点滅している

- 電源コードがルーターに正しく接続されており、また電源ケーブルがしっかりとコンセントに接続されているかどうかを確認してください。
- 本製品に同梱の、専用の 12 VDC、2.5A アダプターを使用しているかどうかを確認してください。
- 電源 LED がゆっくり、ずっと点滅している場合は、ルーターのファームウェアが破損していることを意味します。これは、ファームウェアアップデートの中断やルーターがファームウェアに問題を認めた場合に起こる可能性があります。このエラーが持続する場合は、ハードウェアのトラブルを意味します。復元や、ハードウェアのトラブルに関するサポートは、テクニカルサポート (<http://www.netgear.jp/supportInfo/>) にお問い合わせください。

電源 LED が黄色のまま変化しない

ルーターの電源を入れると、電源 LED は 20 秒間ほど黄色に点灯した後、緑色に点灯します。LED が緑色に点灯しない場合、ルーターに問題が生じています。

ルーターの電源を入れてから 1 分間、電源 LED が黄色に点灯している場合：

1. 電源を切ってからもう一度入れてみて、ルーターが正常に戻るかどうか確認します。
2. [リセット] ボタンを長押しして、ルーターを工場出荷時の初期設定に戻します。

125 ページの [ping ユーティリティを使用したネットワークのトラブルシューティング](#) をご覧ください。

このエラーが続く場合は、ハードウェアに問題が生じている可能性があります。テクニカルサポート (<http://www.netgear.jp/supportInfo/>) にお問い合わせください。

LED が消えない

ルーターの電源を入れると、LED が 10 秒間ほど点灯し、そして消えます。すべての LED が点灯し続ける場合は、ルーター内部でエラーが発生していることを示します。

すべての LED が 1 分以上経過しても消えない場合：

- 電源を切ってから再度入れてみて、ルーターが正常に戻るかどうか確認します。
- [リセット] ボタンを長押しして、ルーターを工場出荷時の初期設定に戻します。詳しくは、125 ページの [ping ユーティリティを使用したネットワークのトラブルシューティング](#) をご覧ください。

このエラーが続く場合は、ハードウェアに問題が生じている可能性があります。テクニカルサポート (<http://www.netgear.jp/supportInfo/>) にお問い合わせください。

インターネット LED が消えている

ルーターの電源を入れてもインターネット LED が点灯しない場合は、以下を確認してください。

- ルーターとモデムがケーブルでしっかり接続されているかどうかを確認します。
- 接続したモデムの電源が入っているかどうかを確認します。
- 正しいケーブルを使っているかどうかを確認します。

ルーターのインターネットポートをケーブルモデムまたは DSL モデムに接続する場合は、ケーブルモデムまたは DSL モデム付属のケーブルをご使用ください。

ワイヤレス LED が消えている

ワイヤレス LED がずっと消灯している場合、ルーターのワイヤレスオン/オフボタンがオンになっていることを確認してください。このボタンでルーターのワイヤレス機能のオン/オフを切り替えることができます。ワイヤレスがオンになっている場合、ワイヤレス LED は点灯します。

ルーターにログインできない

ローカルネットワークのコンピューターからルーターにログインできない場合は、以下を確認してください。

- ローカルエリアネットワーク (LAN) に 接続されたコンピューターを使用している場合は、コンピューターとルーターの接続を確認します。
- ブラウザーが Java、JavaScript、ActiveX に対応していることを確認します。Internet Explorer をお使いの場合は、**[更新]** をクリックして Java アプレットを読み込んでください。
- ブラウザーを終了してから再度立ち上げます。
- 正しいログイン情報を使用していることを確認します。デフォルトのログイン名は **admin**、パスワードは **password** です。キーボード入力の際は Caps Lock がオフになっていることも確認してください。
- ルーターを設定しようとしていて、ネットワークに別のルーターが存在する場合は、ブリッジモードを使用していることを確認します。95 ページの [ブリッジモードでのルーターの設定](#) をご覧ください。
- ルーターをネットワークの ADSL ゲートウェイの代替として設定する場合、ルーターは一部のゲートウェイサービスを提供できません。例えば、ルーターは ADSL やケーブルデータをローカルネットワークのネットワークキング情報に変換するといったことはできません。NETGEAR はこのような設定はサポートしておりません。
- ネットワークの IP アドレスを指定する場合：
 - コンピューターの IP アドレスが、ルーターと同じサブネットにあることを確認します。推奨されるアドレススキームを使用している場合、コンピューターのアドレスは 192.168.1.2 ~ 192.168.1.254 の間になります。

- コンピューターの IP アドレスが 169.254.x.x のように表示されている場合は、Windows または Mac OS が DHCP サーバーに接続できないときに、IP アドレスを生成し、割り当てています。これらの自動生成されたアドレスは、169.254.x.x の範囲内となります。IP アドレスがこの範囲内にある場合は、コンピューターからルーターへの接続を確認し、コンピューターを再起動してください。
- ルーターの IP アドレスが変更され、現在の IP アドレスが分からない場合は、ルーターの設定を工場出荷時の初期設定に戻してください。初期設定に戻すと、ルーターの IP アドレスが 192.168.1.1 に戻ります。詳しくは、128 ページの [初期設定](#) をご覧ください。

インターネットにアクセスできない

ルーターにはアクセスできるものの、インターネットにアクセスできない場合は、まずルーターがプロバイダー (ISP) から IP アドレスを取得できるかどうか確認してください。プロバイダーが固定 IP アドレスを提供している場合を除き、ルーターはプロバイダーに IP アドレスを要求します。[ルーターのステータス] 画面で、リクエストが成功したかどうかを確認することができます。

▶ WAN IP アドレスを確認する：

1. ご利用のルーターに接続されているコンピューターのブラウザを起動し、www.netgear.com などの外部サイトを選択します。
2. www.routerlogin.net から NETGEAR genie にアクセスします。
3. [高度] > [管理者] > [ルーターのステータス] を選択します。
4. インターネットポート部分に IP アドレスが表示されているかどうか確認します。0.0.0.0 と表示された場合、ルーターはプロバイダーから IP アドレスを取得していないことになります。

ルーターがプロバイダーから IP アドレスを取得できない場合、ネットワークを再起動させて、ケーブルモデムまたは DSL モデムに新しいルーターを認識させる必要があります。詳しくは、118 ページの [ネットワークを再起動する際の順序](#) を再起動する際の順序をご覧ください。

それでもルーターがプロバイダーから IP アドレスを取得できない場合、以下のいずれかの問題が考えられます。

- プロバイダー (ISP) がログインプログラムを必要としている可能性があります。プロバイダーに、PPPoE (PPP over Ethernet) やその他のタイプのログインが必要かどうか、問い合わせてください。
- プロバイダーがログインを必要としている場合、ログイン名とパスワードが間違っている可能性があります。
- プロバイダーがコンピューターのホスト名をチェックしている可能性があります。[インターネット設定] の画面で、アカウント名にプロバイダーのホスト名を指定してください。
- ご利用のプロバイダーが 1 つの MAC アドレスのみをインターネット接続するよう許可しており、コンピューターの MAC アドレスをチェックしている場合があります。この場合は、以下のいずれかを行います。

- プロバイダーに対し、新しいネットワークデバイスを購入したことを伝え、ルーターの MAC アドレスを使用するよう伝えてください。
- コンピューターの MAC アドレスをクローンするよう、ルーターを設定してください。

ルーターが IP アドレスを取得しても、コンピューターがインターネットの Web ページを読み込むことができない場合：

- お使いのコンピューターは DNS サーバーアドレスを認識できない可能性があります。
DNS サーバーは、インターネット名（www アドレスなど）を数字の IP アドレスに変換するためのインターネット上のホストです。通常、ご利用のプロバイダーが DNS サーバーのアドレスを 1 つか 2 つ提供しています。ルーターの設定時に DNS アドレスを入力した場合、コンピューターを再起動し、DNS アドレスを確認してください。また、コンピューターに手動で DNS アドレスを指定することもできます。詳しくはご利用のオペレーティングシステムの取扱説明書をご覧ください。
- ご利用のコンピューターでルーターが TCP/IP ゲートウェイとして設定されていない可能性があります。
コンピューターがその情報を DHCP によりルーターから取得している場合、コンピューターを再起動し、ゲートウェイアドレスを確認してください。
- すでに不要になったログインソフトウェアを実行している可能性があります。
ご利用のプロバイダーがインターネットへのログイン用プログラム（WinPoET など）を提供している場合、ルーターをインストールした後は、このソフトウェアは不要になります。Internet Explorer を開き、[ツール] > [インターネットオプション] へ進み、[接続] タブを選択して、[ダイヤルしない] を選択します。

PPPoE のトラブルシューティング

PPPoE を使用している場合、インターネット接続のトラブルシューティングを試してください。

➤ PPPoE 接続のトラブルシューティングを行う：

1. [高度] > [管理者] > [ルーターのステータス] を選択します。
2. [接続ステータス] をクリックします。
3. [接続ステータス] の表示を確認します

[接続ステータス] 画面のいずれかの欄に [失敗] と表示されている場合、使用しているサービス名、ユーザー名、またはパスワードが間違っている可能性があります。また、プロバイダーのプロビジョニングに問題がある可能性もあります。

メモ：手動で接続しない場合、ルーターは、データがネットワークに送信されるまで、PPPoE を使用して認証しません。

インターネットブラウジングのトラブルシューティング

ルーターが IP アドレスを取得しても、コンピューターがインターネットの Web ページを読み込むことができない場合は、以下を確認してください。

- お使いのコンピューターは DNS サーバーアドレスを認識できない可能性があります。DNS サーバーは、インターネット名 (www アドレスなど) を数字の IP アドレスに変換するためのインターネット上のホストです。

通常、ご利用のプロバイダーが DNS サーバーのアドレスを 1 つか 2 つ提供しています。ルーターの設定時に DNS アドレスを入力した場合、コンピューターを再起動してください。

または、お使いのコンピューターのマニュアルに従って、コンピューターで DNS アドレスを手動で設定することもできます。

- ご利用のコンピューターでルーターがデフォルトのゲートウェイとして設定されていない可能性があります。

コンピューターを再起動して、ルーターのアドレス (www.routerlogin.net) がデフォルトのゲートウェイアドレスとしてリストされていることを確認します。

- すでに不要になったログインソフトウェアを実行している可能性があります。ご利用のプロバイダーがインターネットへのログイン用プログラム (WinPoET など) を提供している場合、ルーターをインストールした後は、このソフトウェアは不要になります。Internet Explorer を開き、[ツール] > [インターネットオプション] へ進み、[接続] タブを選択して、[ダイヤルしない] を選択します。

変更が保存されない

ルーターで設定の変更ができない場合、以下を確認してください。

- 設定を行うときに、別のメニューやタブに移動する前に必ず **[適用]** ボタンを押して設定を確定してください。押し忘れると変更は無効になります。
- Web ブラウザーの **[更新]** ボタンをクリックしてください。変更が有効になっても、古い設定がまだ Web ブラウザーのキャッシュに残っている可能性があります。

ワイヤレス接続

ワイヤレスでルーターに接続できない場合は、以下の方法を試してみてください。

- 使用中のワイヤレスデバイスまたはコンピューターで、ワイヤレスネットワークが検出されていますか？

検出されていない場合、ルーター前面のワイヤレス LED を確認してください。消灯している場合は、ルーター側面のワイヤレスオン / オフボタンを押して、ルーターのワイヤレスをオンに戻すことができます。

ルーターの SSID ブロードキャストを無効にした場合、ワイヤレスネットワークは非表示になり、ワイヤレスクライアントのスクリーンリストに表示されなくなります（デフォルトでは、SSID ブロードキャストは有効になっています）。

- ご利用のワイヤレスデバイスが、ワイヤレスネットワークで使われているセキュリティ（WPA または WPA2）に対応しているかご確認ください。
- 現在のルーターのワイヤレス設定を確認する場合は、イーサネットケーブルを使ってコンピューターをルーターの LAN ポートに接続します。その後ルーターにログインし、**[基本]** > **[ワイヤレス]** を選択します（25 ページの **基本的なワイヤレス設定** を参照）。

メモ： 設定を変更した場合は、必ず **[適用]** をクリックしてください。

ワイヤレスデバイスがネットワークにつながったものの、信号強度が弱い場合は、以下の条件を確認してください。

- ルーターがコンピューターから離れすぎている、または近すぎることはありませんか？コンピューターをルーターの近くに置く必要がありますが、最低でも 1.8 メートルは離して設置し、信号強度が改善されるかどうか試してください。
- ルーターとコンピューターの間に、ワイヤレス信号を妨害している障害物はありませんか？

ping ユーティリティを使用したネットワークのトラブルシューティング

ほとんどのネットワークデバイスとルーターには、送信先のデバイスにエコー要求パケットを送信する ping ユーティリティが組み込まれています。送信先のデバイスが続いてエコー応答を返します。コンピューターまたはワークステーションで ping ユーティリティを使用して、簡単にネットワークのトラブルシューティングを行えます。

ルーターへの LAN パスのテスト

コンピューターからルーターに ping を送信して、ルーターへの LAN パスが正しく設定されているかどうかを確認できます。

➤ **Windows コンピューターからルーターに ping を送信する：**

1. Windows のスタートメニューから、[ファイル名を指定して実行] を選択します。

[ファイル名を指定して実行] が表示されない場合は、スタートメニューから [すべてのプログラム] > [アクセサリ] > [コマンドプロンプト] を選択します。

2. 次の例に示すように、表示された欄に「ping」に続けてルーターの IP アドレスを入力します。

```
ping www.routerlogin.net
```

3. [OK] をクリックします。

次のようなメッセージが表示されます。

```
Pinging <IP address > with 32 bytes of data
```

パスが有効な場合は、次のメッセージが表示されます。

```
Reply from < IP address >: bytes=32 time=NN ms TTL=xxx
```

パスが有効でない場合は、次のメッセージが表示されます。

```
Request timed out
```

パスが正しく機能していない場合、次のいずれかの問題が発生している可能性があります。

- 物理的な接続に不具合がある

有線接続の場合、接続先のポート番号に対応する LAN ポート LED が点灯していることを確認します。

ネットワークデバイスに対応する LED が点灯していることを確認します。ルーターとコンピューターが個別のイーサネットスイッチに接続している場合、コンピューターおよびルーターに接続しているスイッチポートのリンク LED が点灯していることを確認してください。

- ネットワーク設定に不具合がある

イーサネットカードのドライバーソフトウェアおよび TCP/IP ソフトウェアがどちらもコンピューターにインストールされ、設定されていることを確認します。

ルーターおよびコンピューターの IP アドレスが正しく、そのアドレスが同じサブネット上にあることを確認します。

コンピューターからリモートデバイスへのパスのテスト

LAN パスが正しく機能することを確認した後、コンピューターからリモートデバイスへのパスをテストします。

1. Windows のスタートメニューから、[スタート] ボタンをクリックし、[ファイル名を指定して実行] を選択します。

[ファイル名を指定して実行] が表示されない場合は、スタートメニューから [すべてのプログラム] > [アクセサリ] > [コマンドプロンプト] を選択します。

2. Windows の [ファイル名を指定して実行] ウィンドウで次のように入力します。

```
ping -n 10 <IP address>
```

ここで、<IP address> は、ISP DNS サーバーなどのリモートデバイスの IP アドレスです。

パスが正しく機能している場合、前のセクションで示したメッセージに似た応答が表示されます。

応答を受信しない場合：

- コンピューターで、デフォルトゲートウェイとしてルーターの IP アドレスがリストされていることを確認します。コンピューターの IP 設定が DHCP によって割り当てられている場合、この情報はコンピューターのネットワークコントロールパネルには表示されません。ルーターの IP アドレスがデフォルトゲートウェイとしてリストされていることを確認してください。
- コンピューターのネットワークアドレス (IP アドレスの、サブネットマスクで指定された部分) がリモートデバイスのネットワークアドレスと異なっていることを確認します。
- ケーブルモデムまたは DSL モデムが接続され機能していることを確認します。
- プロバイダーがコンピューターにホスト名を割り当てている場合、[インターネット設定] 画面でアカウント名としてそのホスト名を入力します。
- プロバイダーが、お使いのコンピューターの MAC アドレスを除いてすべての MAC アドレスを拒否している可能性があります。

多くのブロードバンドプロバイダーでは、ブロードバンドモデムの MAC アドレスからのトラフィックだけを許可するようにアクセスを制限しています。一部のプロバイダーではさらに、そのモデムに接続した 1 台のコンピューターの MAC アドレスにアクセスを制限しています。この場合は、承認されたコンピューターから MAC アドレスを「クローン」または「偽装」するようにルーターを設定してください。

補足情報



この補足情報では次の内容を取り上げます。

- 初期設定
- 技術仕様

初期設定

ルーターを工場出荷時の初期設定に戻すには、ペーパークリップの端や、その他の細い物を使い、ルーター本体の [リセット] ボタンを 7 秒間以上長押しします。ルーターは再起動し、下表のような工場出荷時の初期設定に戻ります。

表 3. 初期設定

機能	初期設定の動作	
ルーター ログイン	ユーザーログイン URL	www.routerlogin.com または www.routerlogin.net
	ユーザー名（大文字と小文字を 区別）	admin
	ログインパスワード（大文字と小 文字を区別）	password
インターネット 接続	MAC アドレス	デフォルトのハードウェアアドレスを使う
	MTU サイズ	1500
	ポート速度	自動検知
ローカル ネットワーク (LAN)	IP アドレス	192.168.1.1
	サブネットマスク	255.255.255.0
	DHCP サーバー	Enabled
	DHCP 範囲	192.168.1.2 ~ 192.168.1.254
	レジストラによるこのルーターの 設定を許可	有効
	DHCP 開始 IP アドレス	192.168.1.2
	DHCP 終了 IP アドレス	192.168.1.254
	DMZ	無効
	タイムゾーン	国・地域により異なる
	サマータイムに合わせて調整され たタイムゾーン	無効
	SNMP	無効
ファイア ウォール	着信（インターネットからの通信）	無効（HTTP ポート 80 のトラフィックを除く）
	送信（インターネットへの通信）	有効（すべて）
	ソース MAC フィルタ	無効

表 3. 初期設定 (続き)

機能		初期設定の動作
ワイヤレス	ワイヤレス通信	有効
	SSID 名	ルーターラベルを参照
	セキュリティ	WPA2-PSK (AES)
	ブロードキャスト SSID	有効
	通信速度	自動*
	国 / 地域	国・地域により異なる
	RF チャンネル	国・地域が選択されるまでは 6
	動作モード	2.4 GHz で最大 217 Mbps、5 GHz で最大 1300 Mbps
ファイアウォール	着信 (インターネットからの通信)	無効 (一方的に送られたすべてのリクエストを除外)
	送信 (インターネットへの通信)	有効 (すべて)

*. IEEE 標準 802.11 規格からの最大ワイヤレス信号速度です。実際の処理能力は異なります。ネットワーク状況、作業環境 (ネットワークトラフィック量、建材、構造、ネットワークオーバーヘッドなど) が実際のデータ処理速度に影響します。

技術仕様

表 4. R6300 ルーター仕様

機能	説明
データとルーティング プロトコル	TCP/IP、RIP-1、RIP-2、DHCP、PPPoE、PPTP、Bigpond、ダイナミック DNS、UPnP、SMB
電源アダプター	<ul style="list-style-type: none"> 北アメリカ：120V、60 Hz、入力 UK、オーストラリア：240V、50 Hz、入力 ヨーロッパ：230V、50 Hz、入力 すべての地域（出力）：12 VDC @ 2.5A、出力
消費電力	25.62 W
寸法	寸法：191 x 198.5 x 65 mm
重量	重量：430 g
動作温度	0° ~ 40°C
動作湿度	最大 90%、結露しないこと
取得規格	FCC Part 15 Class B VCCI Class B EN 55 022 (CISPR 22)、Class B C-Tick N10947
LAN	10BASE-T または 100BASE-Tx または 1000BASE-T、RJ-45
WAN	10BASE-T または 100BASE-Tx または 1000BASE-T、RJ-45
ワイヤレス	最大ワイヤレス信号速度は IEEE 802.11 標準に準拠。前の表の注釈を参照。
無線データ速度	自動速度探知
無線 LAN 規格	IEEE 802.11ac 2.0 IEEE 802.11n バージョン 2.0 IEEE 802.11n、IEEE 802.11g、IEEE 802.11b 2.4 GHz IEEE 802.11n、IEEE 802.11a 5.0 GHz
ワイヤレスネットワークごとの 最大コンピューター数	ノードごとに生成されるワイヤレスネットワークトラフィック量によって制限 (通常は 50 ~ 70 ノード)。
動作周波数範囲	2.4 GHz 2.412 ~ 2.462 GHz (US) 2.412 ~ 2.472 GHz (日本) 2.412 ~ 2.472 GHz (ヨーロッパ ETSI) 5 GHz 5260 ~ 5320 + 5500 ~ 5700 GHz (US) 5.18 ~ 5.24 GHz (ヨーロッパ ETSI)
802.11 セキュリティ	WPA-PSK、WPA2-PSK、および WPA/WPA2

適合性に関するお知らせ



NETGEAR Dual Band - Wireless

各種規格との適合

ここでは、本製品を電波スペクトルの使用および無線装置の操作に関する国内法令に基づいて使用するためのユーザー要件が含まれます。エンドユーザーが適用要件に符合できない場合、国内規制当局により、エンドユーザーに対して不法な操作や不利益な動作を招く恐れがあります。

本製品のファームウェアにより、本製品は特定の地域または国で許可されたチャンネルでのみ操作できるよう制限されています。このため、本ユーザーガイドに記載されたすべてのオプションが利用できるというわけではありません。

ヨーロッパ - EU 適合宣言

CE のマークが付いた製品は、以下の EU 適合宣言に準拠しています。

- EMC Directive 2004/108/EC
- Low Voltage Directive 2006/95/EC

本製品に通信機能がある場合は、以下の EU 適合宣言の要件にも準拠します。

- R&TTE Directive 1999/5/EC

これらの適合宣言に準拠していることは、EU 適合宣言に記されているヨーロッパ統一規格に準拠することを意味します。

すべての EU 加盟国、EFTA 加盟国、およびスイスでは、室内での使用だけに限られています。

フランスでは、本機を屋外接続用には使用することはできません。地域によっては、RF 出力電源が 10 mW EIRP、周波数 2454 ~ 2483.5 MHz に限定される場合があります。エンドユーザーの情報については、フランスのスペクトル協会にお問い合わせください。

米国における FCC の動作要件

FCC からユーザーへのお知らせ

本機にはユーザーが自ら修理できる部分は含まれておりません。また、承認されたアンテナのみをお使いください。製品に対して変更や修正が加えられた場合、すべての適用規定の証明および承認を無効化します。

FCC からの人体への暴露に関するガイドライン

本装置は、無規制環境に対して設定された FCC 放射線被曝制限に適合しています。本装置の設置および操作は、放射体および使用者の身体から 20 cm 以上離れた場所で行ってください。

この送信機は、他のアンテナや送信機と併用したり、共同設置したりしないでください。

FCC の適合宣言

弊社 NETGEAR（所在：350 East Plumeria Drive, San Jose, CA 95134）は、弊社単独の責任のもと、R6300 デュアルバンド・ワイヤレスルーターが FCC CRF 47 規則の Part 15 Subpart B に適合していることを宣言します。本機の操作は以下の対象となります。

- 本機は有害な干渉を起こしません。
- 本機は、予想外の動作の原因となる干渉を含め、いかなる干渉に対しても影響を受けません。

FCC の無線周波妨害に関する警告および説明

この製品は FCC 規定 Part 15 に記載されている Class B デジタル装置としてのテストを受け、その条件を満たしています。これらの条件は、本機を住宅地域において操作する上で、有害な干渉から保護されるよう定められています。本機はラジオ周波数を使用および放射しますので、マニュアルどおり正しく設置されていない場合は有害な無線干渉を招く恐れがあります。ただし、正しく設置されている場合においても、絶対に干渉を招かないという保障はありません。本機がラジオもしくはテレビ受信に対して干渉を招き、電源を入れたり切ったりすることで、本機が原因であることが明らかである場合は、以下の要領で干渉の修正を試みてください。

- 受信アンテナを再編成するか、位置を移動する。
- 本機と受信機の間隔を広げる。
- 本機を、受信機が接続されているものとは別の電源に接続し直す。
- ラジオ / テレビの専門技師に問い合わせる。

注意：

- 弊社の代表により明示的に承認されていない本機への変更や修正を行うと、本機を使用するユーザーの権限が無効になる場合があります。
- 本機は FCC 規則 Part 15 に準拠しています。本機の操作は、次の条件の対象となります。(1) 本機は有害な干渉を引き起こしてはならない、(2) 本機は予期せぬ動作を招く可能性のあるものを含め、あらゆる干渉を受信する必要がある。
- 米国およびカナダ市場で販売される製品は、チャンネル 1 ~ 11 のみが有効です。その他のチャンネルを選ぶことはできません。
- Pour les produits disponibles aux États-Unis / Canada du marché, seul le canal 1 à 11 peuvent être exploités. Sélection d'autres canaux n'est pas possible.
- 本機とそのアンテナは、FCC/IC マルチトランスミッター製品の手順に従った場合を除き、他のアンテナや送信機と併設または同時に使用できません。
- Cet appareil et son antenne (s) ne doit pas être co-localisés ou fonctionner en association avec une autre antenne ou transmetteur.

カナダ通信省無線干渉規制

本デジタル装置 (R6300 デュアルバンド・ワイヤレスルーター) は、カナダ通信省の無線干渉規則に定められた、デジタル装置からの電波雑音放出のクラス B 制限を超えません。

このクラス [B] デジタル装置は、カナダ ICES-003 に準拠します。

Cet appareil numérique de la classe [B] est conforme à la norme NMB-003 du Canada

カナダ産業界 (IC)

本機は IC 規定の RSS-210 に準拠しています。本機の操作は、次の条件の対象となります。(1) 本機は有害な干渉を引き起こしてはならない、(2) 本機は予期せぬ動作を招く可能性のあるものを含め、あらゆる干渉を受信する必要があります。

重要：被曝に関する声明：

本機は、無規制環境に対して設定された IC 放射線被曝制限に適合しています。本機の設置および操作は、放射体および使用者の身体から 20 cm 以上離れた場所で行ってください。

注意：

5250 ~ 5350 MHz および 5650 ~ 5850 MHz の主なユーザー (優先的なユーザー) としては高出力レーダーが割り当てられており、これらのレーダーは LE-LAN 機器に干渉または損害を招く恐れがあります。

Ce dispositif est conforme à la norme CNR-210 d'Industrie Canada applicable aux appareils radio exempts de licence. Son fonctionnement est sujet aux deux conditions suivantes: (1) le dispositif ne doit pas produire de brouillage préjudiciable, et (2) ce dispositif doit accepter tout brouillage reçu, y compris un brouillage susceptible de provoquer un fonctionnement indésirable.

1. 5250 ~ 5350 MHz、5470 ~ 5600 MHz、および 5650 ~ 5725 MHz の帯域で動作する機器の DFS (Dynamic Frequency Selection)。

Sélection dynamique de fréquences (DFS) pour les dispositifs fonctionnant dans les bandes 5250-5350 MHz, 5470-5600 MHz et 5650-5725 MHz

2. e.i.r.p. 制限に準拠するために、許容される最大アンテナゲイン（5250 ~ 5350 MHz および 5470 ~ 5725 MHz の帯域の機器の場合）。

le gain maximal d' antenne permis pour les dispositifs utilisant les bandes 5250-5350 MHz et 5470-5725 MHz doit se conformer à la limite de p.i.r.e.

3. ユーザーには、高出力レーダーが、5250 ~ 5350 MHz および 5650 ~ 5850 MHz の帯域の主なユーザー（優先的なユーザー）として割り当てられていること、およびこれらのレーダーが LE-LAN 機器に干渉または損害を招く恐れがあることを忠告する必要があります。

De plus, les utilisateurs devraient aussi être avisés que les utilisateurs de radars de haute puissance sont désignés utilisateurs principaux (c.-à-d., qu' ils ont la priorité) pour les bandes 5250-5350 MHz et 5650-5850 MHz et que ces radars pourraient causer du brouillage et/ou des dommages aux dispositifs LAN-EL.

4. 機器は、送信する情報がなかったり、動作に異常があった場合に、自動的に送信を切断できます。これは、技術的に必要な場合に、制御または信号情報の転送や、反復型のコードの使用を禁止することを意図していません。

Le dispositif pourrait automatiquement cesser d'émettre en cas d'absence d'informations à transmettre, ou une défaillance opérationnelle. Notez que ce n'est pas l'intention d'interdire la transmission des informations de contrôle ou de signalisation ou l'utilisation de codes répétitifs lorsque requis par la technologie.

NOTE IMPORTANTE: Déclaration d'exposition aux radiations:

Cet équipement est conforme aux limites d'exposition aux rayonnements IC établies pour un environnement non contrôlé. Cet équipement doit être installé et utilisé avec un minimum de 20 cm de distance entre la source de rayonnement et votre corps.

Avertissement:

Le dispositif fonctionnant dans la bande 5150-5250 MHz est réservé uniquement pour une utilisation à l'intérieur afin de réduire les risques de brouillage préjudiciable aux systèmes de satellites mobiles utilisant les mêmes canaux.

干渉低減表

次の表に、干渉を低減するために推奨する、NETGEAR 製品と家電製品との最低距離を示します（メートル単位）。

家電製品	推奨の最低距離 (メートル単位)
電子レンジ	9 メートル
ベビーモニター - アナログ	6 メートル
ベビーモニター - デジタル	12 メートル
コードレス電話 - アナログ	6 メートル
コードレス電話 - デジタル	9 メートル
Bluetooth デバイス	6 メートル
ZigBee	6 メートル